

# 家畜保健衛生所事業成績 及び業績発表会集録

令和6年度

宮崎県農政水産部 畜産局

## はじめに

現在の畜産業は、昨今の飼料・燃油をはじめとする各種資材の高騰や、担い手不足の深刻化、国際貿易競争の激化など数多くの課題に直面している状況です。

このため、本県では、令和3年9月に策定した「みやざき畜産共創プラン」に基づき「家畜防疫の強靱化」、「持続可能な畜産振興」、「販売・関連産業の発展」を3つの大きな柱として、持続可能な魅力ある強くてしなやかな畜産業の発展を目指した取組を進めています。

このような中、今年、本県における口蹄疫の終息から15年の節目を迎えました。それ以降国内での発生はありませんが、韓国では今年3月に口蹄疫が発生し、4月には豚農場での発生が確認されました。インバウンド需要の高まりを受け、本県と韓国を結ぶ航空定期便が就航していることから、人や物によるウイルスの持ち込みに対し、厳重に警戒する必要があります。

また、豚熱については、本年4月に本県において初となる野生いのししでの感染が確認され、これまでに20事例が報告されています。県では、野生いのししの捕獲強化等を進めていますが、野生いのししを介した感染拡大も懸念され、農場へのウイルス侵入リスクはこれまでになく高い状況にあります。

また、高病原性鳥インフルエンザについて、昨年度は、県内において2件の発生がありました。今年度も、9月には韓国の家きん農場で発生が確認されていますので、これから渡り鳥の飛来シーズンを迎え、ウイルスの侵入リスクが一段と高まっております。

これらの状況を踏まえ、県としましては、改めて「常在危機」の意識を徹底し、防疫の4本柱として掲げている「水際防疫」、「地域防疫」、「農場防疫」及び「迅速な防疫措置」について、関係者一体となって県内における防疫レベルの『高位平準化』に取り組んでまいります。

具体的には、本県の玄関口となる空港・港湾等での水際防疫の徹底、市町村や畜産関係団体と連携した地域単位での発生予防及びまん延防止対策の徹底、さらには、家畜保健衛生所の農場立入検査による飼養衛生管理基準の遵守状況の確認や研修会等での指導・啓発のほか、迅速かつ的確な病性鑑定及び機能的サーベイランス等による各種疾病の監視体制強化に努めてまいります。

さらに、万が一の発生に備え、県域及び地域において防疫演習を開催するとともに、畜種ごとに家畜伝染病の発生を想定した防疫計画を作成することで、経験の浅い若手職員の資質向上も図ってまいります。

これらの取組に加え、NOSAI等の診療獣医師と連携した損耗防止対策についても引き続き推進し、県内全体での更なる生産性向上を図ってまいりますので、今後も関係者のみなさまの御理解と御協力をお願いいたします。

ここに、本県の家畜保健衛生所における令和6年度の事業成績をとりまとめましたので、業務の参考にしていただければ幸いです。

令和7年10月

宮崎県農政水産部畜産局長 林田 宏昭



宮崎家畜保健衛生所



都城家畜保健衛生所



延岡家畜保健衛生所

# 目 次

## I 概要

1	家畜保健衛生所の変遷	1
2	家畜保健衛生所等配置図	2
3	家畜保健衛生所の現況	3
4	獣医師数	4
5	家畜人工授精師数及び家畜人工授精業務に従事する獣医師数	
	(1)【業種別】人工授精師数及び獣医師数	5
	(2)【資格別】人工授精師数(資格保有者数)	6
6	飼育動物診療施設数及び家畜人工授精所数	
	(1)飼育動物診療施設数	7
	(2)家畜人工授精所数	8
7	動物用医薬品販売業者数	9
8	飼料取扱業者数	9

## II 事業成績

1	家畜衛生関係業務体系	10
2	家畜防疫対策	
	(1)家畜伝染病予防事業市町村別実施状況	11
	(2)病性鑑定事業実績	
	ア 病性鑑定実施状況	12
	イ 病性診断実施状況	12
	ウ 家畜別病性鑑定成績	13
	エ 検査項目別診断実績	14
	(3)輸入家畜等の検査状況	15
	(4)監視伝染病の発生状況	
	ア 家畜伝染病	16
	イ 届出伝染病	16
	ウ 年次別家畜伝染病発生状況	17
	(5)豚熱ワクチン接種に係る免疫付与状況確認検査	18
	(6)野生いのしし検査状況	20
3	家畜衛生対策	
	(1)家畜衛生技術指導事業実績	21
	(2)産業動物関連獣医師確保修学資金給付事業	21
	(3)高病原性鳥インフルエンザ対策事業	
	ア 防疫指針による定点モニタリング検査	22
	イ 防疫指針による強化モニタリング検査	22
	(4)動物薬事対策事業実績	
	ア 動物用医薬品販売業の許可に関する業務実績	23

イ	動物用医薬品危機管理対策事業の品質確保検査実績	23
ウ	動物薬事監視結果の概要	24
(5)	飼育動物診療施設立入検査結果の概要	25
4	家畜改良対策	
(1)	種畜検査実施状況	26
(2)	家畜人工授精指導事業	
ア	家畜人工授精師・家畜人工授精所の認可等に関する業務	27
イ	家畜人工授精所立入検査結果の概要	28
(3)	家畜人工授精及び家畜受精卵移植成績	
ア	家畜別種付け及び家畜人工授精成績	29
イ	家畜体内受精卵移植成績	30
ウ	家畜体外受精卵移植成績	31
エ	体内受精卵採取及び処理成績	31
オ	体外受精卵採取及び処理成績	31
5	飼料対策	
	飼料取扱業者立入検査実績	32
6	自衛防疫推進事業	
	市町村別予防注射実施成績	33
7	牛のアルボウイルス感染症サーベイランス	35
8	家畜衛生講習会等受講状況	37
9	家畜防疫演習等実施状況	37
Ⅲ	家畜保健衛生業績発表会集録	
	令和6年度家畜保健衛生業績発表会演題目次	38
	令和6年度家畜保健衛生業績発表会演題	39
	業績発表会過去演題一覧（平成27年度～令和6年度）	77

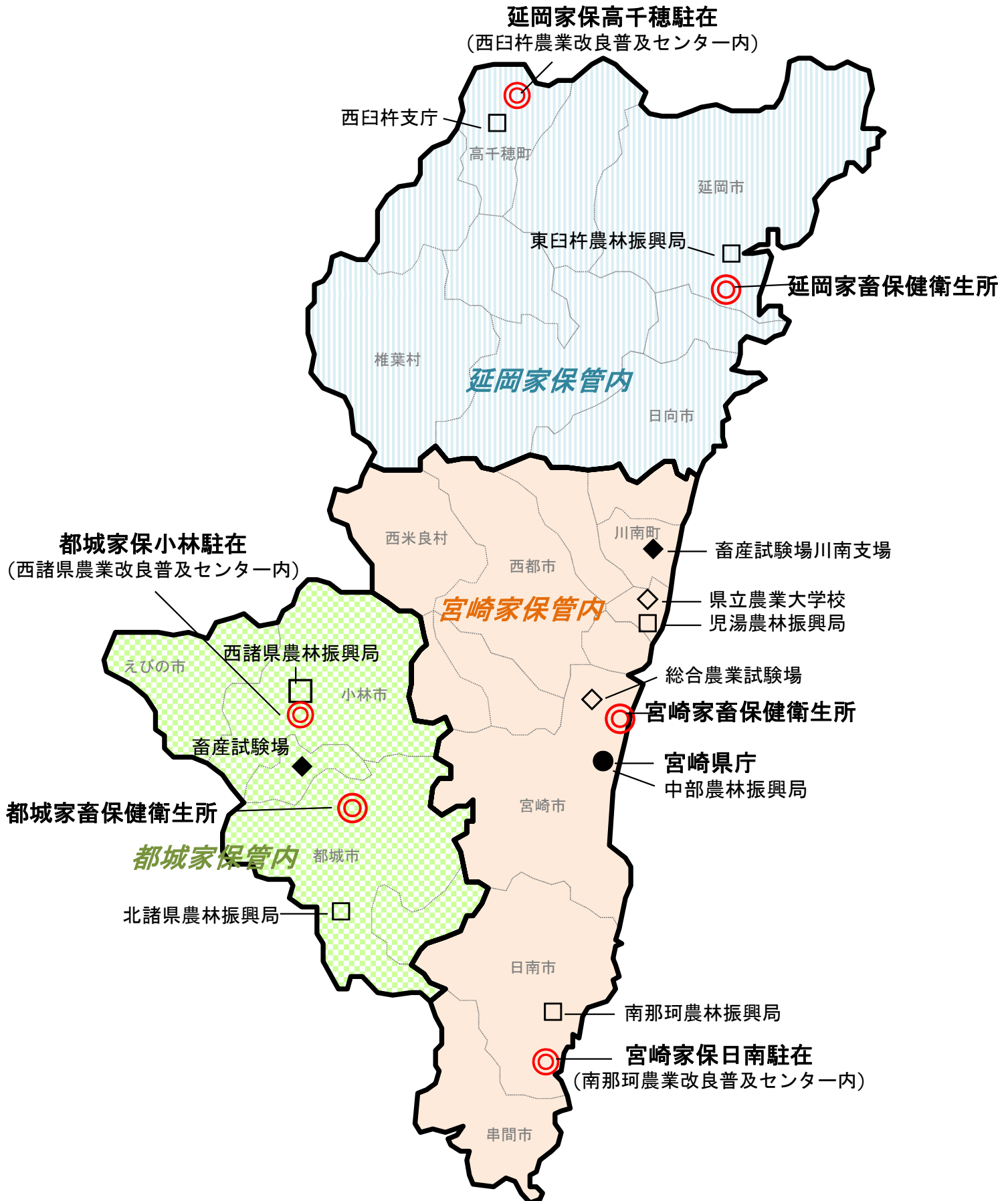
# I 概 要

令和6年度

1 家畜保健衛生所の変遷

	年 度	家保数	職 員			事務・その他	家保の名称等	備 考
			計	獣医	畜産			
昭和	25~27	12	46	40		6	25年開設...延岡, 小林, 福島(串間), 妻(西都)七折(日之影) 26年開設...都城, 日南, 高鍋 27年開設...宮崎, 本庄(国富), 日向, 高千穂 35年移転...延岡	( )は名称変更
	37	12	54	39		15	開設...諸塚 廃止...日之影	
	41	3(9)	56	45		11	整備統合 宮崎(支所...日南, 串間, 国富, 西都, 高鍋) 都城(支所...小林) 延岡(支所...日向, 高千穂, 諸塚)	( )内は支所
	43	3(2)	55	45		10	組織替え, 統合廃止 宮崎(駐在: 串間), 4支所廃止 都城(駐在: 小林) 延岡 3支所廃止	( )内は駐在所
	46	3	51	42		9	統合廃止...小林駐在廃止	
	47						47年移転...宮崎	
	53	3(1)	51	42		9	組織替え...都城(小林駐在設置)	
	55~56	3(1)	51	42		9	55年移転...延岡 組織替え...宮崎	
	57~59	3(1)	50	41		9		
	60	3(1)	51	42		9		
	61~63	3(1)	49	40		9		
平成	元~2	3(1)	48	39		9		
	3~6	3(1)	49	38	2	9		
	7~8	3	49	38	3	8	7年移転...都城(小林駐在廃止)	
	9	3	47	37	3	7		
	10	3	48	39	2	7		
	11	3	45	39		6		
	12~14	3	46	40		6		
	15~16	3	53	44	3	6	都城家保BSE検査室を(旧)高城町に設置 検査開始(H16.1~)	
	17	3	54	45	3	6	宮崎家保管理課を管理飼料課へ改称 (飼料検査部門統合)	
	18	3	54	46	3	5		
	19	3	52	44	3	5		
	20	3	50	42	3	5	宮崎家保に検査棟新設(H21.1)	
	21	3	50	42	4	5	宮崎家保の本館改修及び解剖棟新設(H22.3)	
	23	3	51	43	5	3	延岡家畜保健衛生所新築移転(H23.3) 課名改称(生産安全課, 防疫課, 病性鑑定課)	
	24	3	56	48	5	3	再任用制度開始	
	25	3(3)	61	54	4	3	組織替え...日南, 小林, 高千穂駐在を新設	
	26	3(3)	62	56	3	3		
27	3(3)	66	59	3	4			
28	3(3)	71	64	3	4			
29	3(3)	72	66	1	5			
30	3(3)	74	66	3	5	都城家保解剖棟新設 (R1.5)		
令和	元	3(3)	73	64	4	5		
	2	3(3)	70	62	4	4		
	3	3(3)	68	60	4	4		
	4	3(3)	67	59	4	4		
	5	3(3)	67	58	3	6		
	6	3(3)	64	51	5	8	都城家保BSE検査室廃止 (R6.5)	

## 2 家畜保健衛生所等配置図





3 家畜保健衛生所の現況

令和7年3月末現在

名称	宮崎家畜保健衛生所		都城家畜保健衛生所	
所在地	宮崎市佐土原町下那珂3151-1		都城市高崎町大牟田4213-1	
郵便番号	〒880-0212		〒889-4505	
電話番号	0985-73-1377		0986-62-5151	
FAX番号	0985-73-7922		0986-62-5155	
管轄区域	宮崎市・日南市・串間市・西都市・東諸県郡 児湯郡 (4市2郡:12市町村)		都城市・小林市・えびの市・北諸県郡 西諸県郡 (3市2郡:5市町)	
管轄面積	2,915Km <sup>2</sup>		1,694Km <sup>2</sup>	
飼養頭数	乳用牛	41 農場 3,850 頭	143 農場 8,990 頭	
	肉用牛	1,401 農場 89,140 頭	2,488 農場 146,420 頭	
	豚	127 農場 249,987 頭	228 農場 460,380 頭	
	採卵鶏	45 農場 2,552 千羽	33 農場 481 千羽	
	肉用鶏	271 農場 9,165 千羽	343 農場 14,577 千羽	
みつばち	103 農場 2,985 群	50 農場 1,352 群		
敷地面積(建物面積)	5,919m <sup>2</sup> (1,372.5m <sup>2</sup> )		10,985.17m <sup>2</sup> (1,554.26m <sup>2</sup> )	
機動力		1,800cc 1台	2,000cc 1台	
		1,600cc 1台	1,500cc 6台	
		1,500cc 5台	660cc 3台	
		1,300cc 4台		
		660cc 1台		
機構	副所長 (総括)	生産安全課 8名 防疫課 9名	副所長 (総括)	生産安全課 7名 防疫課 13名
	所長 (3家保兼務) 副所長 (技術)	病性鑑定課 12名 日南駐在 2名	所長 (3家保兼務) 副所長 (技術)	小林駐在 1名
最寄り駅下車	JR日豊本線 佐土原駅または日向住吉駅		JR吉都線 高崎新田駅	

名称	延岡家畜保健衛生所		宮崎県農政水産部 畜産局	
所在地	延岡市小野町4234番地		宮崎市橋通東2丁目10-1	
郵便番号	〒882-0882		〒880-8501	
電話番号	0982-32-4308		0985-26-7139 家畜防疫対策課	
FAX番号	0982-33-7837		0985-26-7329	
管轄区域	延岡市・日向市・東臼杵郡・西臼杵郡 (2市2郡:9市町村)			
管轄面積	3,184Km <sup>2</sup>			
飼養頭数	乳用牛	2 農場 50 頭	186 農場 12,890 頭	
	肉用牛	1,007 農場 17,770 頭	4,896 農場 253,330 頭	
	豚	18 農場 10,611 頭	373 農場 720,978 頭	
	採卵鶏	15 農場 336 千羽	93 農場 3,369 千羽	
	肉用鶏	202 農場 7,739 千羽	816 農場 31,481 千羽	
みつばち	45 農場 605 群	198 農場 4,942 群		
敷地面積(建物面積)	5,675m <sup>2</sup> (1,240m <sup>2</sup> )			
機動力		1,240cc 1台	畜産局	
		1,500cc 4台	家畜防疫対策課	
		1,800cc 1台	家畜防疫対策課長	
		2,000cc 1台	課長補佐	
機構	副所長 (総括)	生産安全課 6名 防疫課 6名	防疫企画担当	3名
	所長 (3家保兼務) 副所長 (技術)	高千穂駐在 1名	防疫指導担当	4名
最寄り駅下車	JR日豊本線 南延岡駅		JR日豊本線 宮崎駅	

・飼養頭羽数は定期報告(令和7年2月1日現在)の数字を掲載  
 ・みつばちは令和7年1月1日現在の飼育届出数を掲載



5 家畜人工授精師数及び家畜人工授精業務に従事する獣医師数

(1) 【業種別】家畜人工授精師数・獣医師数

令和6年12月31日現在

市町村名 (居住地)	家畜人工授精師 ※1										家畜人工授精業務に従事する獣医師 ※2						
	家畜人工授精従事者					家畜人工授精非従事者					家畜人工授精業務に従事する獣医師			家畜人工授精業務に従事する獣医師			
	自営	農協等 畜産団体	会社	公務員	その他	自営	農協等 畜産団体	会社	公務員	その他	自営	農協等 畜産団体	会社	公務員	その他	小計	
宮崎市	20	7	6	5	4	42	1	4	15	0	4	7	1	0	0	13	
国富町	3	0	1	0	0	4	0	0	1	0	0	1	0	1	0	2	
綾町	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部 小計	24	7	7	5	4	47	3	4	16	0	28	5	1	1	0	15	
日南市	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6	
串間市	11	1	0	0	0	12	1	0	0	0	1	2	1	0	0	3	
南那珂 小計	15	1	0	0	0	16	1	0	0	0	1	2	7	0	0	9	
都城市	81	4	30	4	0	119	2	6	0	4	20	3	12	1	0	16	
三股町	14	1	4	1	0	20	1	0	0	1	2	0	3	1	0	4	
北諸県 小計	95	5	34	5	0	139	2	6	0	5	22	3	15	1	0	20	
小林市	34	14	18	4	0	70	1	14	2	1	29	6	8	2	0	16	
えびの市	15	0	2	0	0	17	1	1	0	0	2	0	1	0	0	1	
高原町	18	3	4	1	0	26	1	3	0	2	6	1	0	0	0	1	
西諸県 小計	67	17	24	5	0	113	3	18	2	1	37	7	9	2	0	18	
西都市	7	1	1	0	1	10	0	1	1	0	2	2	0	0	0	2	
高鍋町	5	7	2	0	0	14	1	2	3	1	10	0	2	0	0	2	
新富町	13	4	1	0	0	18	5	0	1	0	7	1	0	0	0	1	
西米良村	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木城町	2	2	1	0	0	5	2	0	1	0	3	0	0	0	0	0	
川南町	5	0	0	1	0	6	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	
都農町	1	2	1	0	0	4	2	0	1	1	4	0	0	0	0	0	
西都児湯 小計	34	16	6	1	1	58	11	3	7	2	28	3	2	0	0	5	
延岡市	13	1	2	0	0	16	5	0	0	2	10	0	2	0	0	2	
日向市	4	0	0	1	0	5	0	2	1	0	4	2	0	1	0	3	
門川町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
諸塚村	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
椎葉村	5	0	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
美郷町	3	0	0	0	0	3	6	0	0	1	7	0	0	0	0	0	
東臼杵 小計	27	1	4	1	0	33	11	2	4	0	21	2	2	2	0	6	
高千穂町	3	7	0	0	2	12	2	0	0	5	7	3	1	0	0	5	
白之影町	2	0	1	0	0	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
五ヶ瀬町	2	2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
西臼杵 小計	7	9	1	0	2	19	2	0	0	6	8	3	1	1	0	5	
県 合計	269	56	76	17	7	425	42	28	21	24	145	25	44	4	0	78	
総計																570	648

※1 精液の採取、処理、注入、保存及び受精卵の処理、移植、保存のいずれかの業務を行う

※2 精液の注入、保存及び受精卵の採取、処理、移植、保存のいずれかの業務を行う

## (2) 【資格別】家畜人工授精師数(資格保有者数)

※複数資格保有者による重複あり

令和6年12月31日現在

市町村名 (居住地)	牛				豚	馬	その他
	家畜人工授精	家畜人工授精 +受精卵移植 (体内のみ)	家畜人工授精 +受精卵移植 (体内・体外)	小計			
宮崎市	64	23	7	94	17	0	0
国富町	8	3	1	12	3	0	0
綾町	3	1	0	4	0	0	0
中部 小計	75	27	8	110	20	0	0
日南市	4	3	0	7	1	0	0
串間市	15	5	0	20	1	0	0
南那珂 小計	19	8	0	27	2	0	0
都城市	66	63	8	137	7	1	0
三股町	10	12	0	22	4	0	0
北諸県 小計	76	75	8	159	11	1	0
小林市	44	42	11	97	18	0	0
えびの市	6	10	2	18	5	0	0
高原町	12	20	0	32	6	0	0
西諸県 小計	62	72	13	147	29	0	0
西都市	16	2	1	19	1	0	0
高鍋町	17	9	1	27	4	0	0
新富町	18	10	0	28	2	0	0
西米良村	1	0	0	1	0	0	0
木城町	6	5	0	11	1	0	0
川南町	11	7	0	18	7	0	0
都農町	8	4	0	12	1	0	0
西都児湯 小計	77	37	2	116	16	0	0
延岡市	20	4	1	25	2	0	0
日向市	8	0	1	9	1	0	0
門川町	1	0	0	1	0	0	0
諸塚村	1	1	0	2	1	0	0
椎葉村	4	2	0	6	0	0	0
美郷町	7	3	0	10	1	0	0
東臼杵 小計	41	10	2	53	5	0	0
高千穂町	13	5	0	18	1	0	0
日之影町	3	1	0	4	1	0	0
五ヶ瀬町	1	1	2	4	0	0	0
西臼杵 小計	17	7	2	26	2	0	0
県 合計	367	236	35	638	85	1	0
総計	724						

## 6 飼育動物診療施設数及び家畜人工授精所数

### (1) 飼育動物診療施設数

令和7年3月31日現在

区分 市郡名	国	独立行政法人	県	市町村	農協	共済	会社	個人	その他	計
宮崎市		1	1	2	1		22	45	3	75
東諸県郡						1	1	4		6
西都市							2	4		6
児湯郡			3			2	5	10		20
日南市			2			1	1	5		9
串間市							1	4		5
小計	0	1	6	2	1	4	32	72	3	121
都城市			2			3	10	20		35
北諸県郡							2	4		6
小林市		1	2			1	3	15		22
えびの市						1	1	6		8
西諸県郡			1				1	8		10
小計	0	1	5	0	0	5	17	53	0	81
延岡市			2			1	4	7	1	15
日向市			1				2	5		8
東臼杵郡				2				3		5
西臼杵郡			2			1		8		11
小計	0	0	5	2	0	2	6	23	1	39
合計	0	2	16	4	1	11	55	148	4	241

(2) 家畜人工授精所数

令和6年12月31日現在

市町村名 (居住地)	牛						豚						馬					
	授精所数			許可業務内容 ※複数選択 採取			授精所数			許可業務内容 ※複数選択 採取			授精所数			許可業務内容 ※複数選択 採取		
	精液	体内受精卵 (とたい)	体外受精卵 (生体)	精液	体内受精卵 (とたい)	体外受精卵 (生体)	精液	体内受精卵 (とたい)	体外受精卵 (生体)	精液	体内受精卵 (とたい)	体外受精卵 (生体)	精液	体内受精卵 (とたい)	体外受精卵 (生体)	精液	体内受精卵 (とたい)	体外受精卵 (生体)
宮崎市	27	2		2	1		2	1		2								
国富町	8			1	1		1	1		1								
綾町	3			3			3											
中部 小計	38	0	2	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日南市	7		1				7											
串間市	17						17											
南那珂 小計	24	0	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都城市	76	4		1	1	75	44			1	1		1					1
三股町	10					10	14											
北諸県 小計	86	0	4	0	1	85	44			1	1		1					1
小林市	45	5				44	14											
えびの市	14					14	17											
高原町	17	2		1	1	17	17											
西諸県 小計	76	0	7	1	1	75	44			1	1		1					1
西都市	12		1			12	12											
高鍋町	9	1				9	9											
新富町	24	1		1	1	24	24											
西米良村	2	1				2	2											
木城町	3					3	3											
川南町	9					9	9			1	1		1					
都農町	6					6	6											
西都児湯 小計	65	2	2	1	1	65	65			1	1		1					0
延岡市	16					16	16											
日向市	7					7	7											
門川町	1					1	1											
諸塚村	2					2	2											
椎葉村	6					6	6											
美郷町	5					5	5											
東臼杵 小計	37	0	0	0	0	37	37			0	0		0					0
高千穂町	7					7	7											
日之影町	3					3	3											
五ヶ瀬町	2					2	2											
西臼杵 小計	12	0	0	0	0	12	12			0	0		0					0
県 合計	338	2	16	2	3	336	336			6	5		6					1

7 動物用医薬品販売業者数

令和7年3月31日現在

区分 市郡名	製造業	製造販売業	医療機器修理業	医薬品販売業				医療機器販売・貸与業		小計
				店舗	卸売	特例店舗	再生医療等製品	高度管理	管理	
宮崎市	2	2	7	8	11	15	1	12	22	80
東諸県郡						4				4
西都市						11				11
児湯郡						10				10
日南市						2				2
串間市						8				8
小計	2	2	7	8	11	50	1	12	22	115
都城市	3	3		8	4	25	1	3	9	56
北諸県郡						2				2
小林市	1			1		11			1	14
えびの市						4				4
西諸県郡						1				1
小計	4	3	0	9	4	43	1	3	10	77
延岡市				1	3	6		2	2	14
日向市				1	1	6			2	10
東臼杵郡						7				7
西臼杵郡						5				5
小計	0	0	0	2	4	24	0	2	4	36
合計	6	5	7	19	19	117	2	17	36	228

8 飼料取扱業者数

令和7年3月31日現在

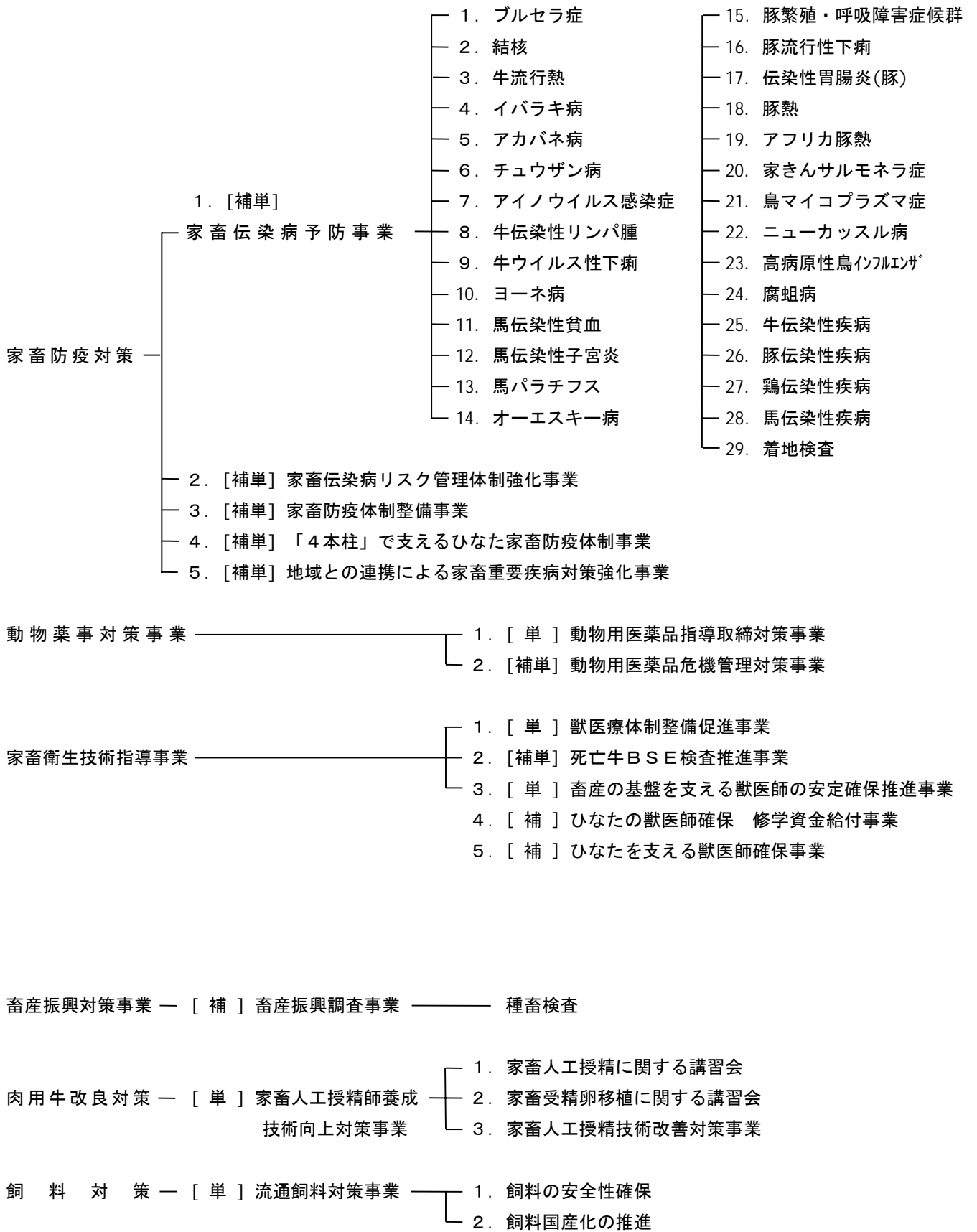
製造工場		販売事業場	
承認配合飼料工場	3	飼料・飼料添加物輸入業者	19
その他配混合飼料工場	30	飼料販売事業場	326
単体飼料工場	30	飼料添加物販売事業場	129
飼料添加物工場	2		
製造工場 合計	65	販売事業場 合計	474
飼料関連事業場総計			539

## Ⅱ 事業成績

令和6年度



# 1 家畜衛生関係業務体系



(1) 家畜伝染病予防事業市町村別実施状況

家畜保健衛生所	地域名	疾病区分	疾病別																				着地検査	豚熱ワクチン								
			ブルセラ症	結核	牛流行熱	チクウザン病	アカバネ病	感染ウイルス	牛伝染性リンパ腫	牛ウイルス性口炎	ヨネ病	馬伝染性貧血	馬伝染性子宮炎	馬ハラチフス	オースキー病	症候群、呼吸障害	豚流行性下痢	伝染性胃腸炎	豚熱	家畜サルモネラ症	馬マコラシマ症	ニッカスル病			馬高病原性インフルエンザ	腐阻病	牛伝染性疾病	豚伝染性疾病	馬伝染性疾病	牛伝染性疾病	豚伝染性疾病	馬伝染性疾病
宮崎県	宮崎県	市町村	20	0	216	216	216	216	216	11,092	525	4,097	0	3	5	1,501	593	0	6,396	0	0	290	1,987	3,302	77,054	107,858	79,552	6	266	47	1,536,089	
		宮崎市			8	8	8	8	8	438		41		2	4	29			67			40	219	1,243	6,788	1,655	4,000		111		22,020	
		国富町			8	8	8	8	8	352						28			101					6	2,437	1,400	1,400		16		19,347	
		綾町			8	8	8	8	8	60									127					18	1,795	2,600	600			4	62,716	
		日南市			8	8	8	8	8	705	8					83			416			10	10	564	7,367	3,000	8,600			10	96,097	
		串間市			8	8	8	8	8	1,177	10	16				14			39					40	6,148	600	3,239				4,082	
		西都市			8	8	8	8	8	330	34	981							60			10	10	63	7,895	800	600		9		55,382	
		高鍋町			8	8	8	8	8	125	3	112							122			10	10	95	20	6,095	1,400	800				31,777
		新富町			8	8	8	8	8	1,121	73	824							50			40	40	230	6,526	200	4,800				8,478	
		西米良村			8	8	8	8	8	74		40																				0
木城町			8	8	8	8	8	62		4																					37,471	
川南町			8	8	8	8	8	1,969	1	193																					197,628	
都農町			8	8	8	8	8																								43,374	
管外			1																													
北諸県	小計		11	0	80	80	80	80	6,413	129	2,211	0	2	4	838	126	0	3,292	0	0	150	1,175	2,027	52,904	27,604	27,239	0	266	14	578,372		
都	都市		3	0	32	32	32	2,070	342	1,330											60	330	421	6,666	44,090	12,250		33		715,885		
三股町			0	0	8	8	8	8	8	0	3										10		420	1,400	400		0			1,910		
小林市			6	0	8	8	8	893	16	44												46	217	4,752	13,600	4,050		0		95,817		
えびの市			0	0	8	8	8	59	0	34												20	341	864	3,200	1,400		0		92,023		
高原町			0	0	8	8	8	571	6	397											10		95	2,412	2,801	1,200		0		39,180		
管外																																
城	小計		9	0	64	64	64	3,601	364	1,808	0	1	1	306	100	0	2,713	0	0	80	396	1,074	15,114	65,091	19,300	0	0	33	944,785			
延岡市					8	8	8	142	28	61											10	90	118	3,336	5,759	4,613	6			5,746		
日向市					8	8	8	145													20	170	43	827	8,904	14,500		0		7,186		
門川町					8	8	8	63														20	5	611		5,200						
美郷町					8	8	8	124	3	1											20	80	963	500	5,000							
諸塚村					8	8	8	0													10	10		82		1,500						
椎葉村					8	8	8	245		5														457								
高千穂町					8	8	8	259	1	11																						
日之影町					8	8	8	51																								
五ヶ瀬町					8	8	8	49																								
管外										10																						
小計			0	0	72	72	72	1,078	32	78	0	0	0	0	357	367	0	391	0	0	60	416	201	9,036	15,163	33,013	6	0	0	12,932		
延岡																																
日向																																

(2) 病性鑑定事業実績

ア 病性鑑定実施状況

家保名	畜種 区分	乳用牛	肉用牛	馬	豚	鶏	その他	合計
	宮崎	件数	3	72	1	2	8	0
頭羽数		3	109	1	15	53	0	181
都城	件数	0	24	0	3	2	0	29
	頭羽数	0	59	0	9	16	0	84
延岡	件数	0	37	0	0	3	0	40
	頭羽数	0	37	0	0	17	0	54
計	件数	3	133	1	5	13	0	155
	頭羽数	3	205	1	24	86	0	319

イ 病性診断実施状況

家保名	畜種 区分	乳用牛	肉用牛	馬	豚	鶏	その他※	合計
	宮崎	件数	28	74	2	8	28	51
頭羽数		495	382	3	66	661	150	1,757
都城	件数	32	65	1	2	15	3	118
	頭羽数	432	162	1	21	366	13	995
延岡	件数	2	31	0	0	25	23	81
	頭羽数	24	116	0	0	202	30	372
計	件数	62	170	3	10	68	77	390
	頭羽数	951	660	4	87	1,229	193	3,124

※その他はきじ、蜜蜂、野鳥、野生いのしし

ウ 家畜別病性鑑定成績

畜種	疾病名	混合 感染①	混合 感染②	伝染性 疾病/その 他疾病	発 生 確 認 状 況			
					家保名	発生 戸数	発 生 頭羽数	死 廃 頭羽数
牛	牛18:牛パストツレラ(マンヘミア)症			伝染性疾病	宮崎	1	1	1
牛	牛20:牛マイコプラズマ肺炎			伝染性疾病	宮崎	1	1	1
牛	牛20:牛マイコプラズマ肺炎	牛36:牛コクシジウム病		伝染性疾病	宮崎	1	1	1
牛	牛27:リステリア症			伝染性疾病	宮崎	1	1	1
牛	牛35:クリプトスポリジウム症			伝染性疾病	宮崎	1	1	1
鶏	鶏10:鶏大腸菌症			伝染性疾病	宮崎	1	5	5
牛	牛7:牛コロナウイルス病	牛20:牛マイコプラズマ肺炎		伝染性疾病	都城	1	1	1
牛	牛18:牛パストツレラ(マンヘミア)症			伝染性疾病	都城	1	1	1
豚	豚9:滲出性表皮炎(滲出性皮膚炎、スス病)			伝染性疾病	都城	1	5	5
牛	牛16:牛尿路コリネバクテリア感染症			伝染性疾病	延岡	1	1	1
牛	牛17:牛大腸菌症			伝染性疾病	延岡	1	1	1
牛	牛20:牛マイコプラズマ肺炎			伝染性疾病	延岡	1	1	1
牛	牛39:乳頭糞線虫症			伝染性疾病	延岡	1	1	1
鶏	鶏6:鶏貧血ウイルス病	鶏15:鶏コクシジウム病		伝染性疾病	延岡	1	10	10
鶏	鶏10:鶏大腸菌症			伝染性疾病	延岡	1	1	1

エ 検査項目別診断実績

(頭羽数)

畜種	項目	診断・検査項目	宮崎	都城	延岡	畜種	項目	診断・検査項目	宮崎	都城	延岡		
牛	ウイルス	口蹄疫病診				豚	ウイルス	A Dウイルス抗体検査(ラテックス)	9	316	128		
		口蹄疫ウイルス抗原検査(簡易)						A Dウイルス抗体検査(エライザ)	1,110	306	229		
		流行熱・異常産ウイルス抗体検査(中和)	3,274					P E Dウイルス抗原検査(PCR)					
		流行熱・異常産ウイルス抗原検査(PCR)	1,357					P E Dウイルス抗体検査(中和)					
		異常産ウイルス分離(ヌカカ、血球等)	90					その他ウイルス抗原検査	16				
		呼吸器病ウイルス抗原検査(PCR)	193					その他ウイルス抗体検査					
		呼吸器病ウイルス抗体検査(中和)	52					細菌	サルモネラ検査(増菌培養)				
		下痢関連ウイルス抗原検査(PCR)	55						サルモネラ属菌血清型別				
		ロタ・アデノウイルス抗原検査(簡易)		2	21				下痢関連細菌検査(糞便定量・PCR)				
		下痢関連ウイルス抗体検査(中和・HI)							豚赤痢検査(分離培養・PCR)				
		B V Dウイルス抗原検査(エライザ)	129	364	32				呼吸器病細菌検査[スワブ等]				
		牛伝染性リンパ腫抗体検査(エライザ)	6,413	3,601	1,078				薬剤感受性試験				
		その他ウイルス抗原検査	45						その他菌分離・同定	65			
		その他ウイルス抗体検査							生化学	血球計算	5		
		牛	細菌	ヨーネ病抗体検査(エライザ)	2,121					1,808	78	血液一般生化学検査	
ヨーネ病抗原検査(リアルタイムPCR)	526					血液塗抹検査							
ヨーネ病検査(糞便培養)						寄生虫	寄生虫検査						
ブルセラ症検査(抗体エライザ)	10			9		鶏	ウイルス	鳥インフルエンザウイルス分離検査	658				
ブルセラ症検査(分離)	14							鳥インフルエンザウイルス抗体検査(中和)	875				
流死産関連細菌検査	307							A型インフルエンザ抗原検査(簡易)	2,689	396	185		
結核検査(牛型PPDツベルクリン)								N Dウイルス抗体検査(HI試験)	150	80	60		
サルモネラ検査(増菌培養)	266			2	71			I B Dウイルス抗原検査(PCR)					
サルモネラ属菌血清型別	94			1	5			I Bウイルス抗原検査(PCR)					
下痢関連細菌検査(糞便定量・PCR)	152			4	27			その他ウイルス抗原検査	12				
呼吸器病細菌検査[スワブ等]								細菌	ひな白痢抗体検査(急速凝集反応)				
マイコプラズマ検査(分離・PCR)	316								M G抗体検査(急速凝集反応)	5		6	
乳房炎細菌検査	12			20					M S抗体検査(急速凝集反応)	5		6	
炭疽診断				1					マイコプラズマ検査(分離・PCR)	54			
ポツリヌス検査									サルモネラ検査(増菌培養)				
薬剤感受性試験	3	11	4	サルモネラ属菌血清型別									
その他菌分離・同定	110	18	37	ポツリヌス検査									
牛	生化学	血球計算	16	8	49				薬剤感受性試験				
		血液一般生化学検査	196	15	38	その他菌分離・同定	5			14			
		血液塗抹検査	9	6	41	生化学	血鶏一般生化学検査		14				
		血清蛋白分画					血中ビタミンE測定	14					
		血中ビタミンA測定	182				血中セレン測定	14					
		血中ビタミンE測定	202			寄生虫	虫卵検査(コクシジウム含む)			24			
		血中セレン測定	22				馬	ウイルス	インフルエンザ簡易検査				
		血中硝酸態窒素測定							馬伝染性貧血抗体検査				
		血中銅測定	1			その他抗原検査			3				
		尿検査・尿石成分分析	1	2		細菌	馬バラチフス抗体検査	4	1				
		寄生虫	ネオスポラ抗体検査(エライザ)	41				馬伝染性子宮炎検査(PCR)	3	1			
			虫卵検査(コクシジウム含む)	10	3		28	寄生虫	虫卵検査				
			クリプトスポリジウム検査(浮遊法)	7			豚	ウイルス	豚熱ウイルス抗原検査(PCR)	59			
		クリプトスポリジウム抗原検査(簡易)		1	15	A S Fウイルス抗原検査(PCR)			59				
		ピロプラズマ病検査(塗抹鏡検)				豚熱ウイルス抗体検査(エライザ)							
豚	ウイルス	口蹄疫病診				A Dウイルス抗体検査(エライザ)			790				
		口蹄疫ウイルス抗原検査(簡易)				A Dウイルス抗体検査(中和)			100				
		豚熱ウイルス抗原検査(PCR)	49			P R R Sウイルス抗体検査(エライザ)			401				
		豚熱ウイルス抗原検査(FA)				細菌			鳥インフルエンザ分離検査				
		豚熱ウイルス抗体検査(エライザ)	2,219	2,713	391				A型インフルエンザ抗原検査(簡易)	26		22	
		豚熱ウイルス抗体検査(中和)	3,566						その他抗原検査				
		A S Fウイルス抗原検査(PCR)	49						菌分離・同定	2			
		P R R Sウイルス抗原検査(PCR)	70						腐蛆病検査(目視・分離・PCR)	2,027	1,074	201	
		P R R Sウイルス抗体検査(エライザ)	3,893	100	367				生化学	飼料中硝酸態窒素測定			
		P R R Sウイルス抗体検査(IFA)								エンドファイト菌糸検索			
		サーコウイルス抗原検査(PCR)								その他	アカリダニ症検査	5	10

※野鳥、ミツバチ、ヤギ、ヒツジ等

## (3) 輸入家畜等の検査状況

令和6年次

畜種	家保	区分	導入月	仕向地	頭羽数	輸入元
牛					小計	0
	計					
豚	宮崎	繁殖	12月	綾町	4	デンマーク
		小計				
	都城	繁殖	4月	都城市	8	カナダ
		繁殖	9月	都城市	27	カナダ
		繁殖	12月	都城市	25	カナダ
	小計					60
計						64
鶏					小計	0
	計					
馬					小計	0
	計					

## (4) 監視伝染病の発生状況

令和6年次

## ア 家畜伝染病

家畜	病名	決定月	発生戸数	発生頭羽数	発生場所
鶏	高病原性鳥インフルエンザ	12月	1	2	川南町
	合計		1	2	

## イ 届出伝染病

家畜	病名	決定月	発生戸数	発生羽頭数	発生場所		
牛	牛伝染性リンパ腫	1月	6	6	宮崎市、日南市、木城町、都農町		
		2月	7	19	都城市、小林市、えびの市、都農町		
		3月	5	15	都城市、小林市、日南市、都農町		
		4月	1	3	延岡市		
		5月	14	23	延岡市、日南市、都城市、小林市、西都市、新富町、高鍋町、川南町、高原町		
		6月	2	7	都城市		
		7月	12	19	都城市、小林市、串間市、西都市、都農町、綾町、新富町、木城町		
		8月	1	1	西都市		
		9月	7	17	延岡市、都城市、小林市、西都市、都農町		
		10月	3	4	都城市、小林市、えびの市		
		11月	3	7	都城市、西都市		
		12月	9	12	都城市、小林市、えびの市、西都市、都農町、高鍋町、木城町		
	合計		70	133			
	牛ウイルス性下痢	1月	1	1	都城市		
	合計		1	1			
豚	破傷風	1月	2	2	延岡市、美郷町		
		3月	7	7	宮崎市、日南市、都城市、小林市、川南町、五ヶ瀬町		
		5月	1	1	延岡市		
		6月	1	1	椎葉村		
		7月	1	1	延岡市		
		8月	2	2	宮崎市、新富町		
		9月	3	3	川南町、国富町		
		10月	2	2	都城市、椎葉村		
		11月	2	2	都城市、新富町		
		12月	1	1	延岡市		
			合計		22	22	
			サルモネラ症	8月	1	1	美郷町
		10月	1	1	美郷町		
		11月	1	1	都農町		
	合計		3	3			
豚	豚丹毒	1月	2	2	都城市		
		3月	2	5	都城市、日向市		
		5月	2	3	都城市、日向市		
		6月	1	1	都城市		
		9月	1	2	日向市		
		11月	1	1	日向市		
		合計		9	14		
		豚繁殖・呼吸障害症候群	9月	1	1	都城市	
	合計		1	1			
豚	サルモネラ症	1月	1	3	川南町		
		3月	2	5	都城市		
	合計		3	8			
犬	レプトスピラ症	8月	1	1	宮崎市		
		10月	1	1	高千穂町		
		11月	1	1	宮崎市		
		12月	1	1	宮崎市		
	合計		4	4			
蜜蜂	アカリダニ症	3月	3	4	宮崎市、日南市、国富町		
		11月	1	1	宮崎市		
	合計		4	5			

ウ 年次別家畜伝染病発生状況

年次別

病名	年次	平成									令和					
		22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
口蹄疫	戸数	10														
	頭数	10														
	殺処分数	297,808														
結核	戸数															
	頭数															
ヨーネ病	戸数			1			1	1	2	1		1	3	3		
	頭数			1			2	2	7	1		1	5	3		
炭疽	戸数															
	頭数															
馬伝染性貧血	戸数		1													
	頭数		1													
流行性脳炎	戸数	1														
	頭数	1														
豚熱	戸数															
	頭数															
ひな白痢	戸数															
	羽数															
ニューカッスル病	戸数															
	羽数															
高病原性鳥インフルエンザ	戸数		13			2		1	1		9	3	2	1	1	
	羽数		13			8		7	7		55	19	4	2	2	
	殺処分数		1,011,968			46,025		116,977	166,195		570,804	351,070	305,874	99,630	27,172	
腐蛆病	戸数		4	1	1	1							1			
	群数		28	10	2	5							5			

平成22年：口蹄疫（宮崎市，都城市，えびの市，西都市，日向市，国富町，高鍋町，新富町，木城町，川南町，都農町）  
流行性脳炎（宮崎市）

平成23年：高病原性鳥インフルエンザ（宮崎市，新富町，高鍋町，川南町，都農町，門川町，延岡市，高千穂町）  
馬伝染性貧血（宮崎市） 腐蛆病（小林市，高鍋町，川南町）

平成24年：腐蛆病（宮崎市） ヨーネ病（都城市）

平成25年：腐蛆病（都城市）

平成26年：高病原性鳥インフルエンザ（宮崎市，延岡市） 腐蛆病（高鍋町）

平成27年：ヨーネ病（都城市）

平成28年：ヨーネ病（都城市） 高病原性鳥インフルエンザ（川南町）

平成29年：ヨーネ病（都城市，三股町） 高病原性鳥インフルエンザ（木城町）

平成30年：ヨーネ病（都城市）

令和2年：高病原性鳥インフルエンザ（宮崎市，都城市，小林市，日向市，都農町）

令和3年：高病原性鳥インフルエンザ（都城市，新富町） ヨーネ病（西都市）

令和4年：高病原性鳥インフルエンザ（新富町，日向市（殺処分羽数は疫学関連農場含む）） ヨーネ病（西都市） 腐蛆病（国富町）

令和5年：高病原性鳥インフルエンザ（川南町） ヨーネ病（西都市，えびの市，川南町）

令和6年：高病原性鳥インフルエンザ（川南町）



(5) 豚熱ワクチン接種に係る免疫付与状況確認検査（防疫指針第3-2の6）

1 目的

ワクチン接種農場における抽出検査により、母豚の中和抗体価の推移を把握することで、肥育豚の接種適齢期を検討するとともに、適期での確実な接種を確認することを目的に実施するものである。

2 調査の対象

1 回目検査：母豚を飼養する全ての農場

2 回目検査：初回接種後の母豚から生産された肥育豚を飼養する全ての農場及び

1 回目の補強接種後 40 日以上経過した母豚を飼養する 30 農場

※ 認定農場は、原則として、少なくとも年 1 回の検査を実施

3 検査概要

対象家畜	対 象	検 査 概 要
豚	母豚	ELISA 法 中和試験
	肥育豚	ELISA 法 中和試験（※ 陽性率 80%未満の農場かつ ELISA 法で陰性となった検体に限る）

4 検査成績

(1) 母豚

1 回目検査の調査対象は、県内で母豚を飼養する全ての農場（163 戸）で、令和 5 年 12 月から令和 6 年 7 月かけて採血した 4,647 頭について、ELISA 法及び中和試験による抗体検査を実施した。

2 回目検査の調査対象は、1 回目の補強接種後 40 日以上経過した母豚を飼養する 30 農場で、令和 6 年 7 月から令和 7 年 3 月にかけて採血した 927 頭について、ELISA 法及び中和試験による抗体検査を実施した。

母豚の抗体陽性率については、いずれの検査においても高い陽性率を示し、2 回目検査の陽性率は 1 回目検査と比較してほぼ横ばいであった。（表 1）

表 1 母豚の抗体陽性率

（陽性頭数/検査頭数）

対象	検査方法	1 回目検査			2 回目検査		
		陽性率	陽性頭数	検査頭数	陽性率	陽性頭数	検査頭数
母豚	ELISA 法	97.2%	4,517	4,647	97.8%	904	927
	中和試験	98.4%	4,571	4,647	99.0%	914	924

母豚の中和抗体価分布について、1回目検査における中和抗体価のピーク値が128倍であったのに対し、2回目検査では1管程度上昇し、ピーク値は256倍であった。（表2）

表2 母豚の中和抗体価

中和抗体価		<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	2048	≥ 4096
1回目 検査	頭数	76	32	76	181	390	681	979	1006	673	388	135	26	4
	%	1.6	0.7	1.6	3.9	8.4	14.7	21.1	21.6	14.5	8.3	2.9	0.6	0.1
2回目 検査	頭数	10	1	4	8	27	63	124	166	216	146	100	48	11
	%	1.1	0.1	0.4	0.9	2.9	6.8	13.4	18.0	23.4	15.8	10.8	5.2	1.2

（2）肥育豚

1回目検査では、肥育豚は検査対象外とした。2回目検査では初回接種後の母豚から生産された肥育豚を飼養する全ての農場（計151戸）で、令和6年7月から令和7年3月にかけて採血した4,525頭について、ELISA法及び中和試験による抗体検査を実施した。なお、中和試験は陽性率80%未満の農場かつELISA法で陰性となった検体のみ実施した。

肥育豚の抗体陽性率について、ELISA法での陽性率は70.0%であった。また、中和試験について、ELISA法で陰性となった検体のうち抗体陽性となったのは35.3%であり、全体の抗体陽性率は80.6%であった。（表3）

表3 肥育豚の抗体陽性率

（陽性頭数/検査頭数）

対象	検査方法	1回目検査	2回目検査
肥育豚	全体	-	80.6% 3,648 / 4,525
	(内訳)		
	ELISA法	-	70.0% 3,169 / 4,525
	中和試験	-	40.3% 479 / 1,190

(6) 野生いのしし検査状況

	豚熱 抗体検査			豚熱/アフリカ豚熱 PCR検査			オーエスキー病 抗体検査			豚繁殖・呼吸障害症候群 抗体検査		
	検体数	陽性数	陽性割合 (%)	検体数※	陽性数	陽性割合 (%)	検体数	陽性数	陽性割合 (%)	検体数	陽性数	陽性割合 (%)
	宮崎市	11	0	0.0	18 (7)	0	0.0	7	0	0.0	7	0
国富町	11	0	0.0	12 (1)	0	0.0	11	4	36.4	11	0	0.0
綾町	22	0	0.0	24 (2)	0	0.0	22	7	31.8	22	0	0.0
日南市	19	0	0.0	20 (1)	0	0.0	19	0	0.0	19	0	0.0
串間市	17	0	0.0	21 (4)	0	0.0	16	1	6.3	16	0	0.0
西都市	15	0	0.0	16 (1)	0	0.0	13	2	15.4	13	0	0.0
高鍋町	8	0	0.0	8	0	0.0	7	0	0.0	7	0	0.0
新富町	3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0
西米良村	17	0	0.0	17	0	0.0	16	4	25.0	16	0	0.0
木城町	5	0	0.0	5	0	0.0	5	1	20.0	5	0	0.0
川南町	20	0	0.0	20	0	0.0	16	2	12.5	16	0	0.0
都農町	6	0	0.0	8 (2)	0	0.0	6	0	0.0	6	0	0.0
宮崎家保計	154	0	0.0	172 (18)	0	0.0	141	21	14.9	141	0	0.0
都城市	20	0	0.0	21 (1)	0	0.0	13	5	38.5	13	0	0.0
三股町	112	0	0.0	112	0	0.0	75	18	24.0	75	0	0.0
小林市	15	0	0.0	15	0	0.0	6	0	0.0	6	0	0.0
えびの市	9	0	0.0	9	0	0.0	9	1	11.1	9	0	0.0
高原町	7	0	0.0	7	0	0.0	6	1	16.7	6	0	0.0
都城家保計	163	0	0.0	164 (1)	0	0.0	109	25	22.9	109	0	0.0
延岡市	16	0	0.0	28 (12)	0	0.0	12	2	16.7	12	0	0.0
日向市	22	0	0.0	26 (4)	0	0.0	14	4	28.6	14	0	0.0
門川町	16	0	0.0	16	0	0.0	14	5	35.7	14	0	0.0
諸塚村	17	0	0.0	17	0	0.0	10	3	30.0	10	0	0.0
椎葉村	17	0	0.0	17	0	0.0	7	4	—	7	0	—
美郷町	15	0	0.0	15	0	0.0	12	2	16.7	12	0	0.0
高千穂町	25	0	0.0	26 (1)	0	0.0	25	2	8.0	25	0	0.0
日之影町	24	0	0.0	25 (1)	0	0.0	24	4	16.7	24	0	0.0
五ヶ瀬町	7	0	0.0	7	0	0.0	7	3	42.9	7	0	0.0
延岡家保計	159	0	0.0	177 (18)	0	0.0	125	29	23.2	125	0	0.0
総計	476	0	0.0	513 (37)	0	0.0	375	75	20.0	375	0	0.0

※ ( ) は死亡いのししで内数

### 3 家畜衛生対策

#### (1) 家畜衛生技術指導事業実績

対象活動等	事業内容		事業量	宮崎家保		都城家保		延岡家保	
	対象(者、地域等)等			延	回	延	回	延	回
家畜衛生事業 説明会	県、市町村、団体等		延	7回	延	2回	延	2回	
			延	230人	延	90人	延	60人	
動物用医薬品 危機管理対策	品質検査(収去検査)		実	2件					
	薬剤耐性菌 発現状況調査	サルモネラ属菌	実	7菌株					
		黄色ブドウ球菌	実	0菌株					

#### (2) 産業動物関連獣医師確保研修学資金給付事業(国事業名: 獣医師養成確保研修学資金給付事業)

給付人数 (延べ)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
	男	1	4	4	7	6	6	7	6	6	4	1	0	0	1	1
女	0	1	1	7	11	8	6	2	3	3	3	2	1	1	1	50
計	1	5	5	14	17	14	13	8	9	7	4	2	1	2	2	104
給付額 (千円)	600	3,000	3,600	8,400	10,200	8,400	7,800	4,800	5,400	3,900	2,100	1,200	1,080	2,160	1,680	64,320

実人数では、令和6年度までに合計42名に給付(貸与)

(給付開始学年では1年生4名、2年生1名、3年生7名、4年生8名、5年生13名、6年生9名)

(3) 高病原性鳥インフルエンザ対策事業

ア 防疫指針による定点モニタリング検査

採材農場 (延)	血清抗体検査結果			ウイルス分離検査結果 (気管スワブ)			ウイルス分離検査結果 (クローアカスワブ)			備考
	検査羽数	陽性羽数	陰性羽数	検査羽数	陽性羽数	陰性羽数	検査羽数	陽性羽数	陰性羽数	
63	630	0	630	630	0	630	630	0	630	

\* 4月～10月に月1回各家保3農場で採材

イ 防疫指針による強化モニタリング検査

採材戸数	採材羽数	血清抗体 検査羽数	陽性羽数	陰性羽数
14	140	140	0	140

(4) 動物薬事対策事業実績

ア 動物用医薬品販売業の許可に関する業務実績

区分 家保名	店舗販売業			卸売販売業			特例店舗販売業			配置販売業			再生医療等製品販売業			高度医療機器販売業		
	新規	更新	廃止	新規	更新	廃止	新規	更新	廃止	新規	更新	廃止	新規	更新	廃止	新規	更新	廃止
宮崎	1	1	33	1				3	1							1	1	
都城	2	1	16	2		2	1	3	22							1	1	1
延岡	1		11	1												1	1	
計	4	2	60	4	0	2	1	6	23	0	0	0	0	0	0	3	3	1

イ 動物用医薬品危機管理対策事業の品質確保検査実績

家保名	品名	収去場所	製造販売元	製造番号	検査項目	結果
宮崎	ビタフラルAD3E	富田薬品株式会社	共立製薬株式会社	2402061	[ 定量 レチノールパルミチン酸エステル コレカルシフェロール トコフェロール酢酸エステル           ]	適合
					性状	適合
					表示	適合
					定量 (塩素)	適合
宮崎	サラーロン	松田商事株式会社	フジタ製薬株式会社	201354	性状	適合
					表示	適合

ウ 動物薬事監視結果の概要

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

家保名	区分 検査対象	立入 検査 対象 か 所 数	立入 検査 実施 か 所 数	違反 発見 か 所 数	違反の内訳 (件数)												
					品質 不良	表示 不適	無 承認 品・ 模 造 品	要 指 示 薬 販 売 不 適	毒 劇 薬 販 売 不 適	制 限 品 目 販 売 不 適	違 反 広 告	記 録 不 備	許 可 証 ・ 登 録 証 不 掲 示	医 薬 品 の 貯 蔵 ・ 陳 列 不 適	そ の 他		
宮崎	製造業	2	1														
	製造販売業	2	1														
	医療機器修理業	7															
	医薬品販売業	店舗	8	7	2												2
		卸売	11	4													
		特例店舗	51	19	10					1	2				3	4	
	再生医療等製品	1															
	医療機器販売・貸与業	高度管理	12	5													
管理		22	3														
飼育動物診療施設	産業動物	53	7														
	小動物	68	4														
都城	製造業	4	1														
	製造販売業	3															
	医療機器修理業																
	医薬品販売業	店舗	11	9	1												1
		卸売	6	4	1												1
		特例店舗	45	16	4											1	3
	再生医療等製品	1	1														
	医療機器販売・貸与業	高度管理	4	3													
管理		11	5														
飼育動物診療施設	産業動物	91	10	1								1					
	小動物	25	10														
延岡	製造業	1															
	製造販売業	1															
	医療機器修理業																
	医薬品販売業	店舗	2	2	1												1
		卸売	4	3													
		特例店舗	24	5	2											2	
	再生医療等製品																
	医療機器販売・貸与業	高度管理	2	2													
管理		4															
飼育動物診療施設	産業動物	19	6														
	小動物	22	3														
計	製造業	7	2														
	製造販売業	6	1														
	医療機器修理業	7															
	医薬品販売業	店舗	21	18	4											1	3
		卸売	21	11	1											1	
		特例店舗	120	40	16					1	2				6	7	
	再生医療等製品	2	1														
	医療機器販売・貸与業	高度管理	18	10													
管理		37	8														
飼育動物診療施設	産業動物	163	23	1								1					
	小動物	115	17														

根拠：令和3年度動物薬事関係事務に関する調査等について  
(農林水産省消費安全局畜水産安全管理課薬事監視指導班)

(5) 飼育動物診療施設立入検査結果の概要

家保名	区分 検査対象		立入検査対象か所数	立入検査実施か所数	指導数	指導の内訳（件数）								
						届出事項	構造施設基準	診療簿及び検案簿	麻薬・向精神薬・薬事	指示書	X線施設関連	違反広告	医療廃棄物の適正処理	その他
宮崎	飼育動物診療施設	産業動物	57	7										
		小動物	64	9										
都城	飼育動物診療施設	産業動物	68	11	2			2						
		小動物	15	10										
延岡	飼育動物診療施設	産業動物	19	6										
		小動物	22	3										
計	飼育動物診療施設	産業動物	144	24	2			2						
		小動物	101	22										



#### 4 家畜改良対策

##### (1) 種畜検査実施状況

区分	種畜検査						臨時種畜検査					
	肉用牛	馬		豚				肉用牛	馬		豚	
		軽種馬	農用馬	ランド レース	ハンブ シャー	大ヨーク シャー	デュロック		バーク シャー	雑種		軽種馬
市町村												
宮崎市							3					2
国富町												
綾町		4								1		
高鍋町	40								11			
川南町						3						
西米良村	20											
小計	60	4	0	0	0	3	0	7	11	1		2
都城市			2					32				16
小林市		1	2			14						
えびの市				21		51			20			
高原町												
小計	0	1	4	21	0	65	0	32	0	0		16
合計	60	5	4	21	0	68	0	39	11	0		18

(2) 家畜人工授精指導事業

ア 家畜人工授精師・家畜人工授精所の認可等に関する業務

市町村	家畜人工授精師									家畜人工授精所		
	牛			豚			その他			人工授精師	獣医師	人工授精師 獣医師
	交付	書換	再交付	交付	書換	再交付	交付	書換	再交付			
宮崎市	4	2								2(1)		1
東諸県郡	3									1		1(1)
西都市										1		
児湯郡	2	1	1							5(1)	1	1(1)
日南市												
串間市												
県外												
小計	9	3	1	0	0	0	0	0	0	9(2)	1	3(2)
都城市	2	1		1						2		
北諸県郡	1											
小林市	7									3		
えびの市	2			1						1		
西諸県郡	1									1		
県外												
小計	13	1	0	2	0	0	0	0	0	7	0	1(1)
延岡市												
日向市	1			1								
東臼杵郡		1	2									
西臼杵郡	2									1		
県外												
小計	3	1	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0
合計	25	5	3	3	0	0	0	0	0	21(1)	1	3(2)

( ) : うち書換交付数

イ 家畜人工授精所立入検査結果の概要

市町村	立入検査 対象か所 数	立入検査 実施か所 数	指導 か所数	指導の内訳（件数）				
				開設証/免 許の不備	家畜人工 授精簿の 不備	授精証明 書の 不備	施設構 造・設 備・器具 の不備	その他
宮崎市	29	8	5		1	1	1	4
東諸県郡	11	7	2				1	1
西都市	12	4	2	1				2
児湯郡	57	40	18	2	2	7	1	10
日南市	6	2						
串間市	17	13	10		3	3	1	8
県外								
小計	132	74	37	3	6	11	4	25
都城市	76	37	10	1	1			9
北諸県郡	10	3				1		
小林市	45	14	4				1	3
えびの市	14	6	2	1				1
西諸県郡	17	9	3					3
県外								
小計	162	69	19	2	1	1	1	16
延岡市	7	8	4			1		3
日向市	2	2						
東臼杵郡	6	7	3	1	2	2		1
西臼杵郡	4	3	2			1		2
県外								
小計	19	20	9	1	2	4	0	6
合計	313	163	65	6	9	16	5	47

(3) 家畜人工授精及び家畜受精卵移植成績

ア 家畜別種付け及び家畜人工授精成績

家畜の種類	地区	令和6年種付		令和5年種付										備考				
		実頭数	延頭数	受胎成績					生産成績					双子	三子	四子		
				雌実頭数 A	受胎頭数 B	流産頭数 C (奇形)	不受胎頭数 D	不明頭数 E	受胎率 B/(A-E)	生産頭数 F+G+H	雄 F	雌 G	早産、 へい死 H				生産率 F+G+H/(A-E)	
肉用牛	宮崎	7,131	11,719	7,577	5,907	184	1,150	520	83.7	5,784	2,947	2,814	23	82.0	61	0	0	人工授精
	東諸県	4,895	7,886	4,900	4,149	73	346	405	92.3	4,098	2,138	1,960	0	91.2	22	0	0	
	児湯	12,763	19,339	12,978	9,437	344	2,242	1,299	80.8	9,199	4,619	4,487	93	78.8	106	0	0	
	南那珂	6,671	9,520	7,101	5,944	289	500	657	92.2	5,712	2,905	2,752	55	88.6	57	0	0	
	北諸県	21,461	35,395	22,484	17,970	462	2,824	1,690	86.4	17,686	9,083	8,390	213	85.1	176	1	0	
	西諸県	18,145	28,230	19,324	15,411	615	2,893	1,020	84.2	14,909	7,654	7,076	179	81.5	113	0	0	
	東臼杵	3,831	6,120	4,039	3,217	134	408	414	88.7	3,098	1,599	1,482	17	85.5	15	0	0	
	西臼杵	4,118	6,703	4,392	3,540	115	686	166	83.8	3,454	1,739	1,647	68	81.7	29	0	0	
	合計	79,015	124,912	82,795	65,575	2,216	11,049	6,171	85.6	63,940	32,684	30,608	648	83.4	579	1	0	
	乳用牛	宮崎	38	62	67	32	1	30	5	51.6	31	13	17	1	50.0	0	0	0
児湯		965	1,651	1,425	548	44	253	624	68.4	523	212	284	27	65.3	19	0	0	
南那珂		185	367	317	149	25	160	8	48.2	132	41	82	9	42.7	8	0	0	
北諸県		2,498	4,696	2,518	1,596	66	801	121	66.6	1,560	652	885	23	65.1	30	0	0	
西諸県		997	1,635	686	370	25	225	91	62.2	349	117	225	7	58.7	4	0	0	
東臼杵		49	104	27	0	0	0	27	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	
合計	4,732	8,515	5,040	2,695	161	1,469	876	64.7	2,595	1,035	1,493	67	62.3	61	0	0	0	
馬	北諸県	18	35	15	9	1	6	0	60.0	8	5	3	0	53.3	0	0	0	人工授精
	合計	18	35	15	9	1	6	0	60.0	8	5	3	0	53.3	0	0	0	

イ 家畜体内受精卵移植成績

供卵家畜の種類	移植の区分	地区	令和5年移植										備考					
			受胎成績					産成績										
			移植雌延頭数	移植雄延頭数	流死産延頭数C	不受胎延頭数D	不明延頭数E	受胎率B/(A-E)	生産頭数F+G+H	雄F	雌G	早い死H		生産率F+G+H/(A-E)				
肉用牛	1 卵移植	宮崎	135	134	16	181	22	42.5	118	54	59	5	37.5	0	0			
		東諸県	145	85	32	0	43	10	42.7	32	19	13	0	42.7	0	0		
		児湯	2,051	2,564	958	82	1,405	201	40.5	877	421	452	4	37.1	1	0		
		南那珂	70	64	14	1	50	0	21.9	13	9	4	0	20.3	0	0		
		北諸県	2,623	2,763	1,239	29	1,502	22	45.2	1,213	650	546	17	44.3	1	1		
		西諸県	2,760	2,427	1,047	33	1,323	57	42.2	1,015	518	478	19	40.9	1	0		
		東臼杵	12	8	1	0	7	0	12.5	1	0	1	0	12.5	0	0		
		西臼杵	342	360	136	4	223	1	37.9	132	75	57	0	36.8	0	0		
		小計	8,138	8,608	3,561	165	4,734	313	42.9	3,401	1,746	1,610	45	41.0	3	1		
		乳用牛	2 卵移植	宮崎	9	45	11	4	34	0	24.4	10	3	4	3	22.2	3	0
				東諸県	6	2	0	0	2	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0
				児湯	120	188	96	8	81	11	54.2	111	50	55	6	62.7	23	0
				南那珂	5	2	1	1	1	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0
				北諸県	567	719	379	7	328	12	53.6	695	334	330	31	98.3	323	0
				西諸県	57	68	37	1	28	3	56.9	47	27	16	4	69.2	11	0
東臼杵	0			2	0	0	2	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0		
西臼杵	8			13	6	1	7	0	46.2	6	3	2	1	46.2	1	0		
小計	772			1,039	530	22	483	26	52.3	869	417	407	45	85.8	361	0		
計	8,910			9,647	4,091	187	5,217	339	44.0	4,270	2,163	2,017	90	45.9	364	1		
乳用牛	1 卵移植			宮崎	0	3	0	0	3	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	
				児湯	2	10	0	0	10	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	
				北諸県	16	6	2	0	4	0	33.3	2	0	2	0	33.3	0	0
				西諸県	10	11	3	0	7	1	30.0	3	1	2	0	30.0	0	0
				小計	28	30	5	0	24	1	17.2	5	1	4	0	17.2	0	0
乳用牛	2 卵移植	西諸県	1	1	0	0	1	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0			
		小計	1	1	0	0	1	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0			
計	29	31	5	0	25	1	16.7	5	1	4	0	16.7	0	0				
合計		8,939	9,678	4,096	187	5,242	340	43.9	4,275	2,164	2,021	90	45.8	364	1			

ウ 家畜体外受精卵移植成績

供卵家畜の種類	移植の区分	地区	令和6年移植成績										備考				
			令和6年移植					令和5年移植					双子	三子			
			延頭数	移植雌延頭数A	受胎延頭数B	流死産延頭数C	不受胎延頭数D	不明延頭数E	受胎率B/(A-E)	生産頭数F+G+H	雄F	雌G			早産、生後<small>へい死</small>H	生産率F+G+H/(A-E)	
肉用牛	1卵移植	宮崎	11	10	5	0	4	1	56	5	4	1	0	56	0	0	
		東諸県	6	18	7	0	10	1	41	7	4	3	0	41	0	0	
		児湯	540	265	38	0	86	141	31	38	19	19	0	31	0	0	
		南那珂	21	15	3	0	12	0	20	3	3	0	0	20	0	0	
		北諸県	240	286	84	7	199	3	30	77	53	20	4	27	0	0	
		西諸県	312	29	14	1	15	0	48	13	6	7	0	45	0	0	
		西臼杵	34	10	4	1	6	0	40	3	1	2	0	30	0	0	
		小計	1,164	633	155	9	332	146	31.8	146	90	52	4	30.0	0	0	
		乳用牛	2卵移植	宮崎	1	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0
				児湯	0	10	0	0	10	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0
北諸県	34			10	4	1	6	0	40.0	3	1	2	0	30.0	0	0	
西臼杵	35			20	4	1	6	10	40.0	3	1	2	0	30.0	0	0	
小計	1,199			653	159	10	338	156	32.0	149	91	54	4	30.0	0	0	
児湯	10			0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	
北諸県	0			1	0	0	1	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0	
西諸県	2			0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0	
小計	12			1	0	0	1	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0	
合計	1,211			654	159	10	339	156	31.9	149	91	54	4	29.9	0	0	

工 体内受精卵採取及び処理成績

家畜の種類	地区	受精卵回収実施頭数	受精卵回収成功頭数	受精卵回収功頭数	受精卵	正常卵数	移植卵数	凍結受精卵保存数	備考(廃棄等)
肉用牛	宮崎	2	2	30	6	0	0	0	0
	児湯	3	3	16	5	0	0	0	0
	北諸県	954	821	14,409	8,129	2,507	5,186	0	0
	西諸県	147	142	2,207	1,524	239	1,198	0	0
	小計	1,106	968	16,662	9,664	2,746	6,384	0	0
乳用牛	児湯	257	257	3,538	1,983	445	4	9	9
	北諸県	0	0	0	0	0	0	0	0
	北諸県	1	1	3	3	3	0	0	0
	小計	258	258	3,541	1,986	448	4	9	9
	合計	1,364	1,226	20,203	11,650	3,194	6,388	9	9

オ 体外受精卵採取及び処理成績

家畜の種類	地区	受精卵回収実施頭数	受精卵回収成功頭数	受精卵	正常卵数	移植卵数	凍結受精卵保存数	備考(廃棄等)
肉用牛	児湯	16	14	59	36	27	0	1
	小計	16	14	59	36	27	0	1
乳用牛	児湯	36	35	753	532	292	0	223
	小計	36	35	753	532	292	0	223
合計	52	49	812	568	319	0	224	

## 5 飼料対策

### 飼料取扱業者立入検査実績

立入検査場所	立入検査箇所		指摘事項あり		指摘事項の内容（件数）										指摘事項箇所あたり 指摘事項件数 c / b			
	a	b	箇所数	割合 % b / a	法第2章関係								製造業者届	その他		計		
					成分規格	製造の基準	保存の基準	使用の基準	表示の基準	特定飼料等	製造管理者	規格適合飼料					法第三十二条表示	
承認配合飼料工場	3	0	0	0.0													0	
その他配混合飼料工場	6	1	1	16.7											1		1	1
単体飼料工場	7	1	1	14.3											2		2	2
飼料製造業者（上記以外）																	0	
飼料添加物工場																	0	
飼料添加物製造業者（上記以外）																	0	
飼料輸入業者	2	0	0	0.0													0	
飼料添加物輸入業者																	0	
飼料販売業者	30	4	4	13.3												5	5	1.25
飼料添加物販売業者	6	1	1	16.7												2	2	2
使用者（畜産農家）	56	0	0	0.0													0	
使用者（養殖漁家）																	0	
運送業者																	0	
運送取扱業者																	0	
倉庫業者（サイロ）																	0	
倉庫業者（サイロ以外）																	0	
計	110	7	7	6.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	10	1.43

6 自衛防疫推進事業

市町村別予防注射実施成績表（宮崎支所）宮崎県畜産協会 令和6年度

事例別	豚丹毒（生） （頭）	豚丹毒（不） （頭）	オースキ病（生） （頭）	牛呼吸器5種混（生） （頭）	牛呼吸器5種混（不） （頭）	牛呼吸器5種・へモ混 （頭）	牛呼吸器6種混 （頭）	牛へモフィルス・ソムニ （頭）	牛異常産3種混 （頭）	牛異常産4種混 （頭）	炭疽 （頭）	イバラキ病 （頭）	牛流行熱 （頭）	牛流行熱・イバラキ病 （頭）	馬3種混 （頭）	馬日本脳炎 （頭）	馬インフルエンザ （頭）	馬鼻肺炎 （頭）
宮崎市				5,815		2	2	1,562	5,627	2,943	1,911							
国富町				2,547		2	2	687	3,013	859	843							
綾町				922	130		5	258	1,204	934	300				20	8	8	
日南市				1,700					2,268	21	582							
串間市	1,573			3,258			10		2,390	501	979							
西都市				2,183			17	2,183	2,728	459	684							
高鍋町				426				426	459	18	153		38					
新富町				1,839				1,839	1,681	465	550							
西米良村				34				34	51		12		20					
木城町				793				793	709	49	382							
川南町				2,124				2,153	1,602	1,107	699							
都農町				1,407				1,407	1,655		467							
計	1,573	0	0	23,048	130	0	36	11,342	23,387	7,356	7,562	0	58	20	8	8	0	

宮崎支所



市町村別予防注射実施成績表（都城支所・延岡支所）

事例別	豚丹毒（生）	豚丹毒（不）	オースキ病（生）	牛呼吸器5種混（生）	牛呼吸器5種混（不）	牛呼吸器5種・へモ混	牛呼吸器6種混	牛へモウイルス・ソムニ	牛異常産3種混	牛異常産4種混	炭疽	イバラキ病	牛流行熱	牛流行熱・イバラキ病	馬3種混	馬日本脳炎	馬インフルエンザ	馬鼻肺炎
実施団体別	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)
都城支所			954	12,223		88			8,009	3,522	6,339				8	4	15	2
三股町				1,242		3			431	129	652				9			4
小林市			2,218	9,253		30			4,532	44	4,693				13		6	7
えびの市				2,599		3			713	366	902							
高原町				3,660					1,894	235	1,844							
計	0	0	3,172	28,977	0	124	0	0	15,579	4,296	14,430	0	0	0	30	4	21	13
延岡支所				1,061		7			1,347	50	335			85				
日向市				770			64		479		254							
門川町				184					85		60							
美郷町				637					538		183							
諸塚村				157					118		53							
椎葉村				485					379		157							
高千穂町				2,504		6	2,483		3,323	11	803							
日之影町				549			551		685		170							
五ヶ瀬町				414			416		549		140							
計	0	0	0	6,761	0	13	3,514	0	7,503	61	2,155	0	85	0	0	0	0	0
合計	1,573	0	3,172	58,786	130	173	14,856	0	46,469	11,713	24,147	0	143	50	12	29	13	

## 7 牛のアルボウイルス感染症サーベイランス

(令和6年度「4本柱」で支えるひなた家畜防疫体制事業【地域防疫】)

### 1 検査概要

#### (1) アルボウイルス流行状況調査

- ① 検査材料：6月、8月、9月、10月、11月の計5回採材した未越夏牛の血液  
7月、8月、9月、10月の計4回採材したヌカカ

未越夏牛（各月）				ヌカカ（各月）		
家保	市町村数	戸数	頭数	家保	市町村数	戸数
宮崎	10	10	20	宮崎	2	2
都城	5	8	16	都城	2	2
延岡	9	9	18	延岡	2	2
計	24	27	54	計	6	6

- ② 検査方法：中和試験、遺伝子検査（PCR）及びウイルス分離

中和試験	遺伝子検査
・アカバネウイルス	・旧シンプ血清群ウイルス
・アイノウイルス	（アカバネ、アイノ、ピートン、シャモンダ等）
・チュウザンウイルス	・流行性出血病ウイルス群
・ピートンウイルス	（イバラキ等）
・シャモンダウイルス	・パリヤム血清群ウイルス
・流行性出血病ウイルス血清型6	（チュウザン、ディアギュラ等）
（EHDV-6）※	・ブルータングウイルス

※ 特異遺伝子が検出されたため実施

#### (2) 年齢別抗体保有状況調査

- ① 検査材料：令和6年11月に採材した牛の血液

家保	市町村数	戸数	頭数	頭数内訳			
				0歳	1歳	2歳	≥3歳
宮崎	10	10	83	20	20	20	23
都城	5	8	64	16	16	16	16
延岡	9	9	72	18	13	20	21
計	24	27	219	54	49	56	60

- ② 検査方法：中和試験

- ・アカバネウイルス（AKA）
- ・アイノウイルス（AINO）
- ・チュウザンウイルス（CHU）
- ・ピートンウイルス（PEA）
- ・シャモンダウイルス（SHA）

## 2 事業成績

### (1) アルボウイルス流行状況調査

#### ① 中和試験

アカバネウイルス、チュウザンウイルス、ピートンウイルスの抗体陽転は確認されなかった。アイノウイルスは、11月に国富町の2頭で抗体陽転が確認された。シヤモンダウイルスは、11月に都城市及び三股町の2頭で抗体陽転が確認された。EHDV-6は、9月に国富町、都城市、高原町及び延岡市の6頭、10月に西米良村、綾町、高鍋町、都城市及び日向市の7頭、11月に木城町、都城市、日之影町及び五ヶ瀬町の4頭で計17頭の抗体陽転が確認された。

#### ② PCR

EHDV-6及びブルータングウイルスの特異遺伝子が検出された。EHDV-6については、9月に綾町、高鍋町、都城市、高原町及び延岡市の7頭、10月に西米良村、綾町、高鍋町、都城市、高原町及び延岡市の8頭、11月に西米良村、綾町、高鍋町、都城市、延岡市、日向市、高千穂町及び日之影町の11頭から検出された。ブルータングウイルスについては、10月に高千穂町及び日之影町の2頭、11月に日之影町の1頭から検出された。その他のウイルスは陰性であった。

#### ③ ウイルス分離 (PCR 陽性検体で実施)

調査月	調査頭数	陽性頭数	分離ウイルス
9月	7	3	EHDV-6、ブルータング※
10月	10	0	-
11月	12	0	-

※ 動物衛生研究部門にて分離

#### ④ ヌカカの PCR 及びウイルス分離

8月に採材されたヌカカから旧シンプ血清群ウイルスの特異遺伝子及びEHDV-6の特異遺伝子が検出された。ウイルス分離では、旧シンプ血清群ウイルスが分離され、動物衛生研究部門で詳細を解析中。

### (2) 年齢別抗体保有状況調査

抗体保有率の推移 (%)

ウイルス	令和4年度				令和5年度				令和6年度			
	0歳	1歳	2歳	≥3歳	0歳	1歳	2歳	≥3歳	0歳	1歳	2歳	≥3歳
AKA	0.0	15.0	33.9	57.8	0.0	16.0	54.4	76.4	1.9	14.3	33.9	56.7
AINO	0.0	3.3	19.4	46.9	0.0	2.0	14.0	47.3	3.7	12.2	33.9	58.3
CHU	3.2	56.7	85.5	96.9	7.4	48.0	94.7	94.5	13.0	57.1	92.9	93.3
PEA	9.7	38.3	56.5	76.6	0.0	16.0	49.1	80.0	16.7	42.9	69.6	76.7
SHA	0.0	5.0	8.1	26.6	0.0	0.0	3.5	20.0	5.6	16.3	23.2	33.3

### 8 家畜衛生講習会受講状況

事業名：家畜伝染病予防事業

根拠：家畜衛生講習会実施要領（平成30年3月 一部改正）

講習会・研修会名	家保名	氏名	場所	期間
基本講習会	宮崎家保	吉田 智美	動物衛生研究部門本所	5月13日～5月24日
	宮崎家保	鎌田 博志		
総合講習会	都城家保	前田 浩二	動物衛生研究部門鹿兒島研究拠点	8月7日～8月9日
	宮崎家保	眞鍋 千穂		
病性鑑定特殊講習会（細菌）	延岡家保	柿木 彩子	動物衛生研究部門つくば研究拠点	5月8日～10月30日
	都城家保	松本 佳織		
牛疾病特殊講習会	延岡家保	後藤 文	動物衛生研究部門本所（つくば）	6月12日～6月21日
	宮崎家保	瓜生 敬博		
豚疾病特殊講習会	延岡家保	遠矢 宏美	動物衛生研究部門本所（つくば）	6月26日～7月5日
	宮崎家保	上野 明香		
鶏疾病特殊講習会	都城家保	大澤 美香	動物衛生研究部門本所（つくば）	5月30日～6月7日
	都城家保	坂本 拓己		
獣疫学講習会	宮崎家保	野村 真知子	動物衛生研究部門	7月8日～7月12日
	延岡家保	西田 憲史		
海外悪性伝染病特殊講習会	宮崎家保	三城 せいら	動物衛生研究部門本所（つくば）	8月20日～8月23日
	延岡家保	中山 瑞紀		
病性鑑定研修会（ウイルス）	宮崎家保	米山 伸	動物衛生研究部門本所（つくば）	10月1日～10月4日
	宮崎家保	高橋 由佳		
病性鑑定研修会（細菌）	宮崎家保	高橋 由佳	動物衛生研究部門本所（つくば）	10月22日～10月25日
	宮崎家保	高橋 由佳		
病性鑑定研修会（病理）	宮崎家保	高橋 由佳	動物衛生研究部門本所（つくば）	10月8日～10月11日
	宮崎家保	高橋 由佳		
病性鑑定研修会（生化学）	宮崎家保	高橋 由佳	動物衛生研究部門本所（つくば）	10月15日～10月18日
	宮崎家保	高橋 由佳		

### 9 家畜防疫演習及び研修会等実施状況

防疫演習等の実施回数（延べ）	口蹄疫	豚熱/アフリカ豚熱	高病原性鳥インフルエンザ	全畜種	計
宮崎家保 <sup>※</sup>	2	1	13	3	19
都城家保 <sup>※</sup>	1	0	13	1	15
延岡家保 <sup>※</sup>	0	1	6	1	8
家畜防疫対策課	0	1	1	0	2
計	3	3	33	5	38

※地域・関係団体等主催の防疫演習等も含む

## Ⅲ 家畜保健衛生業績発表会集録

令和6年度

## 令和6年度 家畜保健衛生業績発表会演題

第1部	ページ
1 牛ヨーネ病の清浄化対策とその課題	.....39
宮崎家畜保健衛生所	風見 清
2 牛ヨーネ病の清浄農場復帰の早期化に取り組んだ事例	.....41
都城家畜保健衛生所	弓戸 猛
3 家畜人工授精所の適正な業務実施のための立入検査～家畜改良増殖法の改正等による変化～	.....44
宮崎家畜保健衛生所	倉永 眞成
4 豚熱及びアフリカ豚熱の発生を想定した管内養豚農場の防疫対応計画の策定	.....48
延岡家畜保健衛生所	遠矢 宏美
5 豚熱ワクチン接種に係る登録飼養衛生管理者の養成に関する取組	.....51
都城家畜保健衛生所	上西 鋼騎
6 養豚密集地域における豚熱免疫付与状況等確認検査の対応	.....54
都城家畜保健衛生所	伊藤 学志
第2部	
7 2023年度に県内で確認された流行性出血病ウイルス血清型6の流行	.....57
宮崎家畜保健衛生所	三城 せいら
8 宮崎県内の牛で確認されたロドコッカス・エクイ感染症6症例の病理学的検索	.....61
宮崎家畜保健衛生所	日高 慎也
9 黒毛和種繁殖牛における腹腔内及び胸腔内に多数の肉芽腫性結節を認めた <i>Nocardia africana</i> による牛ノカルジア症	.....66
宮崎家畜保健衛生所	米山 伸
10 <i>Salmonella Typhimurium</i> (04:i:-)が分離された子牛の化膿性髄膜脊髄炎の一例	.....70
延岡家畜保健衛生所	西田 憲史
11 母豚の豚熱ワクチン抗体価に影響を与える要因分析	.....72
宮崎家畜保健衛生所	鍋倉 良輔

## 牛ヨーネ病の清浄化対策とその課題

宮崎家畜保健衛生所

○風見清 稲井耕次

1 はじめに：牛ヨーネ病は、家畜伝染病予防法第5条により乳用牛等を対象に5年ごとの検査が義務付けられ、発生農場については、牛のヨーネ病防疫対策要領（以下、要領）により早期の清浄化を目指すこととしている。今回、大規模酪農場（以下、A農場）において牛ヨーネ病が発生し、要領に基づき飼養衛生管理の改善、清浄農場からの牛の導入、導入牛の検査、同居牛の検査により清浄化を目指していたが、好転しない状況が続いていた。そこで、牛ヨーネ病の特性を踏まえた対策を施し、良好な効果が見られたので概要を報告する。また、その後発生した中小規模酪農場（以下、B農場）において、先の知見を踏まえて対策を講じ、一定の効果が見られたので報告する。

2 A農場対策の概要：同居牛の検査で、初回発生から4か月後に定量陽性1頭、7か月後、11か月後は全頭陰性、16か月後に定量陽性1頭、19か月後に定性陽性1頭と、清浄化が好転しない状況が続いた。そのため、農場と協議の上、牛ヨーネ病の特性と飼養形態を踏まえた次の3つの視点から対策を講じた。まず、水平感染対策として、高齢牛、長期未受胎牛、低泌乳牛の積極的な更新を進めた。また、患畜確認時に同居していた子牛を農場外に移動した。次に、垂直感染対策として、後継牛の自家生産を中止し、肉用牛の受精卵移植・F1生産に切り替え、子牛を肥育牛として契約農場に出荷することとした。さらに、環境汚染対策として、成牛の更新や子牛の移動により空いたスペースを徹底的に消毒した。また、戻し堆肥の敷料としての利用を中止した。（図1）

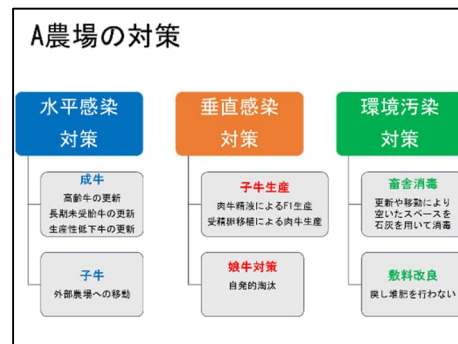


図1

3 B農場対策の検討：前述の3つの視点をもとに清浄化対策を検討した。水平感染対策の成牛については、更新が定期的実施されており、老齢牛は皆無の状況であった。同対策の子牛について、環境検査により限局的な排菌が確認されており、複数感染のリスクは少ないものと考えられた。垂直感染対策の子牛生産については、受精卵移植等による肉子牛生産を行っており、自家生産・自

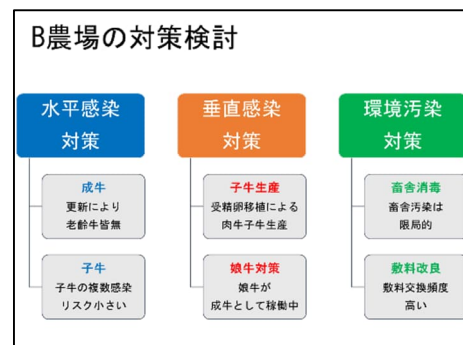


図2

家育成牛は残らない状況であった。娘牛対策については、患畜は妊娠牛として導入されており、娘牛が飼養されていた。環境汚染対策の畜舎消毒については、環境検査により畜舎汚染は限局的と判明しており、発生後の消毒処置で十分な効果を得ていると考えられた。同対策の敷料改良については、普段から敷料の交換を頻繁に行なっており、常に石灰を混入した乾いた敷料が敷かれている状況であった。よって、現状の衛生対策の継続、リスクのある患畜の娘牛の継続的な監視を対策として、清浄化を目指していくことにした。(図2)

4 結果とまとめ：A農場については、その後の同居牛検査で陰性を維持するなど、これら3つの対策により、発症リスクが高い搾乳牛及び子牛の減少、さらに環境中の菌量が相対的に減少したものと考えられた。B農場については、患畜発生から7か月後の検査において娘牛の定性陽性が確認され、3つの視点からの対策の有効性を再認識することになった。以上から、牛ヨーネ病の清浄化には、要領に基づく対策に加え、農場の経営方針や飼養管理方法について十分に把握した上で、今回示した疾病の特性と飼養形態を踏まえた3つの視点からの対策が効果的と考えられた。(図3)

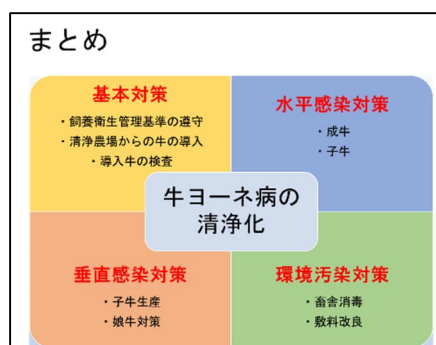


図3

5 課題：酪農場で生産された肉用子牛は、自農場に肥育施設があれば肉牛として食肉市場に出荷されるが、なければ子牛市場に出荷される。要領では、やむを得ない状況でない限りカテゴリ2農場（ヨーネ病清浄化対策実施農場）から導入しないものとする、と記されている。このことにより、カテゴリ2農場から出荷された子牛は、市場の理解が得られず、相対による安価な取引を余儀なくされること、取引自体を避けられることがあり、その場合、酪農経営において大きな収入源である子牛が利益を生まざ、農場の経営が数年に渡って圧迫されることになる。(図4) 牛ヨーネ病について、農場ができることは外部からの侵入に十分な注意を払うこと、家保ができることは主体となって早期の清浄化へ向けた対策を推し進めることであるが、行政や関係機関が連携しながら肉用子牛の出荷について検討することも重要と思われる。



図4



## 牛ヨーネ病の清浄農場復帰の早期化に取り組んだ事例

都城家畜保健衛生所小林駐在<sup>1)</sup> 都城家畜保健衛生所<sup>2)</sup> 宮崎家畜保健衛生所<sup>3)</sup>  
○弓戸猛<sup>1)</sup> 坂本拓己<sup>2)</sup> 松本佳織<sup>2)</sup> 日高慎也<sup>3)</sup> 中山瑞紀<sup>3)</sup>

1 はじめに：牛のヨーネ病は *Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis* (ヨーネ菌) を原因菌とし、数か月から数年間の長い潜伏期間を経て、慢性の水様性下痢、泌乳量低下、削瘦等を引き起こす。発生農場では、牛のヨーネ病防疫対策要領 (以下、要領) に基づく防疫措置及びまん延防止対策により清浄化を図ることとしている。今回、家畜伝染病予防法第5条に基づく検査 (以下、5条検査) にて患畜を摘発したが、消毒の徹底等により1年以内に清浄復帰した取組について報告する。

2 発生状況：2023年11月20日に管内酪農場で5条検査を実施し、ホルスタイン種44頭のうち1頭でELISA陽性となった。農場主に当該牛の隔離及び搾乳停止を指示し、同月22日に当該牛糞便を用いてリアルタイムPCR (以下、qPCR) による確定検査を実施した結果、基準値の1,000倍を超える1.18pg/2.5μlで定量陽性となり患畜と判定された。患畜は同月28日に当所で鑑定殺を実施したが、削瘦等の臨床症状



図1

は認められなかった (図1)。剖検時、空腸の一部及び回腸全体に粘膜の肥厚、皺壁の形成が認められた。病理組織検査では空・回腸及び腸間膜・回盲リンパ節に軽度の肉芽腫性炎がみられ (図2)、同部の Ziehl-Neelsen 染色により抗酸菌が確認された (図3)。さらに、細菌学的検査により、空・回腸及び腸間膜リンパ節の qPCR 検査でヨーネ菌特異

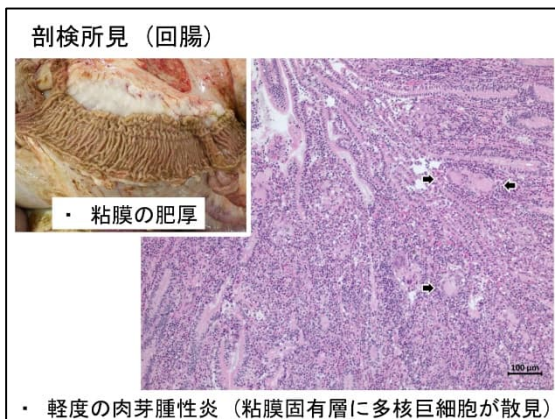


図2

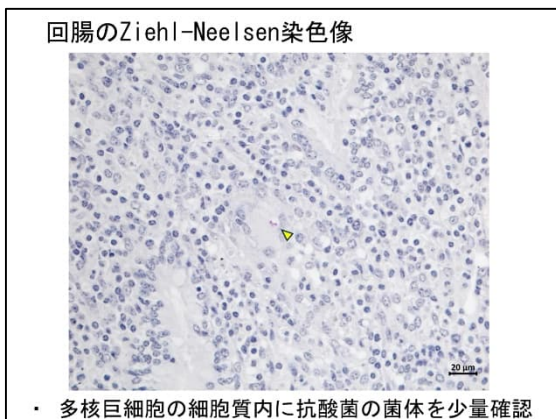


図3

遺伝子を検出した。

**3 清浄化までの取組**：まん延防止を目的に、要領に基づく同居牛の ELISA 及びヨーニ  
ン検査（以下、同居牛検査）を実施し全頭陰性を確認した。併せて、農協や市の担当者  
と情報を共有し、地域内外でのまん延防止と当該農場で生産された黒毛和種子牛の販路  
確保について協力を依頼した。また、農場から公共育成牧場へ預託されていた 8 頭の検  
査を実施し全頭陰性を確認した。農場主は 1 日も早い清浄復帰を希望したが、ヨーネ菌  
の特性を丁寧に説明し、同居牛検査と併せて、qPCR 検査を用いた環境検査（以下、環境  
検査）による汚染箇所の把握及び飼養形態に沿った農場消毒と qPCR 検査を用いた自主  
検査（以下、自主検査）の実施を提案した。環境検査では患畜の飼養場所を中心に 51 か  
所を採材し、うち 16 か所でヨーネ菌特異遺伝子を検出した（図 4、5）。

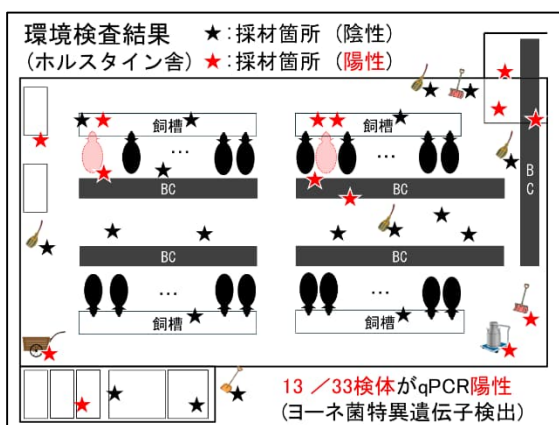


図 4

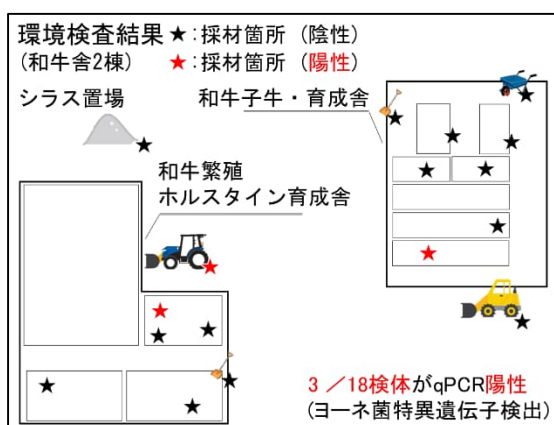


図 5

農場の消毒について、農場主は牛体への影響が少なく、飼養管理作業に支障を来す  
事のない消毒方法を希望したため、家保内で事前検証を行い、消毒効果を維持しつつ農  
場主の要望に沿うよう、特異遺伝子検出箇所を中心にクレンテ、熱湯及び石灰乳を用い  
た消毒を 3 日間で実施した（図 6、7、8）。

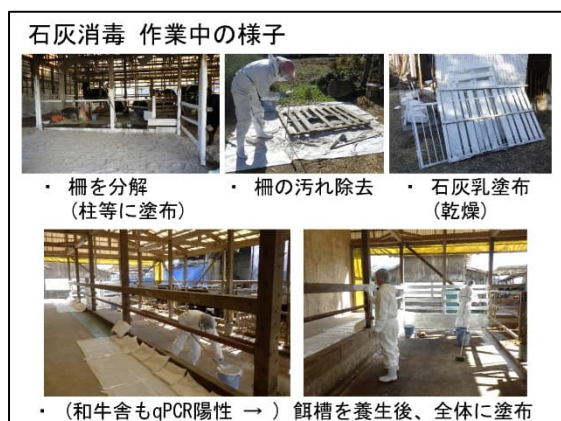


図 6

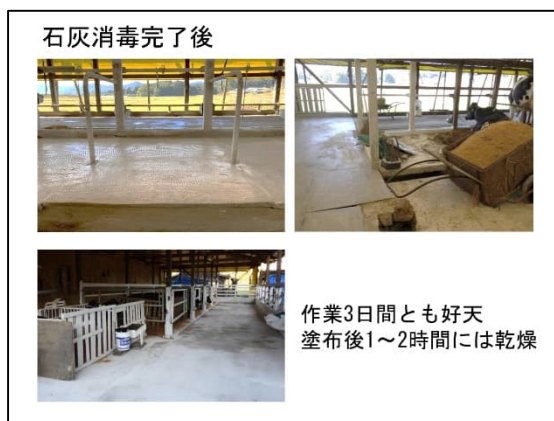


図 7



図 8

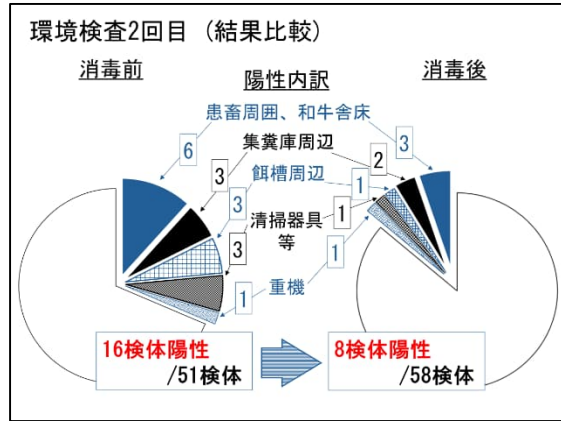


図 9

その後、12月下旬に実施した環境検査では検出箇所が58か所のうち8か所と半減した（図9）。さらに、2024年2月の自主検査で全頭陰性を確認した。以降は同居牛検査を2024年3月、6月及び9月に実施した結果、陽性牛は確認されず2024年9月4日に清浄化を達成した。

4 **まとめ**：今回の発生農場では、ヨーネ菌が環境中に広範囲で検出され、清浄化へ向けた取組の長期化が予想されたが、農場主の高い衛生意識に加え、要領に基づく対策と並行した効果的な消毒と自主検査の実施により、約10か月で清浄化を達成した。引き続き、管内での清浄性を維持するとともに、今後のヨーネ病発生時には本事例をモデルとし、農場の早期清浄化とまん延防止に取り組んでいきたい。

## 家畜人工授精所の適正な業務実施のための家保の立入検査～家畜改良増殖法改正等による変化～

宮崎家畜保健衛生所  
○倉永眞成 丸田哲也

1 はじめに：家畜改良増殖法では、他家授精するためには家畜人工授精所（以下授精所）の開設が必要だと規定している。平成31年3月29日付け生畜第1857号「和牛精液等の適正管理に関する指導の徹底について」（以下、通知）により授精業務の有無にかかわらず精液等の保存のみであっても授精所の開設が必要と明確化され、さらに、令和2年9月施行「家畜改良増殖法施行規則等の一部を改正する省令」（以下、改正省令）によって、授精業務に対する規制がより強化された。これらを受け、管内授精所数、家畜保健衛生所（以下、家保）による授精所への指導内容に変化が生じてきている。今回、今後の業務に資するため管内授精所数の推移、家保の指導記録結果をまとめたので報告する。

2 管内授精所数の変化：平成20年から30年までは、授精所の新規開設件数は年間に5件程度であったが、平成31年度以降は年間15件程度に増加した。授精所数は、平成30年度は授精業務を行う授精所が66件、保存のみを行う授精所が6件であったが、令和6年度には授精業務を行う授精所が75件、保存のみを行う授精所が60件となった。平成31年以降、授精所数の新規開設数が増加し、その中でも保存のみを行う授精所が増加しており、通知の発出時期と一致していることから、その影響が示唆された。

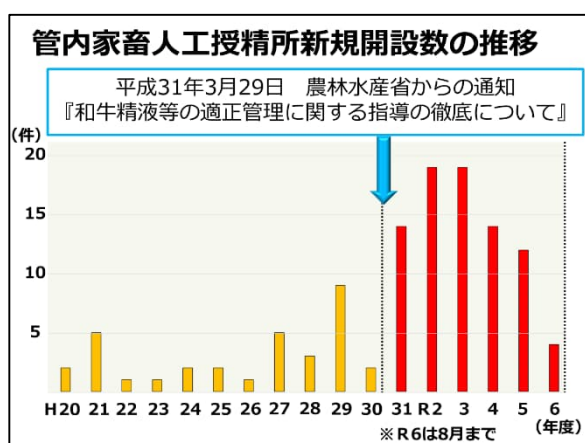


図 1

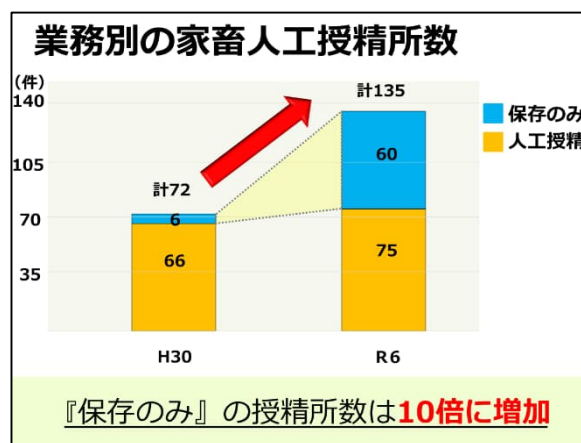


図 2



3 家保の指導事項：平成 31 年から令和 5 年度までの家保の指導事項は、主に授精業務に関する人工授精簿等関連 35 件、授精証明書等関連 41 件、精液証明書等関連 27 件があった。さらに、令和 2 年 9 月から改正省令で新たに加わった項目で、保存業務に関する譲渡等記録簿関連 27 件であった。年間の指導事項全体に占める割合として、人工授精簿等関連は平成 31 年に 36%、令和 2 年度に 31%と割合が高かったが、令和 5 年度には 13%と低くなってきている。これに代わり、譲渡等記録簿関連が令和 4 年度には 39%、令和 5 年度には 23%と指導事項で最も割合が高くなってきた。

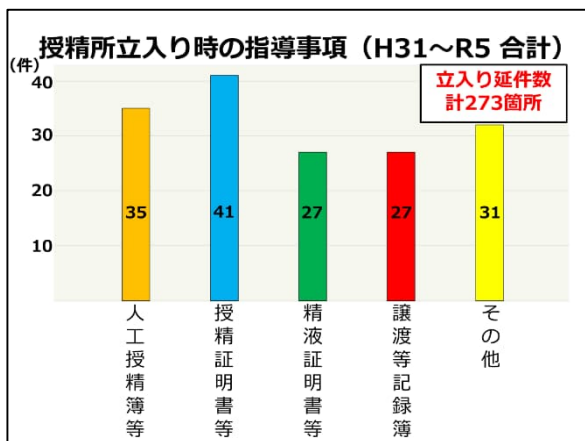


図 3

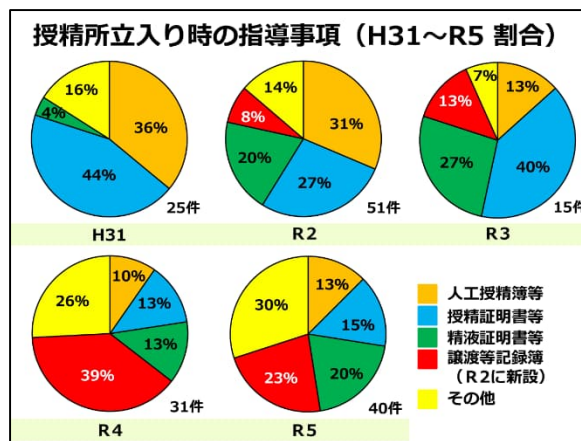


図 4

人工授精簿等関連では記載遅れについて最も指導を行なったが、令和 3 年以降は減少してきている。指導内容としては、記載遅れに対しては、法律のとおり遅滞なく記載するように指導し、すぐに記載するのが難しい場合、野帳に必要事項を記載し、早めに授精簿へ転記するように指導している。また、譲渡の記録を兼ねる場合は 10 年間保存することを指導している。記載漏れ、記載内容不備に対する指導は任意様式で問題ないが法律で定められた様式の項目は網羅するように記載することを指導している。

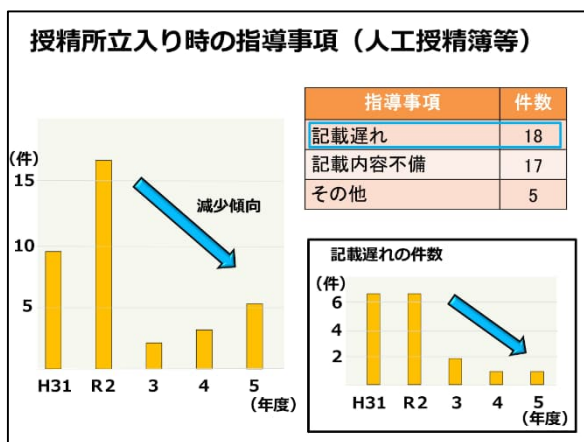


図 5

### 家保の指導内容 (人工授精簿等)

**記載遅れ** 法律では遅滞無く授精簿に記載しなくてはならないとされている

💡 **すぐに記載するのが難しい場合** → 野帳に必要事項を記載 → 早めに授精簿へ転記

💡 **譲渡の記録を兼ねる場合** → 10年間保存すること

**記載漏れ、記載内容不備**

授精簿は任意様式で問題ない

↓

法律で定められた項目は網羅するように記載

授精簿様式

図 6

授精証明書等関連では写し未保管について最も指導を行なったが、令和3年以降増加傾向にあった。写し未保管に対する指導としては法律に基づき最低5年間保管しなければならないことのほか、後日、授精証明書に関してトラブルが発生した場合、授精師自身を守る証拠にもなることを伝え必ず写しを取るよう指導している。記載漏れ、記載内容不備については授精簿と同様に指導している。

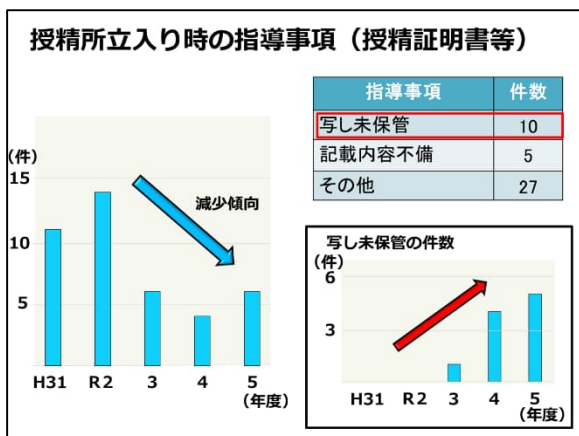


図 7

**家保の指導内容（授精証明書等）**

**写し未保管**  
 交付した授精証明書の写しは家畜人工授精師が保管することになっている（保管期間：最低5年間）  
 後日、授精証明書に関してトラブルが発生した場合、授精師自身を守るための証拠にもなる  
**必ず写しを取るよう指導**

**記載漏れ、記載内容不備**  
 授精証明書は任意様式で問題ない  
 法律で定められた項目は網羅するように記載

授精証明書様式

図 8

精液証明書等関連では指導事項のほとんどが譲渡経由欄未記載であった。譲渡経由欄未記載に対する指導としては、譲渡・譲受の際必ず記載しなければならないことを指導し、書き方は原則、譲渡者が譲渡者、譲渡日、譲受者を記載し、譲受者が譲受日を記載するように指導している。

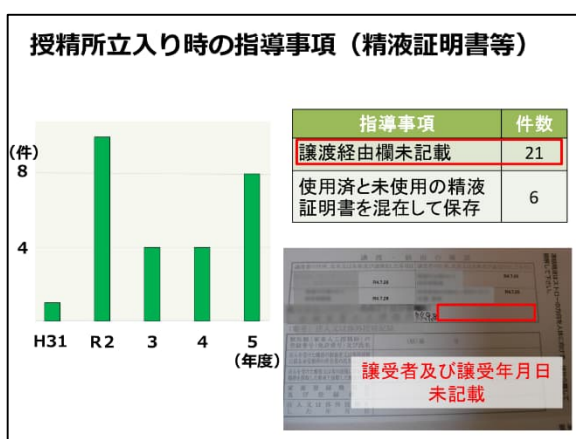


図 9

**家保の指導内容（精液証明書等）**

**譲渡経由欄未記載**

譲渡・経由の確認  
 譲渡者の住所、氏名又は名称及び譲渡を受けた年月日  
 譲受者の住所、氏名又は名称及び譲受けをした年月日  
 A (住所、氏名又は名称) R5.10.01 B (住所、氏名又は名称) R5.10.01  
 (参考) 移種記録

原則、譲渡者が譲渡者、譲渡日、譲受者を記載  
 譲受者は譲受日を記載

ただし、両者の同意があればどちらかが記載してかまわない

図 10

譲渡等記録簿関連ではすべての指導事項が未整備であった。譲渡等記録簿は令和2年9月28日家畜改良増殖法施行規則等の一部を改正する省令で新たに追加されたものであり、知らない人も多かったため、記録しなければならない項目を精液、受精卵それぞれ示し10年間の保存が必要であることを指導している。

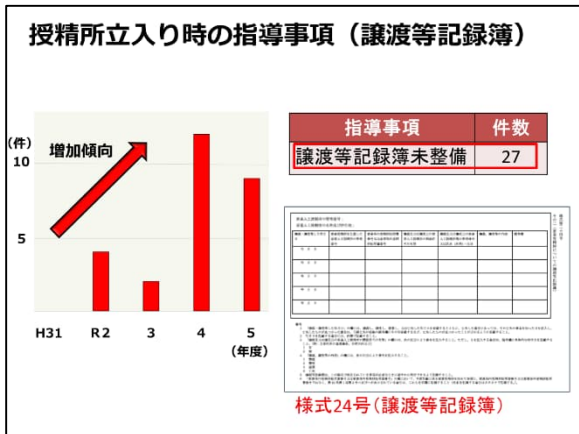


図 11

**家保の指導内容（譲渡等記録簿）**

**譲渡等記録簿未記載**

R2.9.28『家畜改良増殖法施行規則等の一部を改正する省令』で新たに追加

記録しなければならない項目

精液	受精卵
①譲渡・譲受年月日	①譲渡・譲受年月日
②種畜の名称	②受精卵を作成した家畜人工授精所の管理番号
③精液採取年月日	③受精卵証明書番号
④精液証明書番号	④相手先の家畜人工授精所開設有無
⑤相手先の家畜人工授精所開設有無	⑤家畜人工授精所の管理番号又は氏名・住所
⑥家畜人工授精所の管理番号又は氏名・住所	

💡 10年間保存するように指導

図 12

4 まとめ：通知発出後に授精所の新規開設数が増加し、保存のみを行なう授精所数は10倍となり、令和6年度には管内授精所の半数が保存のみを行う授精所となった。また、改正省令により家保の指導事項も授精業務に関する事項よりも、保存に関する事項が増えてきている。人工授精簿や授精証明書等の授精業務に関する事項については以前からの家保の指導により減少傾向ではあるが、精液証明書や譲渡等記録簿の保存業務に関する事項は増加傾向にあるため、今後は、保存業務に関する事項をより重点的に指導していく必要がある。今回の結果を踏まえ立入検査の際は、①譲渡等記録簿の記載、②精液証明書等の譲渡経由欄の記載、③授精証明書等の写しの保管について重点的に指導を行い、さらに、立入り以外にも研修会や通知を行うことで、管内授精所が法改正に対応し適正な授精業務及び保存業務を行えるように業務を推進していきたい。

**まとめ①**

**家畜人工授精所数の推移**

平成31年3月29日の農林水産省からの通知により、精液等の処理には『保存』が含まれることが明確化

↓

**啓発チラシの配布により**

家畜人工授精所の新規開設数

通知前 → 通知後

年間5件程度 → 年間15件程度

大幅に増加

**保存のみを行う授精所数が10倍に増加**

約半数の授精所が保存のみの業務

図 13

**まとめ②**

**主な不備事項と家畜保健衛生所の指導内容**

授精業務	保存業務
人工授精簿	精液証明書
授精証明書	譲渡等記録簿
減少傾向 ↘	増加傾向 ↗
<ul style="list-style-type: none"> <li>授精師による単純な確認ミスによる物が多い</li> <li>授精証明書の写し未保管は増加傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精液証明書の譲渡経由欄未記載は一定数の指導</li> <li>譲渡等記録簿未整備は増加傾向</li> </ul>

💡 授精業務: 授精業務を行う授精所へ家保が繰り返し指導を行ったことで減少

💡 保存業務: 授精所急増とコロナ禍により、省令改正後の立入頻度が低下したことも一因となり増加

図 14



# 豚熱及びアフリカ豚熱の発生を想定した管内養豚農場防疫対応計画の策定

延岡家畜保健衛生所

○遠矢宏美 岐本博紀 入田重幸

1 はじめに：現在、九州内における野生イノシシの豚熱（以下 CSF）感染事例や、近隣諸国におけるアフリカ豚熱（以下 ASF）の発生に伴い、本県における CSF・ASF の侵入リスクが高まっている。発生時は豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づき、原則 24 時間以内のと殺の完了及び 72 時間以内の焼埋却等の迅速な防疫対応が求められる。

発生農場の防疫措置の中でも特に事前調査班の業務はその後の防疫作業の効率に影響を及ぼす重要な工程である。

また、飼養衛生管理基準の項5の(3)において、大規模農場所有者は監視伝染病の発生を想定した防疫対応計画を策定することが義務づけられており、家畜防疫員はその防疫対応計画の指導のためにも、平時から事前調査を習熟しておく必要があるが、その判断は豚の殺処分経験のある家畜防疫員の経験則に依存する傾向にある。しかし、2010年の本県での口蹄疫発生以降、豚の殺処分経験者は減少しているため、養豚農場における防疫対応経験の承継が喫緊の課題となっている（図1）。

そこで今回、CSF・ASF発生を想定した管内養豚農場全ての事前調査を行ったので、その概要及び管内養豚農場において特徴的な2事例を報告する。



図1

2 取組内容（図2）：管内養豚農場の巡回時に、農場内の普段の豚の動線、豚舎間の通路の幅、及び埋却地までの道幅や距離を確認した。その後、宮崎県口蹄疫防疫マニュアルに基づき事前調査票を作成し、農場の平面図に現地テント設置場所、農場出入口、殺処分場所、殺処分方法及び人や重機の動線を示し、所内協議を行った。

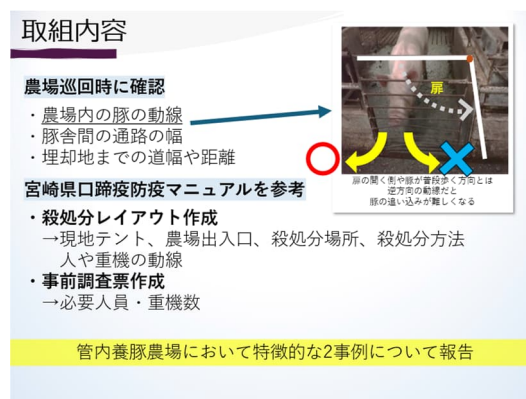


図2

3 結果：事例1：母豚 180 頭、雄豚 25 頭一貫経営農場。周辺は住宅地のため、埋却地は車で 30 分程の遠隔地にある。豚舎間が狭く、重機が入らない構造（図3）で、未使用の



豚舎や豚房も点在している。殺処分レイアウトの想定として、まず発生リスクの高い子豚舎から、未使用の豚房を使用してガス殺を実施する。母豚は分娩舎やストール舎から移動させ、豚舎間のスペースにて電殺及び薬殺を実施する。肥育舎の3棟は全て肥育豚舎内を普段の動線通りに移動させ、出荷台から特装車に乗せた後にガス殺を実施する。また、豚房内で薬殺や電殺を実施する予定の雄豚の数も多いため、豚追いや殺処分後の豚の搬出のための人員や、選果場用ローラーが多く必要と考えられた。道が狭く、埋却地からも遠いため、車両は特装車（4トン）を3台、ダンプカー（4トン）を3台で計上した（図4）。

### 事例1：殺処分レイアウト

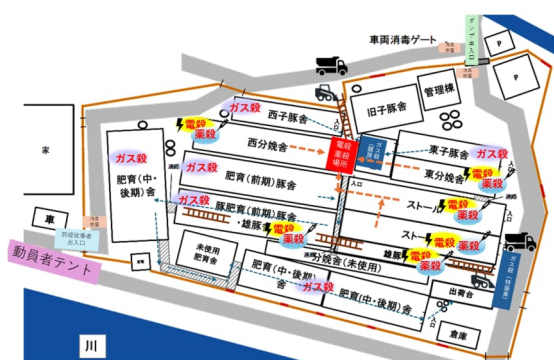


図3

### 事例1：必要人員・重機

#### 人員

リーダー：獣医師、畜産職各1名  
獣医師：12名（R6版 CSF・ASF発生時担当割り当てより）

	ガス殺 (60~100頭/時間・班)		薬殺 (20頭/時間/班)		電殺 (60頭/時間・班)		計
	1班	× 1 班	1班	× 1 班	1班	× 1 班	
獣医師	1人	2人	6人	6人	4人	4人	12人
追い込み	10人	10人	10人	10人	10人	10人	36人
保定	—	—	6人	6人	—	—	—
薬液補助	—	—	3人	3人	—	—	—
シート・ガス	10人	10人	—	—	—	—	—
コンパネ誘導	—	—	10人	10人	20人	20人	57人
搬出補助	(14人/搬出場所) × 2 箇所 = 28人						—

#### 重機

・ボブキャット：小1台（ガス殺【豚房】・電殺薬殺用）  
・フォークリフト（ヒンジ付きカゴ必要）：農場所有1台（ガス殺【特装車】用）  
・ダンプカー：特装車4トン3台（ガス殺【特装車】用）  
平型4トン3台（ガス殺【豚房】・電気薬殺用）

※必要物資は人数や頭数に準ずる

図4

事例2：母豚70頭、雄豚9頭の一貫経営農場。飼養衛生管理区域に自宅や直売所が隣接し、幹線道路に面している（図5）。埋却地は500~600メートル先。殺処分レイアウトは、まず幹線道路を挟んだ向かいの駐車場を現地テント設置場所としたため、幹線道路の片側交互通行の必要があると考えられた。飼養衛生管理区域内では車や重機が入れる広さの通路が1本のみであり、薬殺・電殺・ガス殺の同時進行が困難なため、感染リスクの高い子豚や肥育豚をまず特装車を用いたガス殺を行い、殺処分スペースを可動化させることで、母豚や雄豚の電殺・薬殺後の搬出动線を確保した。車両は特装車（4トン）を2台、ダンプカー（4トン）を1台で計上した（図6）。

### 事例2：殺処分レイアウト



図5

### 事例2：必要人員・重機

#### 人員

リーダー：獣医師、畜産職各1名  
獣医師：12名（R6版 CSF・ASF発生時担当割り当てより）

	ガス殺 (60~100頭/時間・班)		薬殺 (20頭/時間/班)		電殺 (60頭/時間・班)		計
	1班	× 1 班	1班	× 1 班	1班	× 1 班	
獣医師	1人	2人	6人	6人	4人	4人	12人
追い込み	10人	10人	10人	10人	10人	10人	36人
保定	—	—	6人	6人	—	—	—
薬液補助	—	—	3人	3人	—	—	—
シート・ガス	10人	10人	—	—	—	—	—
コンパネ誘導	—	—	10人	10人	20人	20人	57人
搬出補助	(14人/搬出場所) × 1 箇所 = 14人						—

#### 重機

・ボブキャット：小1台（電殺薬殺用）  
・フォークリフト（ヒンジ付きカゴ必要）：1台（ガス殺【特装車】用）  
・ダンプカー：特装車4トン2台（ガス殺【特装車】用）  
平型4トン1台（ガス殺【豚房】・電気薬殺用）

※必要物資は人数や頭数に準ずる

図6

4 まとめ:養豚農場全体の傾向として、豚舎は発育ステージ毎の畜舎があるため、鶏や牛等の他の家畜舎と比べて構造が複雑であることが挙げられた。今回は発生リスクの高い離乳～子豚舎の殺処分から実施することを想定した。

管内養豚農場の構造の共通点として、豚舎間や埋却地までの道が狭く、飼養衛生管理区域内に高低差があるため、大型の車両や重機が使えず、殺処分スペースの確保や殺処分後の搬出が困難であることが挙げられた。対策として、特装車で殺処分や、小型車両を用いて搬出することを想定した。

今後は現地テントの設置場所の確保、夏場の防疫作業方法や、さらに作業効率や動物福祉に即した殺処分方法の再検討が課題となった(図7)。

今回は、管内の養豚農場において平時から事前調査を行うことで、発生時の備えとすることが出来た。今後は今回の結果を農場主、管理獣医師や他行政機関と共有し、さらに現場に即した事前調査票とするために定期的に見直しを行っていく。

また、今回の調査で得られた知見を今後マニュアル化し、県内の家畜防疫員に共有することで、殺処分経験のない家畜防疫員でも、大規模所有者の対応計画に対して適切なアドバイスを行い、発生時もスムーズに現地調査が実施できるよう体制を整えていきたい。

**結果のまとめと課題**

**養豚農場全体の傾向**

- ・発育ステージ毎の畜舎があり構造が複雑
- ・発生リスクの高い離乳～子豚舎での殺処分を優先的に想定

**管内養豚農場の傾向**

- ・豚舎間や埋却地までの道が狭い
- ・衛生管理区域内に高低差がある
- ・大型の車両や重機が入らない

= 殺処分スペース確保、殺処分後の搬出難

▶ 特装ダンプや小型車両で対応

**課題**

- ・テント設置場所の確認
- ・道路封鎖の可能性
- ・夏場の防疫作業(休憩場所確保難)
- ・殺処分方法の再検討




図7

# 豚熱ワクチン接種に係る登録飼養衛生管理者養成に関する取組

都城家畜保健衛生所

○上西鋼騎 伊藤学志 齊藤幸恵

## 1 はじめに

2023年8月30日、佐賀県の養豚農場において豚熱の発生が確認され、9月5日、豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づき、本県が豚熱ワクチン接種（以下、ワクチン接種）推奨地域に追加された。その後、9月27日から豚熱ワクチンの初回接種を開始した。当所の所管する西諸県・北諸県地域は、豚飼養農場224戸、総飼養頭数約46万頭の養豚密集地域であり（図1）、家畜防疫員及び知事認定獣医師による早期のワクチン接種が困難な地域であった。そのため初回の全頭接種から登録飼養衛生管理者（以下、登録管理者）を主体とした接種を進めた。

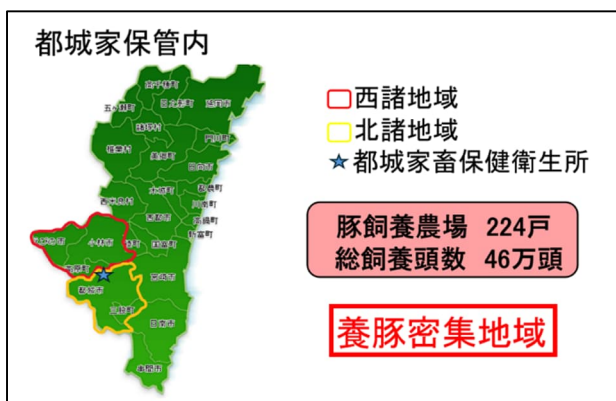


図1

## 2 研修会の開催

登録管理者によるワクチン接種を可能にするために、本県では年度当初から研修会資料や接種マニュアル、各種様式の作成など準備を進めていた。8月中旬には宮崎県豚熱ワクチン実施要領及び宮崎県登録管理者による豚熱ワクチン接種のための研修会実施要領が制定された。これに合わせて当所では、9月からの開催を目標として、研修会場の確保、開催日時調整を行い、佐賀県での発生直後の9月1日から初回の研修会を開始することができた。初回の研修会は、短期間で多数の受講申込みが想定されたため、農場の管理者等が参加しやすいよう、時間帯を午前及び午後、会場を当所の研修室や管内の

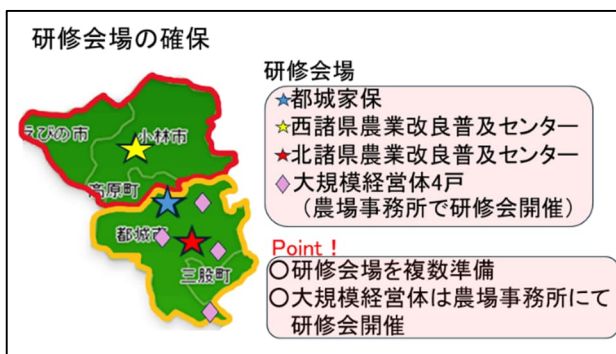


図2



図3

農業改良普及センターの3か所に分けて設定し、加えて、大規模経営体4戸では家畜防疫員が農場事務所において研修を行った（図2、3）。研修内容は基礎、制度及び接種技術の3部構成とし、最新の家畜防疫情報についても組み入れた。ワクチン接種開始日までに計14回開催し、294名の登録管理者を確保するとともに、その後も11月末の初回のワクチン接種終了まで計31回開催した。2024年からは2か月に1回開催し、8月末までに累計36回の開催、574名の登録管理者を養成した（図4）。

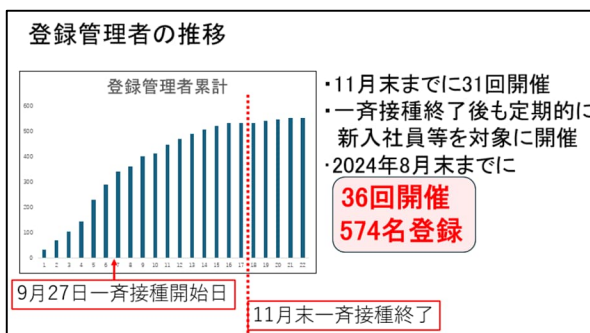


図4

### 3 フォローアップ研修（以下、FU研修）

登録管理者が年1回以上受講する必要があるFU研修については、登録管理者が効率的かつ効果的に受講可能な方法を検討した。登録管理者は登録時に初回の研修を受講していることも考慮し、県庁ホームページに研修資料の掲載、YouTubeに研修動画を公開し、各自での受講後に受講報告書を提出する形式とした。加えて、農場管理者宛に動画URLやQRコードを記載した通知文を送付し広く周知した（図5）。なお、資料は初回の研修会の内容に加え、免疫付与状況確認検査（以下、確認検査）の結果を入れ込んだ。

**フォローアップ研修の受講**

- 県庁HPの研修資料
- YouTubeに研修動画

※各自で受講後、報告書を提出

受講方法の連絡  
農場管理者宛に  
動画URL及びQRコードを記載した通知文を送付  
→より簡単に資料を視聴できる  
**農場研修用にも使用できる**

図5

さらにFU研修の一環として、確認検査において検査対象全90農場のうち抗体陽性率が80%未満であった1農場については、農場を訪問し、接種方法の聞き取り及び家畜防疫員による実演、指導を行った（図6）。その後、補強接種後80日に確認検査を実施し、抗体陽性率80%以上であったため、適切な接種だったと確認された。

**農場現地指導(抗体陽性率80%未満の1農場)**

- 抗体が上昇しなかった原因の調査
- 実演指導
- 補強接種時期間近であった  
→早めの接種を指示

○追加調査  
補強接種80日後の確認検査

抗体陽性率80%以上を確認  
**Good!!**  
適切なワクチン接種に!

図6

### 4 まとめと今後の課題

本県では、ワクチン接種開始までに多くの登録管理者を確保したことで円滑にワクチン



接種を進めることができた。また、ほとんどの農場で十分に免疫付与され、登録管理者によるワクチン接種は適切であったことが推察された。今後の課題として、FU 研修では対面開催より理解度が落ちる可能性があることから、登録管理者の知識及び技術レベルの維持があげられる。2024 年 6 月には、佐賀県内で野生いのししへの豚熱感染が確認され、本県への侵入リスクが非常に高まる中、飼養衛生管理の徹底と確実なワクチン接種による発生予防対策が重要となっている。このため、農場の巡回指導時における登録管理者の重点的な指導と併せて、研修会資料の充実とワクチン接種に関する必要な情報発信に継続して取り組んでいきたい。

## 養豚密集地域における豚熱免疫付与状況等確認検査の対応

都城家畜保健衛生所 宮崎家畜保健衛生所<sup>1)</sup>  
 ○伊藤学志 上西鋼騎 齊藤幸恵 鍋倉良輔<sup>1)</sup>

1 はじめに：当所が所管する西諸県及び北諸県地域（以下、当地域）は宮崎県の西部に位置し、養豚場の飼養農場数が 224 戸、飼養頭数が約 46 万頭に及ぶ県内最大の養豚密集地域である（図 1）。令和 5 年 8 月の佐賀県内養豚場における豚熱発生をうけ、本県では同年 9 月より豚熱ワクチンの初回接種を開始し、家畜防疫員、知事認定獣医師及び登録飼養衛生管理者を活用して進められたが、初回接種から認定農場における登録飼養衛生管理者が主体の接種を進めた。同年 11 月には初回ワクチンの配布と接種が完了し、12 月から 1 回目の免疫付与状況等確認検査（以下、本検査）を開始した。

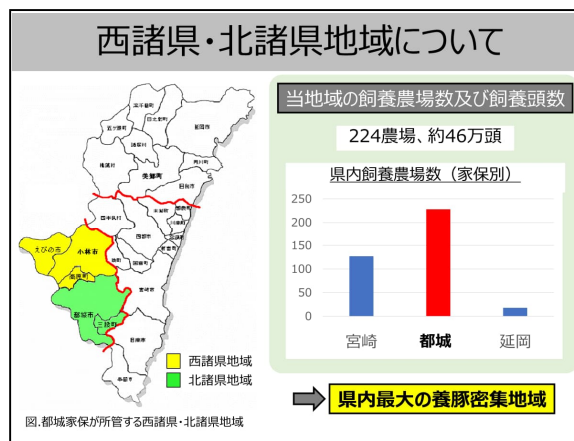


図 1

2 本検査の概要：本検査の目的は母豚における抗体保有率と子豚への接種適日齢（以下、接種適期）の確認とした。検査期間は令和 5 年 12 月から翌年 6 月までの約半年間になった。本検査の対象は、初回接種が完了し 40 日以上経過した母豚 30 頭であり、接種適期の正確な算定のため、90 日以上経過した個体を推奨し検査した。養豚密集地域である当地域では、一貫農場と繁殖農場を合わせた 90 農場が検査対象農場となった。採血は農場の意向やバイオセキュリティを考慮し、家保が採血を実施する農場が 58 農場、管理獣医師が採血を実施する農場が 32 農場となった（図 2）。

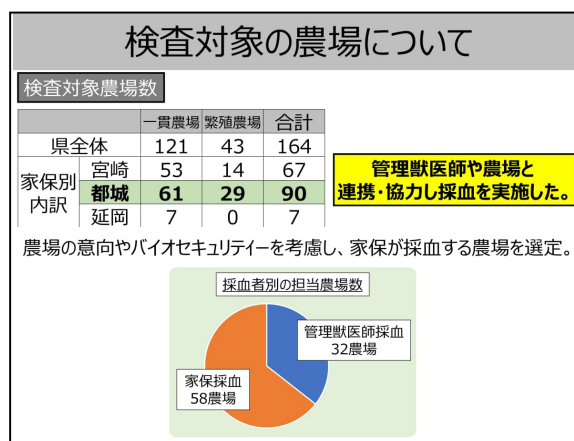


図 2

3 本検査の取組：本検査はこれまで当所で実施してきた検査と違い、対象農場数が多く、さらに初回接種から 6 ヶ月後に実施する母豚の補強接種までに採血を完了するという時間的制限もあり、採血や抗体検査への連日の対応が必要となった。また、中和試験を実施するために多量の血液が必要とされた。したがって、当所では本検査の採血や抗体検査

において多大な対応が予想されたため、所内の検査体制の見直しを行った。また本検査を活用した技術向上に関する取組及び農場防疫指導に関する取組を行った。

(1) 採血に関する取組：農場での採血方法は頸静脈採血か尾静脈採血を採用した。それぞれの採血方法の特徴や農場の意向を考慮した上で採血方法を選択し、家保が採血した 58 農場のうち、29 農場が頸静脈採血、25 農場が尾静脈採血を行った。両方の採血方法を採用した農場は 4 農場になった (図 3)。頸静脈採血は、1 班あたり保定者 2 名、採血者 2 名の役割分担で、保定器具を用い採血を実施した。頸静脈採血は 1 頭あたりの所要時間は短く済むが、保定に体力や腕力を要した。尾静脈採血は 1 班あたり記録者 1 名、採血者 3 名の役割分担で実施し、保定は行わず豚の状態を伺いながら採血する上に、技術的難易度が高く、1 頭あたりの所要時間は長くなった。1 農場あたりの採血時間は技術的難易度が高いことやこれまで採血機会が少なかったことから、検査開始当初は慣れない若手職員を中心に採血に時間を要し、約 1 時間半から 3 時間となった。

採血方法 (頸静脈・尾静脈採血) について			
必要人員	保定	所要時間	農場数
<b>頸静脈</b> 保定者2名、採血者2名 	あり ※保定器具使用	短 ※1頭あたり	<b>29農場</b>
<b>体力・腕力が必要</b>			
<b>尾静脈</b> 記録者1名、採血者3名 	なし ※基本的に給餌中に採血	長 ※1頭あたり	<b>25農場</b>
<b>技術難易度が高い</b>			
★両方の採血方法を採用した農場が4農場			

図 3

### 技術向上の機会として本検査を活用

検査開始当初は、必要量の採血に約1時間半から3時間を要した。

<b>職員1人あたりの立入回数</b> 平均約21回	<b>他部署の若手職員も積極的に動員</b>
-------------------------------	------------------------

➡ 約1時間で必要量の採血が可能になった。



保定ワイヤーを使った保定



尾静脈採血

**若手職員の採血技術や保定技術が向上した。**

図 4

しかし、当所では本検査を技術向上の機会として考え、若手職員を中心に積極的に農場立入を行い、他部署からの動員も積極的に受け入れた。農場立入回数は職員 1 人あたり平均 21 回に上った。最終的には約 1 時間程度で必要量の採血が可能になったことから、本検査を採血技術の向上や保定技術の向上に活用できたと考えられた (図 4)。



図 5

(2) 検査体制に関する取組：これまでの当所の抗体検査体制は、獣医師が採

血し、抗体検査を獣医師及び1名の臨床検査技師が行い、その結果を農場防疫指導に用いていた。本検査では多数の検体を処理するため、検査体制の見直しを行った。臨床検査技師を3名に増員し、獣医師が採血した検体の処理及び検査を臨床検査技師のみで行った。これにより獣医師職員が採血と農場防疫指導に注力できる体制を構築することができた(図5)。

(3) 農場防疫指導に関する取組：本検査を活用した飼養衛生管理基準の遵守指導を行った。本県では、飼養衛生管理基準に不備がある農場は不遵守事項に関する改善計画書を作成させ、期限内の改善を条件に農場認定を行い、登録飼養衛生管理者がワクチンを接種できる認定農場とした。当所では本検査を農場防疫指導の貴重な立入機会として考えた。採血による立入時に、農場へ改善計画書を提示した上で不遵守事項の期限内の改善を改めて指導した。また本検査では通常の全戸

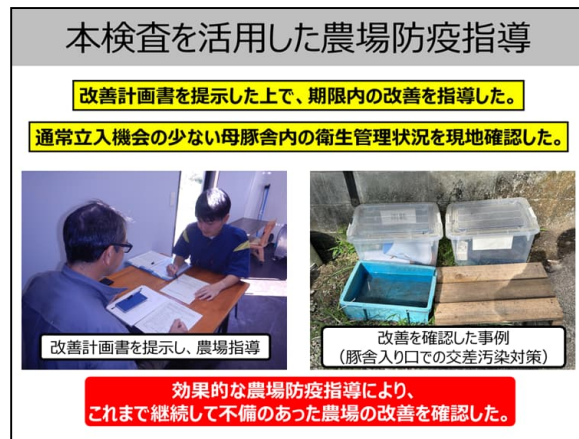


図6

巡回では立入機会の少ない母豚舎内の衛生管理状況を現地確認した上で、不遵守事項の指導を行った。本検査立入後の今年度の全戸巡回では、不遵守事項の改善を確認した事例もあったことから、本検査を通して効果的な農場防疫指導を行うことができ、これまで継続して不備のあった農場の飼養衛生管理基準の遵守状況を改善できたと考えられた(図6)。

4 検査結果：農場の抗体保有率が80%以上と確認できた農場は90農場中89農場であり、当地域で十分な免疫が付与されたと判断した。子豚の接種適期の算定では哺乳期から離乳前後が適期と算定された農場の割合が最も多かった。正確な検査結果を伝えた上で、算定した接種適期の農場での適用について農場や管理獣医師と意見交換する必要があった。当所では地域で開催する研修会等を通して、農場や管理獣医師に本検査の結果を丁寧に説明した。

5 今後の課題：県内の養豚場では今後世代が更新することで母豚群の抗体価が変わり、子豚への接種適期も変わってくる可能性がある。また県内における豚熱感染状況により発生リスクが高まった場合は子豚期の免疫の空白期間を短くする接種適期の適用が必要になる。これらの要因を考慮し、柔軟に接種適期の変更を検討すべきと考えられる。今後も本検査を母豚群と肥育豚群で行い、その結果を的確に分析し管理獣医師と共有し、当地域の養豚場への適時適切なワクチン接種を指導していくことが求められる。



## 2023 年度に県内で確認された流行性出血病ウイルス血清型 6 の流行

宮崎家畜保健衛生所

○三城せいら 本田真由美 鍋倉良輔

### 1 はじめに

流行性出血病ウイルス(EHDV)はヌカカによって媒介されるアルボウイルスであり、複数の血清型がある。EHDV 血清型 2 に含まれるイバラキウイルス(IBAV)はイバラキ病の原因として知られているが、近年、国内では血清型 5、6 及び 7 によるイバラキ病様疾病の発生が報告されている。今回、アルボウイルスサーベイランスにおいて県内で EHDV 血清型 6(EHDV-6)の流行が確認され、嚥下障害を呈した牛の EHDV-6 感染も確認されたため、その概要について報告する。

### 2 材料及び方法

アルボウイルスサーベイランスにおいて、2023 年 6、8、9、10、11 月に県内 27 農場の未越夏牛 54 頭から採材した EDTA 加血、血漿、血球及び血清を検査に供した。また、2023 年 12 月に都城市の黒毛和種繁殖農場において嚥下障害を呈した 8 歳の繁殖雌牛 1 頭(病鑑牛)から採材した EDTA 加血及びペア血清を検査に供した。

#### (1) PCR 検査

材料：未越夏牛及び病鑑牛の EDTA 加血

方法：①EHDV 群を検出するプライマー(Ohashi S, et al., 2004)を用いた RT-PCR

②EHDV 血清型 2 を識別するプライマー及び 7 を識別するプライマー(Hi rashi ma Y, et al., 2015)を用いた RT-PCR

③EHDV-6 を識別するプライマー(Maan, et al., 2010 及び新規設計プライマー)を用いた RT-PCR

#### (2) ウイルス分離検査

材料：PCR 検査で陽性となった未越夏牛の血漿及び洗浄血球

方法：HmLu-1 細胞、BHK-21 細胞及び C6/36 細胞を用いた静置培養

#### (3) 遺伝子解析

材料：C6/36 細胞からの分離株 1 株及び EDTA 加血抽出 RNA 16 検体から得られた EHDV 特異遺伝子

方法：EHDV ゲノム分節 2 及び EHDV-6 ゲノム分節 3 の塩基配列決定及び分子系統樹解析

#### (4) 抗体検査

材料：9、10、11 月に採材した未越夏牛の血清及び病鑑牛のペア血清

方法：IBAV 及び HmLu-1 細胞からの分離株を用いた中和試験

なお、未越夏牛の EHDV-6 の識別、C6/36 細胞によるウイルス分離及び遺伝子解析は、

動物衛生研究部門に依頼した。

### 3 検査成績

#### (1) PCR 検査(図 1)

未越夏牛においては、9月から11月にかけて計16検体からEHDV群特異遺伝子が検出され、9月及び10月に特異遺伝子が検出された個体では11月まで継続して検出された。また、病鑑牛からもEHDV群特異遺伝子が検出された。いずれの検体からも、血清型2及び7の特異的な遺伝子は検出されなかった。Maanらのプライマーでは、EHDV群特異遺伝子が検出された未越夏牛16検体のうち

地域	個体番号	採材月	① EHDV群	② EHDV-2,7	③ EHDV-6(既報)	④ EHDV-6(新規)
延岡市	N-2	9月	+	-	+	NT
日向市	N-4	10月	+	-	-	+
延岡市	N-2	10月	+	-	-	+
門川町	N-5	10月	+	-	-	+
門川町	N-6	10月	+	-	+	NT
西米良村	M-1	11月	+	-	-	+
国富町	M-9	11月	+	-	-	+
新富町	M-14	11月	+	-	-	+
延岡市	N-1	11月	+	-	-	+
延岡市	N-2	11月	+	-	-	+
日向市	N-4	11月	+	-	-	+
門川町	N-5	11月	+	-	-	+
門川町	N-6	11月	+	-	-	+
諸塚村	N-10	11月	+	-	+	NT
日之影町	N-15	11月	+	-	+	NT
日之影町	N-16	11月	+	-	+	NT
都城市	病鑑牛	12月	+	-	-	+

図 1

うち5検体でEHDV-6特異遺伝子が検出された。残り11検体及び病鑑牛については、新規設計プライマーを用いたRT-PCRでEHDV-6特異遺伝子が検出された。

#### (2) ウイルス分離検査(図 2)

EHDV群特異遺伝子が検出された未越夏牛16検体のうち、5検体においてHmLu-1細胞もしくはBHK-21細胞で細胞変性効果(CPE)が認められ、既報のプライマーによりEHDV-6特異遺伝子が検出された(HL分離株)。また、動物衛生研究部門でのC6/36細胞を用いたウイルス分離において、門川町で10月に採材した1検体からEHDV-6が分離され、MZ-2/E/23と命名された。

地域	個体番号	9月			10月			11月		
		HmLu-1	BHK-21	C6/36	HmLu-1	BHK-21	C6/36	HmLu-1	BHK-21	C6/36
西米良村	M-1							-	-	-
国富町	M-9							-	+	-
新富町	M-14							-	+	-
延岡市	N-1							-	-	-
延岡市	N-2	+	+	-	-	-	-	-	-	-
日向市	N-4				+	+	-	-	-	-
門川町	N-5				-	-	-	-	-	-
門川町	N-6				+	+	+	-	-	-
諸塚村	N-10							-	-	-
日之影町	N-15							-	-	-
日之影町	N-16							-	-	-

図 2

#### (3) 遺伝子解析(図 3 及び図 4)

MZ-2/E/23及びPCR陽性だった16検体の抽出RNAから得られた遺伝子増幅産物について、EHDVのゲノム分節3及びEHDV-6のゲノム分節2をターゲットとしたRT-PCRを実施し、得られた遺伝子増幅産物の塩基配列を決定したところ、全てMZ-2/E/23と完全に一致しており、分子系統樹解析にはMZ-2/E/23のみが用いられた。EHDVのゲノム分節3の部分塩基配列に基づく分子系統樹解析の結果、本県で分離されたEHDV-6は、2023年に九州各県で分離されたEHDV-6と完全に一致していた。また、EHDV-6の

ゲノム分節2の部分塩基配列に基づく分子系統樹解析の結果、本県で分離された EHDV-6 は 2023 年に熊本県で分離された EHDV-6 と最も近縁であった。

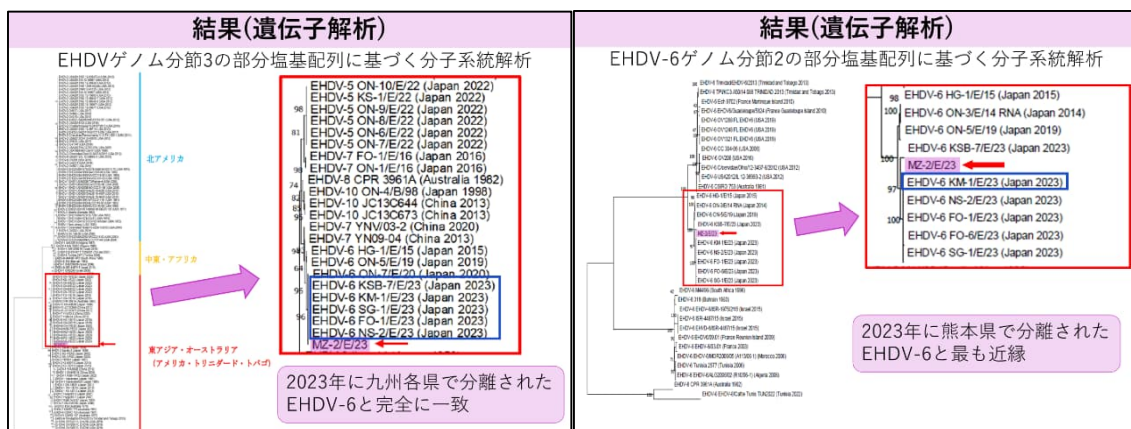


図 3

図 4

(4) 抗体検査(図 5)

EHDV 群の遺伝子が検出された 9 月から 11 月までに採材された未越夏牛の血清及び病鑑牛のペア血清を用いて、IBAV 及び HL 分離株に対する中和試験を実施したところ、未越夏牛では 11 月までに 6 市町村の計 9 頭で HL 分離株に対する抗体陽転が認められた。また、病鑑牛のペア血清では、HL 分離株に対する中和抗体価は、プレ・ポスト共に 4096 倍以上であった。これらの中和抗体価は、IBAV に対するものより明らかに高値であった。

		結果(抗体検査)					
		9月		10月		11月	
地域	個体番号	IBAV	HL分離株	IBAV	HL分離株	IBAV	HL分離株
未越夏牛	西米良村 M-1	<2	<2	<2	<2	64	1024
	延岡市 N-1	<2	<2	32	1024	64	2048
	延岡市 N-2	<2	<2	64	2048	32	512
	日向市 N-4	<2	<2	<2	<2	256	2048
	門川町 N-5	<2	<2	16	512	128	2048
	門川町 N-6	<2	<2	<2	4	128	2048
	諸塚村 N-10	<2	<2	<2	<2	2	64
	日之影町 N-15	<2	<2	<2	4	128	2048
	日之影町 N-16	<2	<2	<2	<2	64	2048
	病鑑牛		IBAV		HL分離株		
		12月14日	1月10日	12月14日	1月10日		
		128	256	≥4096	≥4096		

図 5

4 考察とまとめ

アルボウイルスサーベイランス及び病性鑑定の結果から、9 月には県内に EHDV-6 が侵入しており、県内の広い範囲にウイルスが浸潤していたことが判明した。また、遺伝子解析の結果、宮崎県で分離された株は 2023 年度に九州各県で分離された EHDV-6 と非常に近縁であり、九州各県に由来を同じくする株が広がったと考えられた。PCR 検査において、EDTA 加血から EHDV 群特異遺伝子が検出されたものの、既報の血清型別プライマーでは特異遺伝子が検出できない検体が多数あった。また、抗体検査において EHDV-6 に対する中和抗体価の方が明らかに高かったものの、IBAV に対する抗体上昇も認められ、若干の交差性があると考えられた。特に、既報のプライマーでは特異遺伝子が検出

できない検体があったことは診断に大きな影響を及ぼしたため、今後 EHDV の関与が疑われる検査依頼があった際は、選択した血清型別プライマーによっては検出できない場合があることや、異なる血清型でも中和試験で交差性が認められることを念頭に置いて検査を進める必要がある。EHDV の血清型による病原性や病態の違いは不明な点も多いため、動物衛生研究部門や他県と発生状況等を情報共有しながら、的確な診断ができるよう努めたい。

## 宮崎県内の牛で確認されたロドコッカス・エクイ感染症 6 症例の病理学的検索

宮崎家畜保健衛生所<sup>1)</sup>

○日高慎也<sup>1)</sup> 米山伸<sup>1)</sup> 中山瑞紀<sup>1)</sup>

1 はじめに：ロドコッカス・エクイ感染症は、子馬に膿瘍形成を特徴とする化膿性肉芽腫性の肺炎及び腸炎を引き起こす難治性疾患として知られているが、馬以外の家畜、伴侶動物、野生動物、人でも発生が確認されている新興の人獣共通感染症である。原因菌であるグラム陽性球桿菌の *Rhodococcus equi* は、マクロファージ内に寄生する細胞内寄生菌であり、広く環境中に分布する土壌細菌である。感染経路は粉塵等に付着した菌の経気道感染と経口感染になり、肺や腸管に病変を形成し、慢性化すると敗血症や関節炎を発症することもある。ほとんどは無毒株だが、発症した患畜からは、宿主特異性を示す3種類の病原性プラスミド pVAPA、B、N が検出され、各 pVAP にコードされた毒力関連抗原遺伝子 VapA、B、N が発現することで発症する。牛では、2015年に罹患牛から VapN が検出され、国内では、2018年に四日市と大分で発生が報告されて後、散発的に発生がみられるが、未だ報告数が少ないため病態に不明な点が多い。今回、2012年から2024年の間に県内の牛でロドコッカス・エクイ感染症と診断された6症例について病理学的検索を行ったので報告する。

2 発生状況：当該牛は全て黒毛和種で、雌2頭、去勢4頭、年齢は8カ月齢から3歳、飼養形態は繁殖農場3戸、肥育農場3戸、発生場所は県北、県央、県西地域、経過は長いもので7カ月、短いもので5日間であった(図1)。剖検時、肺の膿瘍形成(5/6)(図2)、膿瘍形成または壊死病変形成を伴うリンパ節腫大(6/6)(図3)、腸粘膜潰瘍(2/6)(図4)、大腿部筋内に壊死病変形成(1/6)(図5)、関節炎(1/6)(図6)、中耳炎(1/6)、脾臓の膿瘍形成(1/6)、腎臓の白斑(1/6)、肝臓の白色結節(2/6)が確認された。

発生状況						
症例	①	②	③	④	⑤	⑥
年度	2012	2019	2021	2023	2023	2024
品種	黒和	黒和	黒和	黒和	黒和	黒和
性別	雌	去勢	去勢	雌	去勢	去勢
年齢	23カ月	8カ月	16カ月	3歳	10カ月	21カ月
飼養形態	肥育	繁殖	肥育	繁殖	繁殖	肥育
農場場所	都城市	五ヶ瀬町	延岡市	高原町	宮崎市	延岡市
初診日	3月5日	5月7日	11月5日	5月2日	6月14日	4月1日
剖検日	10月11日	6月7日	12月26日	5月31日	6月19日	4月9日
症状	食欲不振 発熱 右後肢大腿部腫脹	食欲不振 発熱 発育不良	食欲不振 発熱 気管支音粗励 耳翼下垂	食欲不振 発熱 黄疸 削瘦 下痢	関節腫脹 体表リンパ節腫大	食欲不振 心音不整 全身浮腫

図 1



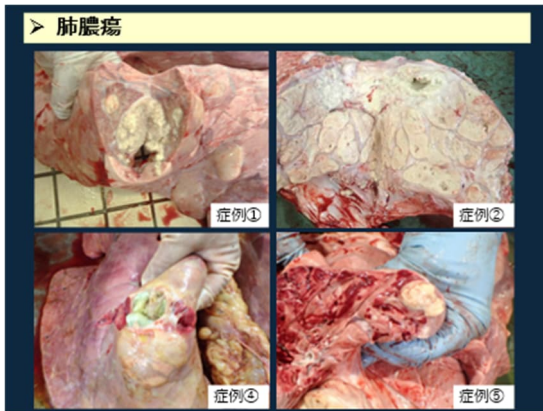


図 2

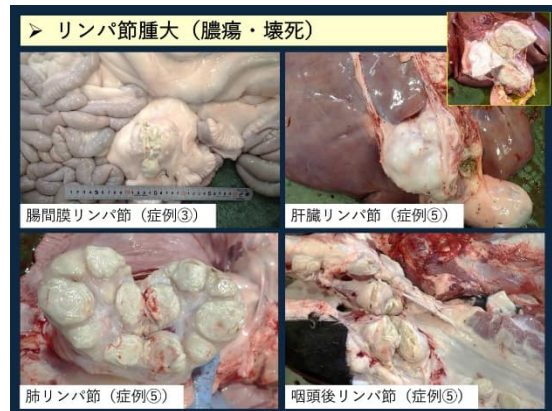


図 3



図 4

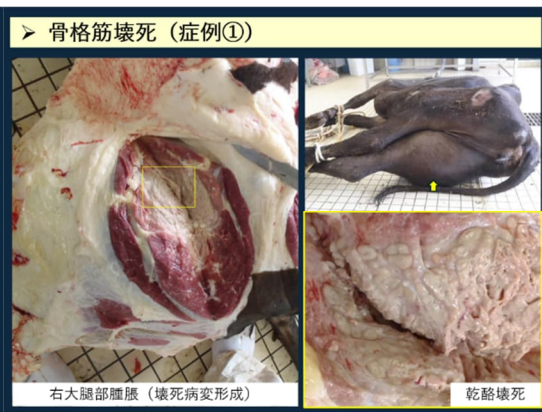


図 5

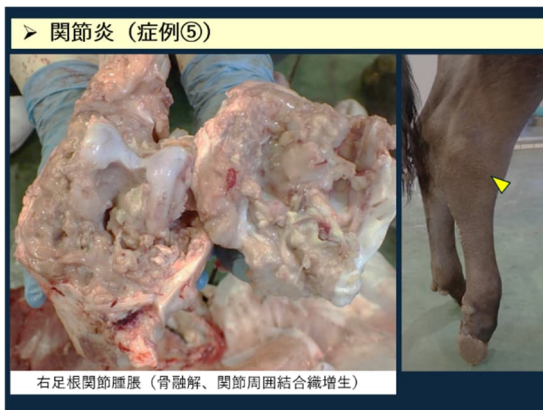


図 6

3 材料と方法：病理組織学的検査は、病変形成部位を材料に HE 染色とグラム染色を実施し、抗 *R. equi* 家兎血清を用いた免疫組織化学的検査を動物衛生研究部門に依頼した。細菌学的検査は、血液寒天培地と NANAT 培地を用いて菌分離を実施し、分離菌株を材料に *R. equi* 菌種同定 PCR 及び VapA, B, N 検出 PCR を実施した。また、分離された菌株で薬剤感受性試験を実施した。



4 検査結果：<病理組織学的検査結果>  
 肺、リンパ節、肝臓、腎臓、脾臓、腸管、大腿部骨格筋の病変部に化膿性壊死性肉芽腫性炎、関節の病変部に化膿性肉芽腫性炎がみられ、全ての症例において、肉芽腫性病変部のマクロファージ、類上皮細胞、多核巨細胞の細胞質内にグラム陽性球桿菌の菌塊が認められた(図 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13)。

<免疫組織化学的検査結果>全症例において、肉芽腫性病変部のマクロファージ、類上皮細胞、多核巨細胞の細胞質内及び

壊死巣内に多数の抗 *R. equi* 抗体陽性反応が確認された(図 14, 15)。

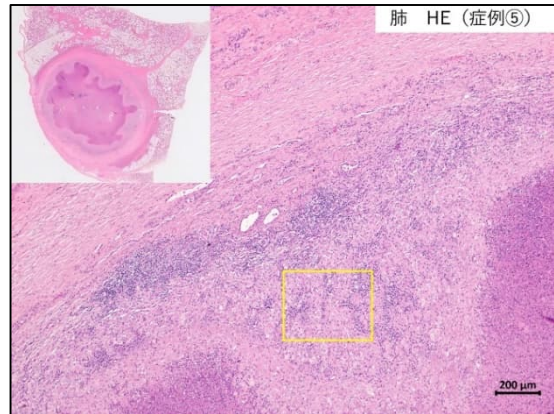


図 7

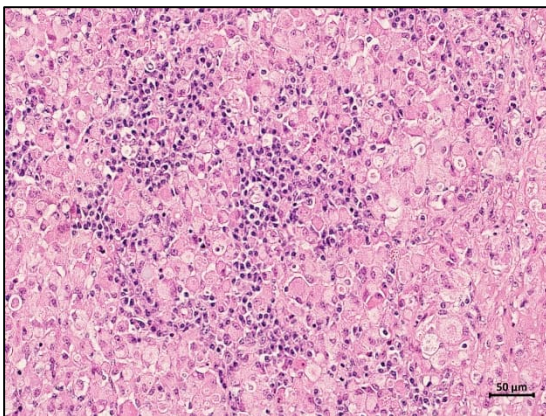


図 8

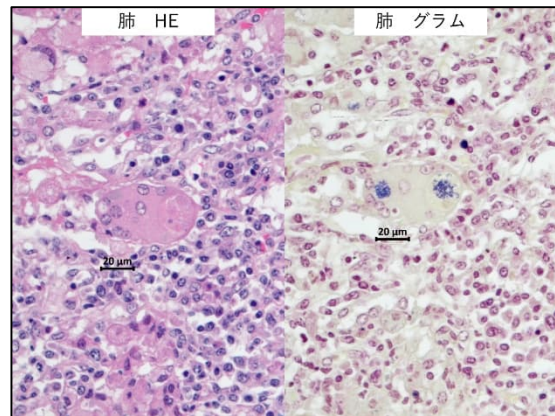


図 9

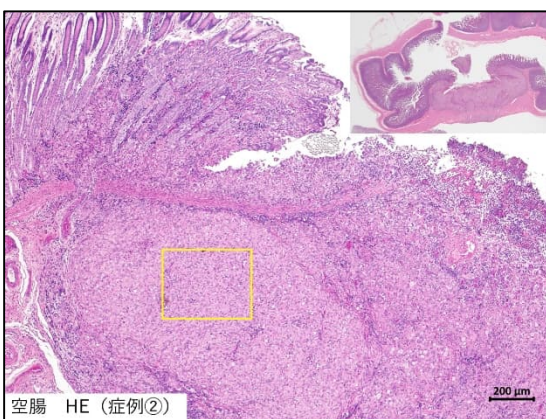


図 10

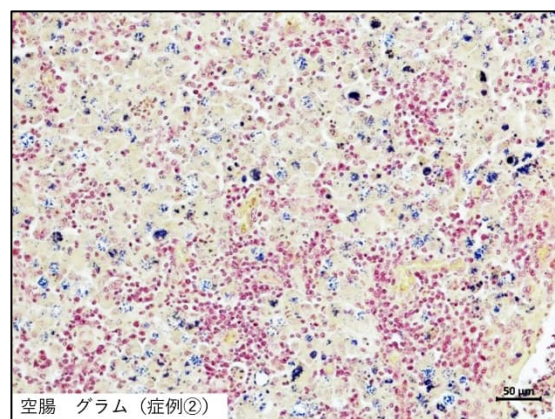


図 11



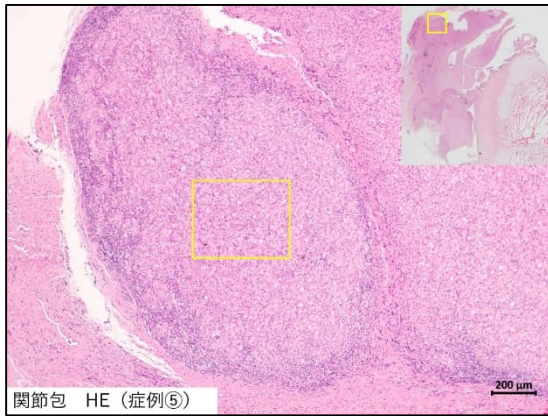


図 12

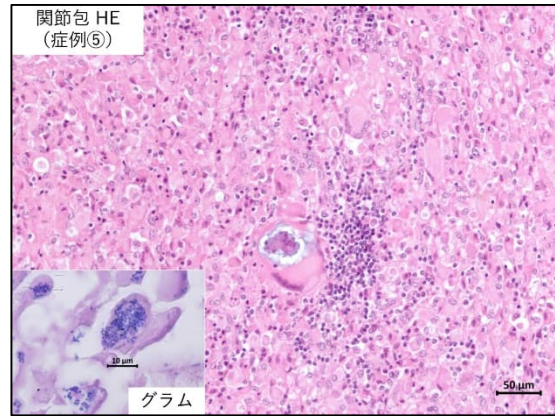


図 13

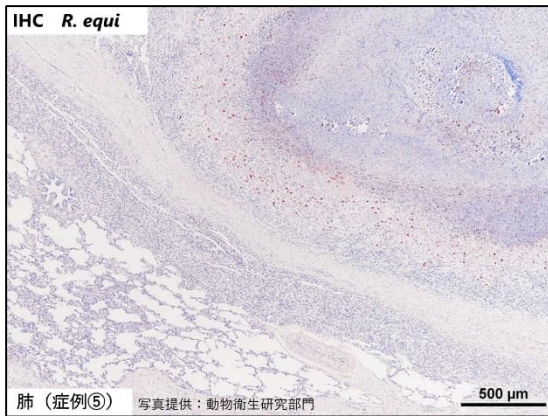


図 14

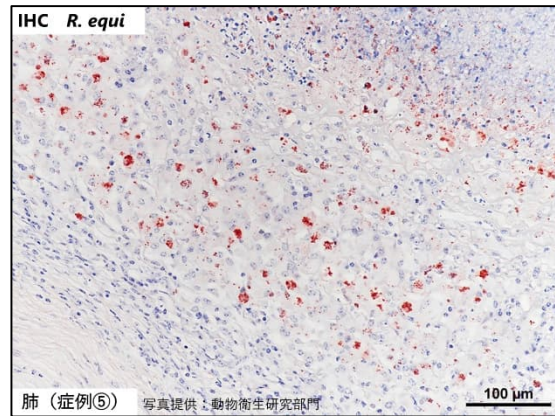


図 15

<細菌学的検査結果>全症例の病変部から *R. equi* が分離され、5 例はこれまで牛で報告のある VapN 遺伝子保有株であったが、症例③のみこれまで発症牛での報告がない VapB 遺伝子保有株が検出された。また、症例⑤では、直腸便からも *R. equi* が検出され、牛も馬と同様菌が糞便中に排泄されることが確認された。薬剤感受性試験では、全症例がアンピシリンとペニシリンに耐性を示し、3 例がフロルフェニコールに耐性を示した。

**5 まとめと考察**：今回の 6 症例について病態を比較し、感染経路、経過の長さ、免疫状態、毒力関連抗原 (vap) について考察した(図 16)。

症例①、②、④、⑤、⑥は肺に病変形成があったため経気道感染、症例②、⑥は腸管に病変形成があったため、経口感染があったと考えられた。

◆ 6症例の病態比較 (肉芽腫性・壊死性病変)

	①	②	③	④	⑤	⑥
肺	++	+++		++	++	+++
腸		+++				++
胃	++			++		
肝臓	+		++			
腎臓		+		+		
脾			++			
腸間膜	++	++	+++		++	++
リンパ節		++			+++	++
肝				+++	+++	
体表					++	
その他	++		++		++	
骨格筋	+++					
関節					+	

図 16



症例①の大腿部骨格筋病変は、他の臓器に比べて病変が重篤であったことから、外傷等により菌が直接侵入し病変を形成したと推察された。

症例⑤の関節病変は、他の臓器に比べて軽度であることから、何らかの要因で菌が他臓器から播種し、後に関節で病変を形成したのではないかと考えられた。また、牛の *R. equi* による関節での病変形成は本症例が初の事例であった。

症例③は、肺と腸管に病変がみられず、中耳から菌が分離されたことから、耳から菌が侵入したのではないかと考えたが、組織病変が確認できなかったため詳細は不明だった。

治療経過の長さに注目して病態を比較したところ、今回の症例において相関は認められなかった。しかし、本疾病は体内に膿瘍を形成するため、発見が遅れ、病態が慢性化してしまうのではないかと考えられた。本疾病の馬の好発年齢は、3カ月齢以下だが、今回の牛での発生は育成または成牛での発生であった。

6症例中5例は、免疫状態の低下を示す所見が確認されなかったが、症例②の牛は、発育不良で体格が小さく、幼齢時より虚弱であった可能性が考えられ、当該牛の重篤な腸管病変は、免疫状態の低下が影響した可能性が考えられた。

今回、症例③のみ病変部から VapB 遺伝子保有株が分離されたが、病態も他の症例と異なる点が複数みられた。このことから、Vap の違いにより病態が変化する可能性が示唆されたが、発症牛での VapB 保有株の検出は本症例が初であり、病態解明のためには今後より精細な検査が必要だと考えられた。

今回の検索で、牛のロドコッカス・エクイ感染症も馬と同様に肺、腸管、リンパ節に肉芽腫性病変を形成することが確認された。また、これまで牛で確認されていなかった関節への病変形成についても、馬と同様に形成されることが確認できた。罹患牛の糞便から菌が検出されたことから、罹患牛の早期摘発と治療、農場消毒等による再発防止対策が重要になると考えられた。治療においては、薬剤耐性菌の発生に考慮した抗生剤の適正使用が重要だと考えられた。今回は、発症牛の病変部から初めて VapB が検出されたが、今回の検索のみで病態との関連について考察することは困難だった。そこで、今後 Vap による免疫染色の実施を動衛研で実施する予定となっており、今後より詳細な病態の解析が進むことが期待される。

## 黒毛和種繁殖牛における腹腔内及び胸腔内に多数の肉芽腫性結節を認めた *Nocardia africana* による牛ノカルジア症

宮崎家畜保健衛生所

○米山伸 日高慎也 中山瑞紀

1 はじめに : *Nocardia* 属菌はグラム陽性好気性細菌であり、分岐状や小球状、フィラメント状などの多型性で、土壌や水、植物中など環境中に広く存在する。ノカルジア症は、ヒトでは *N. asteroides*, *N. farcinica*, *N. nova*, *N. brasiliensis* 等による感染が知られており、がん患者や免疫不全患者に日和見感染症を引き起こすことが多く、動物では牛、犬、猫、その他魚類を含む多くの動物に感染し、牛や犬においては慢性化膿性肉芽腫病巣を形成する。*N. africana* は、牛において乳房炎罹患牛の乳汁からの分離例はあるものの、病理学的に検索した症例はこれまでに報告がない。今回、腹腔内及び胸腔内に多数の肉芽腫性結節を認めた *N. africana* による牛ノカルジア症に遭遇したため、概要を報告する。

2 発生状況 : 当該牛は黒毛和種、雌の4歳で、2023年3月1日に2産目を分娩し、同年8月27日に最終授精を行ったが不受胎であった。11月21日、直腸検査において子宮に複数の腫瘤を触知し、抗生剤での治療を行ったが予後不良と判断されたため、2024年1月15日に鑑定殺に供した。なお、生前に行ったBL ELISAは陰性であった。

3 材料および方法 : 病理学的検査は、脳・主要臓器、子宮、消化管、胸腔・腹腔内結節を使用し、HE染色、グラム染色、マッソン・トリクローム染色、グロコット染色、ファイト法を実施した。免疫組織化学的検査は、心臓、肺、肝臓、子宮、消化管、胸腔・腹腔内結節を使用し、抗 *N. farcinica* 家兎血清を用い、ポリマー法で実施した。細菌学的検査は、脳・主要臓器、子宮、子宮内膿汁、胸腔・腹腔内結節を使用し、5%羊血液加寒天培地及びDHL寒天培地を用い、好気及び微好気培養を行った。遺伝子検査は、肺胸膜及び腸間膜結節分離株を用い、16S rRNAのシーケンス解析を実施した(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門)。血液生化学検査は、血清及びEDTA加血を用い、DRI-CHEM(富士フイルムメディカル株式会社)またはCell tac α (NIHON KOHDEN) で腎機能、カルシウム、リンの測定及び血球計算を行った。

4 検査成績:搬入時、軽度の消瘦を認め、外陰部からは膿汁の漏出がみられた。腹腔内では、腹腔大綱や腸間膜、脾臓などの表面に大豆大～母指頭大の結節が多発していた(図1)。結節の断面は砂粒状を呈し、数珠状に連なり硬結感があった(図2)。腸間膜や脾臓に多発していた結節は、臓器漿膜面から隆起したように発生していた。子宮も同様に外膜表面に結節が多発し、内部には白色膿汁が多量に貯留していた。心臓では、三尖弁、僧帽弁、左心内膜に微小な白色結節がみられ、肺では、肺実質に入り込むように結節が認められた。

病理組織学的検査では、大綱結節は膠原線維により被包化され、結節内部では石灰沈着を伴う大型の壊死巣が多発性に認められた。壊死巣周囲には、類上皮細胞や多核巨細胞が重度に浸潤し、多核巨細胞あるいはラングハンス型巨細胞が石灰

を貪食している像も頻繁に認められた(図3)。子宮では、子宮内膜の広範に壊死巣が認められ、膠原線維が増生し、粘膜は高度に肥厚していた。壊死巣周囲には好中球、リンパ球、類上皮細胞が重度に浸潤し、結節と同様に肉芽腫を形成していた。また、一部では多核巨細胞の浸潤もみられ、子宮内膜の壊死巣では、血栓及び血管壁のフィブリノイド壊死が散見された(図4)。空腸では、空腸腸間膜に結節を形成していた部位で粘膜下組織に壊死巣が多発性に認められ、結節と同様に肉芽腫を形成していた。回腸及び結腸では、漿膜面にみられた結節で血栓が散見され、血管新生も高頻度に認められた。肺では、肺実質に入り込むように結



図1



図2

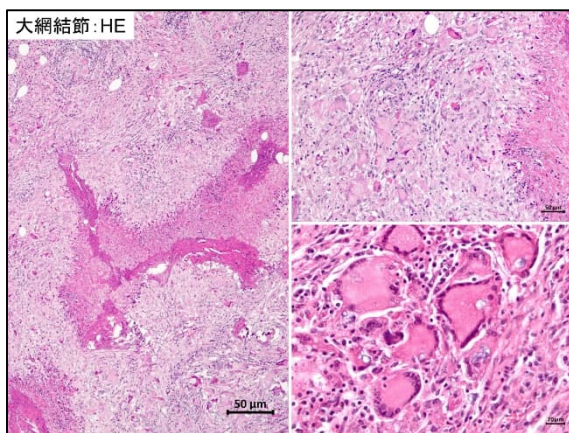


図3

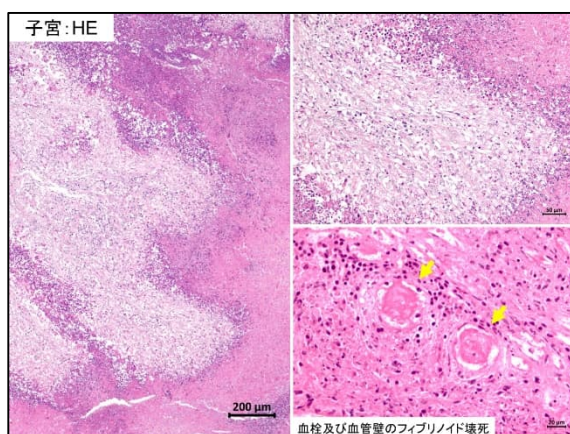


図 4

状の菌体が認められた。抗 *M. farcinica* 家兎血清を用いた免疫染色では、各種結節や壊死巣にみられた菌体に一致して陽性像が認められ、浸潤した多核巨細胞の細胞質内においても陽性像が多く認められた (図 5)。

細菌学的検査では、肺胸膜、子宮漿膜面、腸間膜、肋骨近傍、大網結節及び子宮内膿汁からグラム陽性長桿菌が分離され、肺胸膜及び腸間膜分離株のシーケンス解析の結果、*M. africana* と同定された。

血液生化学検査では、測定した項目に基準値から逸脱したものは認められなかった。

**5 まとめと考察：**剖検では、腹腔内及び胸腔内に多数の白色結節を認め、子宮内には多量に膿汁が貯留していた。病理組織学的検査では、各種結節、子宮、消化管において重度の壊死性化膿性肉芽腫性炎がみられ、子宮内膜や回腸及び結腸の結節では、血栓が散見された。病変部の免疫組織学的検査では、菌体及び多核巨細胞細胞質内において抗 *M. farcinica* 家兎血清に陽性反応がみられた。細菌学的検査では、各種結節及び子宮内膿汁から *M. africana* が分離された。生化学的検査では、測定した項目に基準値から逸脱したものは認められず、このことから、各種結節でみられた石灰沈着は、異栄養性石灰沈着であると考えられた。以上の結果から、本症例を *M. africana* による牛ノカルジア症と診断した。

本症例では、子宮における病変が強く、子宮内への *M. africana* 感染が病態の起因となったと推察された。そこで、*M. africana* の体内での感染経路について考察を行った。

節が認められ、他の結節と同様の組織像がみられた。心臓では、内膜で石灰沈着及び膠原線維の増生がみられ、高度に肥厚していたものの、肉芽腫は形成されていなかった。各種結節及び子宮に見られた壊死巣では、グラム染色でグラム陽性を示す長桿菌が僅かにみられ、グロコット染色でフィラメント状を示す桿菌が明瞭に認められた。また、ファイト法においてもフィラメント

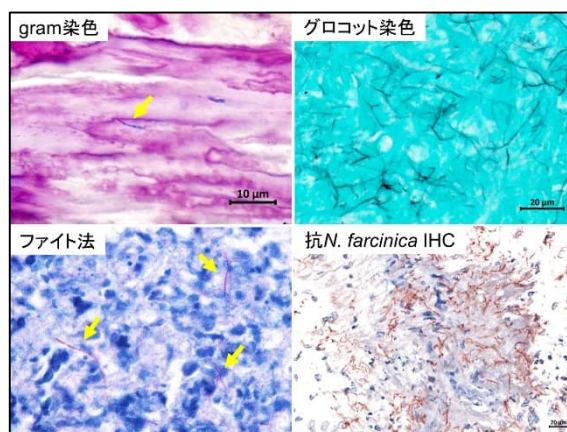


図 5 大網結節各種染色像



子宮内に感染した *M. africana* は、子宮内膜で血栓や血管壁のフィブリノイド壊死がみられたことから、血行性に他臓器に播種し、腹腔内及び胸腔内に多数の肉芽腫性結節を形成したと考えられた。一方で、本症例は腹腔内における肉芽腫性結節の形成が顕著であったことから、人工授精時の子宮壁の穿孔や分娩時の子宮の傷害、卵管采からの侵入等によって、菌体が腹腔内に物理的に侵入し、その後、血

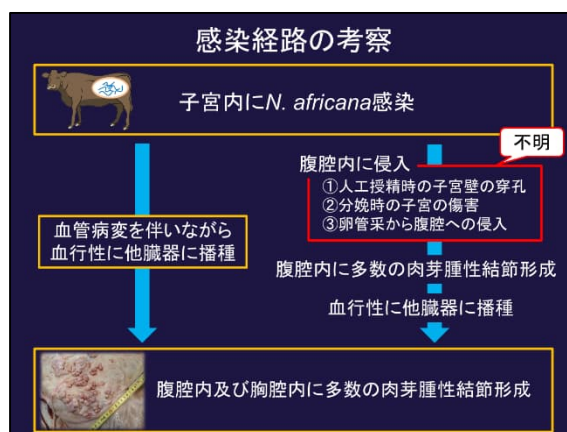


図 6

行性に他臓器に播種することで多数の肉芽腫性結節を形成した可能性も推察された。しかし、当該牛の産歴や剖検時の状態から、子宮から腹腔内への明確な侵入経路を特定することはできなかった (図 6)。

本症例と過去本県で発生した牛ノカルジア症の比較を行なった。発症時期は 4 歳、2 歳、胎齢 8 カ月と様々であったが、どの症例も全身性に壊死性肉芽腫性炎が認められた。薬剤感受性試験を 1 濃度ディスク法で行ったところ、多くの薬剤に耐性が認められた。このことから、環境中の *Nocardia* 属菌が感染し定着すると、抗菌剤による治療は難しく、生産性の低下に繋がることが示唆された (図 7)。

菌種による比較	<i>N. africana</i> (本症例)	<i>N. farcinica</i> (2023 Miyakonojo)	<i>N. farcinica</i> (2006 Miyazaki)
品種	黒毛和種	黒毛和種	黒毛和種
年齢	4歳	2歳	胎齢8カ月
病変の局在	全身性	全身性	全身性
炎症	壊死性化膿性肉芽腫性炎	壊死性化膿性肉芽腫性炎	壊死性肉芽腫性炎
ABPC	S	R	
PCG	R	R	
CEZ	R	R	
FOM	R	R	
GM	S	R	
薬感 KM	S	R	NT
Te	R	R	
LCM	R	R	
ERFX	R	R	
MBFX	R	R	
ST	S	S	

図 7

本症例は *M. africana* による牛ノカルジア症と診断された。子宮内に感染した *M. africana* が血行性もしくは腹腔内に物理的に侵入し、その後、血行性に胸腔内にまで播種し、肉芽腫を形成したと推察された。既報のノカルジア症と比較すると、腹腔内及び胸腔内に多数の肉芽腫性結節を形成する症例は稀であり、また、これまでに *M. africana* を原因とする牛ノカルジア症で、病理学的に精査した報告はなく、初事例となった。今後も症例を蓄積し、病態解明の一助とすることが重要であると考えられた。

## *Salmonella* Typhimurium(04:i:-)が分離された子牛の 化膿性髄膜脊髄炎の一例

延岡家畜保健衛生所<sup>1)</sup> 宮崎家畜保健衛生所<sup>2)</sup>  
○西田憲史<sup>1)</sup> 後藤文<sup>1)</sup> 日高慎也<sup>2)</sup> 中山瑞紀<sup>2)</sup>

1 はじめに：*Salmonella* Typhimurium（以下ST）は主として下痢や敗血症を引き起こす。今回、管内の和牛繁殖農場において1週齢で下痢症状を示し、その後、神経症状を呈したため、予後不良と判断された43日齢の子牛を当所において病性鑑定した結果、STによる化膿性髄膜脊髄炎と診断したのでその概要を報告する。

2 発生状況：発生農場は母牛42頭、育成牛7頭、子牛32頭の繁殖経営。当該子牛は令和6年5月13日に出生した。5月20日に黄白色水様便が認められたため、投薬（ゲンタマイシン等）治療を開始し、回復傾向にあったものの5月29日から元気消失、眼振、四肢の軽度強直といった神経症状を呈し、回復と悪化を繰り返すも起立不能となった。その後、予後不良と判断され、6月25日に当所において病性鑑定を実施した。

3 材料と方法：細菌学的検査では脳、主要臓器、脳脊髄液について常法により細菌分離を行った。分離されたサルモネラ属菌は血清型別検査を行い、13薬剤について一濃度ディスク法により薬剤感受性試験を実施した。さらに、常法により病理組織学的検査、免疫組織化学的検査を実施した。また、汚染状況確認のため、環境拭き取り検査を行った。

4 成績：剖検では脳脊髄液はやや白濁し、脊髄は胸髄から仙髄にかけて髄膜部の著しい肥厚が認められた（図1）。腸間膜リンパ節は腫大し、回腸周囲脂肪組織、結腸漿膜面に直径1cmの膿瘍が認められた。胸腺は矮小で、肺は中葉及び右後葉の一部が肝変化していた。細菌学的検査では主要臓器及び脳脊髄液から、ST(04:i:-)が分離された。病理組織学的検査では脊髄硬膜下において好中球浸潤を伴う重度の線維素析出による髄膜の肥厚（図2）、周囲にリンパ球及び形質細胞の集簇像が広範にみられ、脊髄の皮

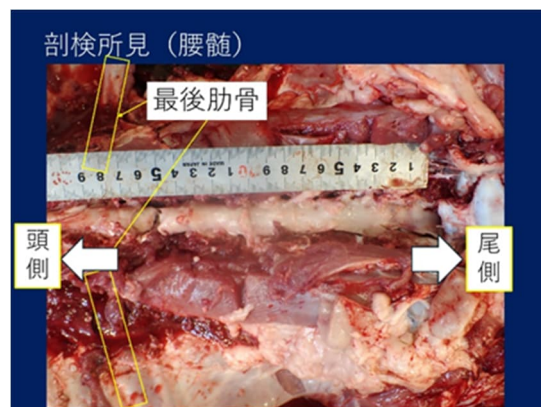


図1

質辺縁では血管周囲に好中球及びリンパ球浸潤がみられた (図 3)。大脳、小脳、脳幹部の髄膜下に軽度の好中球、マクロファージ、リンパ球及び形質細胞の浸潤がみられた。回盲部では粘膜表層に壊死巣が認められ、壊死巣内外にグラム陰性小桿菌が確認されたほか、コクシジウム感染も認められた。腸間膜リンパ節では中心部に重度の好中球・マクロファージ浸潤及び線維素析出を伴う壊死巣が認められた。免疫組織化学的検査では脊髄、回盲部、腸間膜リンパ節、回盲リンパ節の各病変部の壊死巣内外及び好中球・マクロファージ細胞質内の菌体に一致してサルモネラ 04 抗原陽性像が認められた (図 4)。薬剤感受性試験では ABPC、TC、GM に対し耐性が認められた。環境拭き取り検査では発生分娩房の隣接牛房の床敷き及び分娩牛舎の飼槽から ST (04 : i : -) が検出された。

**5 まとめ:** 主要臓器及び脳脊髄液から ST (04 : i : -) が分離され、病変部に一致してサルモネラ抗原が確認されたことから本症例を ST による牛サルモネラ症と診断した。過去に報告された神経症状を伴う ST

によるサルモネラ感染症例では経口感染や臍帯感染由来と示唆された症例があるが、今回の症例は経過が長く髄膜脊髄炎に至った感染経緯は不明であった。本農場では環境中から ST が分離されていることから農場主、管理獣医師と連携し汚染度を把握するとともに清浄化に取り組む予定である。

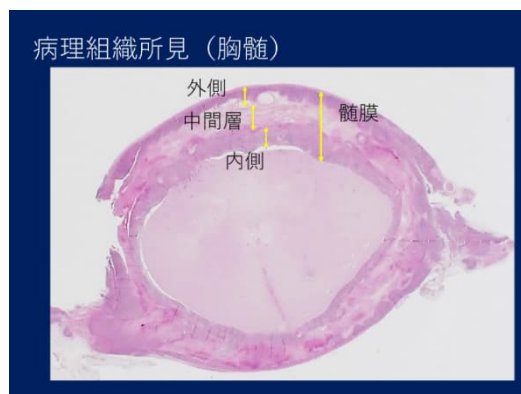


図 2

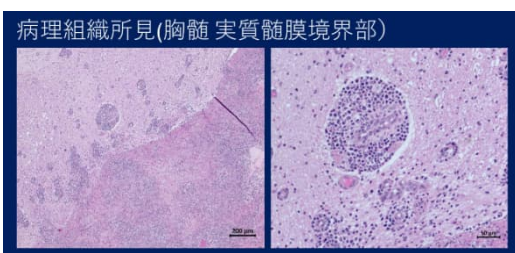


図 3

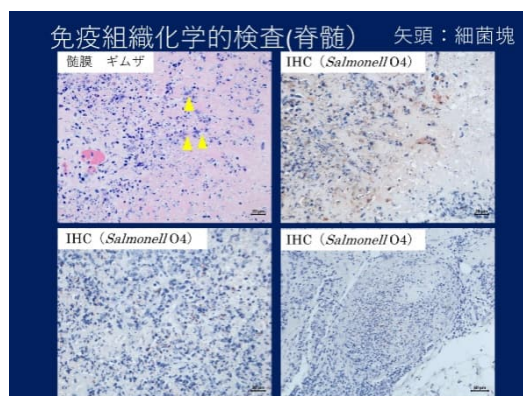


図 4

# 母豚の豚熱ワクチン抗体価に関する要因分析

宮崎家畜保健衛生所

○鍋倉良輔 本田真由美 三城せいら

## 1 はじめに

九州での豚熱の発生により、本県では、令和5年9月から豚熱ワクチンの接種を開始した。接種は主に登録飼養衛生管理者によって行われ、結果としてワクチンの普及は迅速に進み、同年11月までに県内すべての農場へワクチンの交付が完了した。

豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針では、豚熱ワクチン接種に伴い、確実な接種の確認や子豚への接種適期の検討を目的として、免疫付与状況確認検査の実施が求められている。適期推定のためには母豚の中和抗体価の測定が必要となるが中和試験は結果判定に時間を要するという側面もあり、他県ではELISA法のSP値から推定する場合も多い。本県としても同様の方法での接種適期の推定を検討したが、一方でELISA法と中和試験の相関は県によって大きく異なり、ワクチン接種適期も農場毎に大きく異なるといった報告もあったため、1回目の免疫付与状況確認検査ではすべての検体でELISA法と中和試験の両方を実施した。

本報告ではその結果と、いくつかの知見が得られたので報告する。

## 2 材料と方法

本県における1回目の免疫付与状況確認検査の概要は図1に示す。なお統計解析について、採材の際には個体の産歴や農場のPRRSの浸潤状況、PRRSワクチンの接種の有無の聞き取りを行っており、これらの項目の比較も行った。

## 3 結果

### (1)陽性率

抗体価が2倍以上となった検体は4,647頭中4,571頭、陽性率は98.36%であった。また、免疫付与率80%以上の農場は163戸のうち161戸、98.77%であった(図2)。

材料と方法	
	免疫付与状況確認検査(1回目)
期間	R5.12月～R6.7月
対象	初回接種後40日以上経過した母豚
戸数	163戸
頭数	4,647頭(1戸あたり最大30頭)
方法	ELISA法(豚熱エライザキットII:ニッポンジーン) 中和試験(GPE-1株を用いた常法)
解析方法	統計ソフト(EZR)でノンパラメトリック検定
その他	個体の産歴、PRRS浸潤状況、 PRRSワクチン接種等の聞き取りを実施

図1

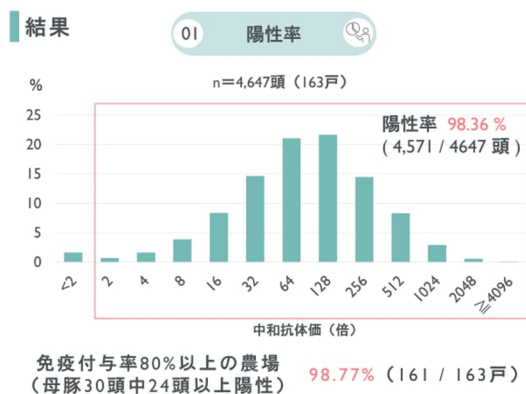


図2



### (2)接種後経過日数の比較

免疫付与率 80%以上であった 161 戸 4,587 頭について、ワクチン接種してから採材までに経過した日数毎の中和抗体価を比較した(接種後 90 日を基準として 30 日毎に分類)。ワクチン接種から 91 日以上経過している 3 群は、いずれもピーク値が 128 倍であるのに対し、90 日以下の群は 64 倍となった。幾何平均値(GM 値)についても、49 倍と 3 群と比べて低い結果となった(図 3)。

また、統計ソフトを用いてボンフェローニの多重比較を実施したところ、90 日以下の群のみいずれの 3 群に対しても有意差を認めた(図 4)。

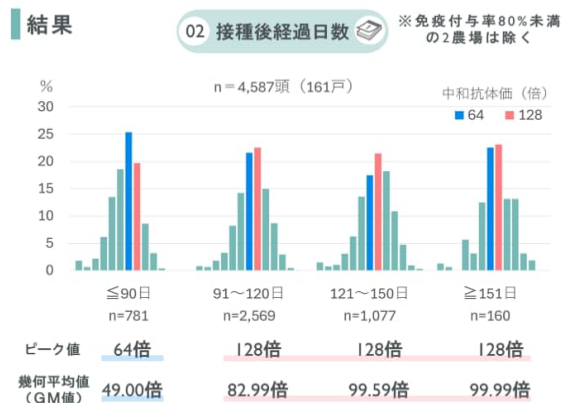


図 3

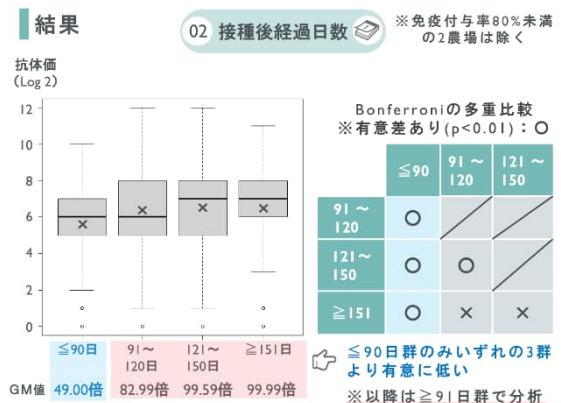


図 4

なお、この結果を受けて、以降はワクチン接種後 91 日以降の3群をまとめて 1 群(132 戸 3,806 頭)として分析した。

### (3)ELISA 法と中和試験

132 戸 3,806 頭の ELISA の SP 値は、ピーク値が 0.6~0.75 付近、平均値は 0.635 で、中央値は 0.643 であった(図 5)。また、中和試験の中和抗体価は、ピーク値が 128 倍、GM 値は 88.07 倍、中央値は 128 倍であり、本県における ELISA の SP 値と中和抗体価の相関については、相関係数は 0.7541 となり、正の相関を認めた(図 6)。

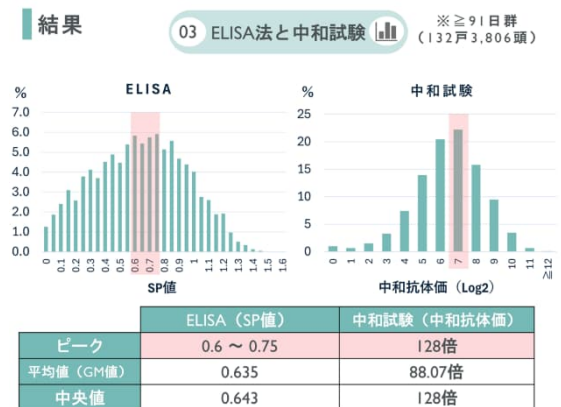


図 5

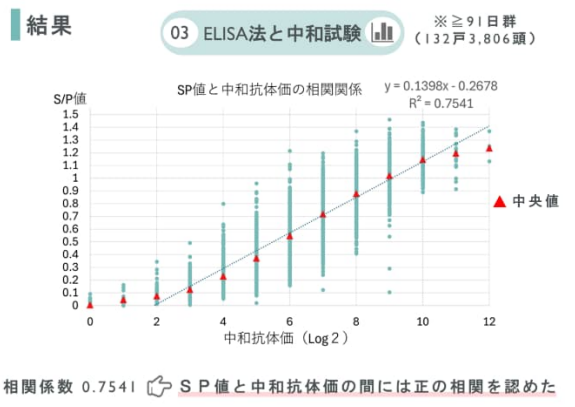


図 6

また、本州などのデータとの比較を行った。

ELISA 法の SP 値について、食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会第 98 回牛豚等疾病小委員会資料 7 で示された本州などのデータでは、第 1 世代母豚(n=6,548 頭)のピークは SP 値 1.0 付近であり、本県のピークと比較して高い値であった(図 7)。

また中和抗体価について、Ukita らの国内の 7 農場 1,181 頭の ELISA 法と中和試験の両方を実施しているデータから、SP 値 1.0 付近の中和抗体価は 1024 倍程度と推察され、前述同様に本県と比較して高い値であった(図 8)。

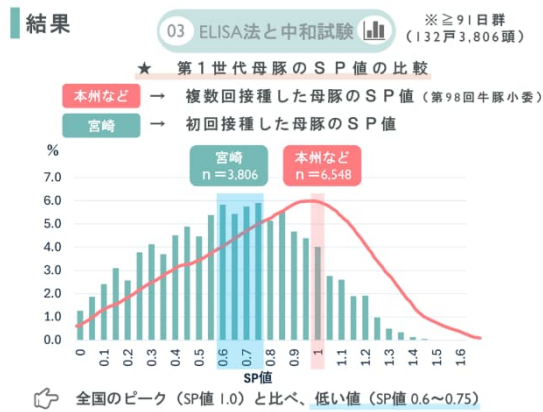


図 7

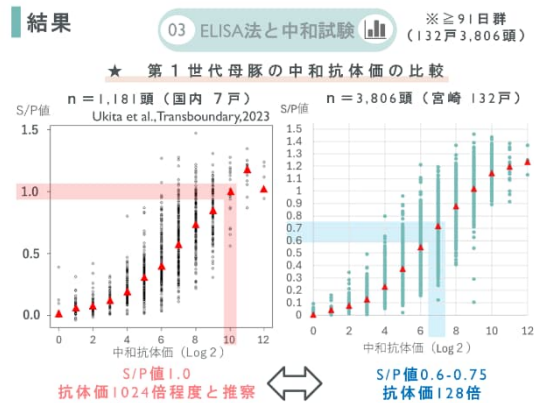


図 8

(4)ワクチン接種者(獣医師/登録飼養衛生管理者)の比較

獣医師接種農場 19 戸 490 頭の GM 値は 77.36 倍、登録飼養衛生管理者(以下、管理者)接種は 113 戸 3,316 頭の GM 値は 89.77 倍であり、マン・ホイットニー U 検定の結果、有意差は認めなかった(図 9)。

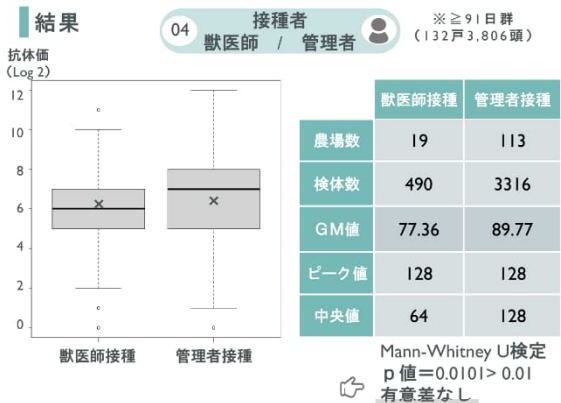


図 9

(5)飼養形態の比較

繁殖農場 34 戸 990 頭の GM 値は 114.5 倍、一貫農場 98 戸 2,816 頭の GM 値は 80.3 倍であり、マン・ホイットニー U 検定の結果、繁殖農場が有意に高い結果となった(図 10)。

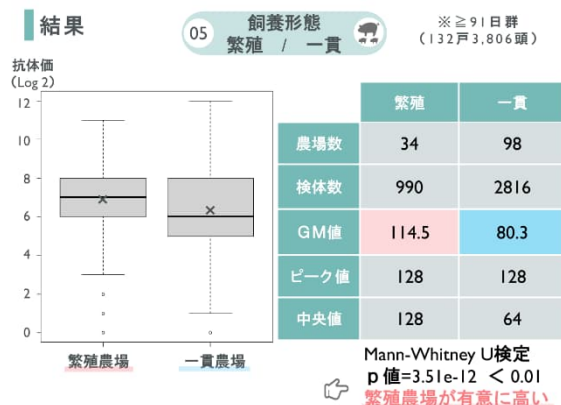


図 10

### (6)飼養規模の比較

3,000頭以上を飼養する大規模農場 35戸 1,049頭のGM値は89倍、大規模以外の農場 97戸 2,757頭のGM値は87.72倍となり、マン・ホイットニーU検定の結果、有意差は認めなかった(図11)。

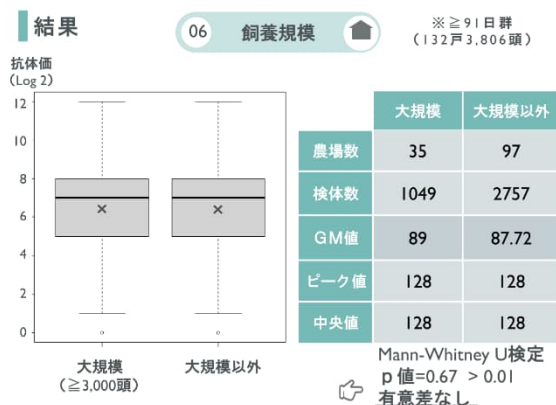


図11

### (7)産歴の比較

産歴が0~2産目の群、3~5産目の群、6産目以降の群、産歴不明の群の4群に分類した。GM値はそれぞれ133.5倍、82.94倍、57.61倍、59.44倍となった。ボンフェローニの多重比較では産歴不明の群を除いてそれぞれの群で有意差を認め、若い母豚ほど有意に高い結果となった(図12)。

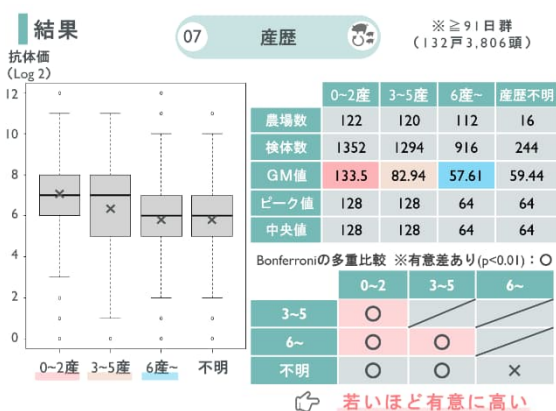


図12

### (8)PRRSに関する比較

農場からの聞き取りをもとに農場の浸潤状況やワクチン接種の有無により4群に分類した(図13)。なお、浸潤状況が不明と回答した農場は分析から除外した。GM値はそれぞれ①127.3倍、②80.48倍、③86.83倍、④84.86倍となり、ボンフェローニの多重比較では①のいずれの群に対しても有意差を認め、PRRSフリーの農場で有意に高い結果となった(図14)。

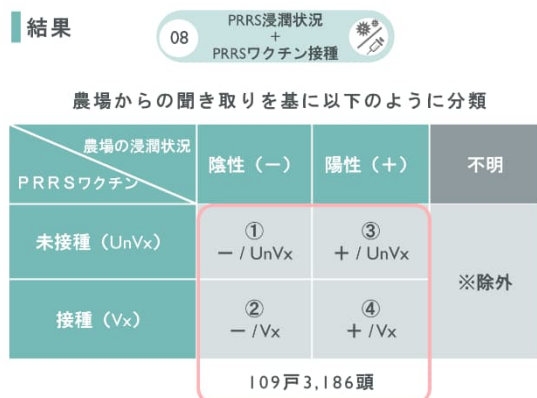


図13

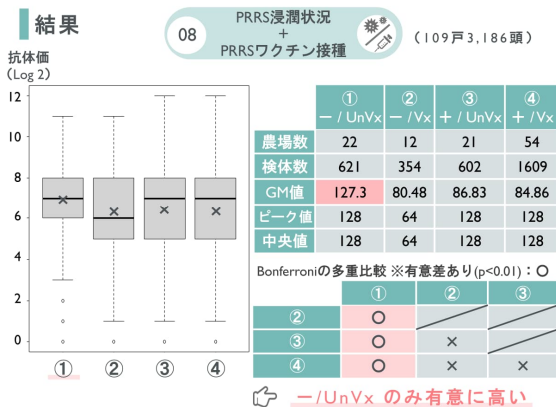


図14

#### 4 まとめ

全体として高い陽性率であったことから、ほとんどの農場で確実にワクチン接種できていることを確認した。一方で接種後経過日数の比較では接種後 90 日以下の群で有意に低かった。これを除外した接種後 91 日以降の群での本県の SP 値と中和抗体価のピーク値は、本州などの報告と比べて低いと推察され、その要因について調査した。

豚熱ワクチン抗体価に関与する要因として、ワクチン接種者及び飼養規模による有意差は認められなかった一方で、飼養形態、産歴及び PRRS に関する項目で有意差が認められた。ただし、飼養形態の比較で繁殖農場が有意に高くなったことについては臨床獣医師から理由が不明であるといった意見があり、改めて内容を精査したところ、繁殖農場には PRRS 陰性かつ PRRS ワクチン未接種の農場のデータが多く含まれていることが判明し、これが有意差に影響した可能性が考えられた(図 15)。

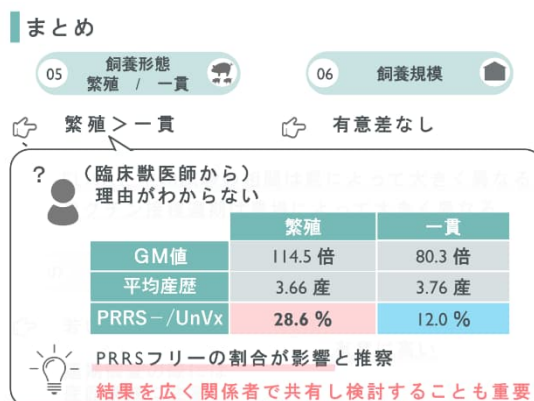


図 15

以上のことから、豚熱ワクチンに対する母豚の中和抗体価は、若い母豚ほど有意に高く、PRRS フリーの農場で有意に高い傾向にあると考えられ、子豚のワクチン接種適期の推定のために母豚の中和抗体価を測定する場合には、ワクチン接種後経過日数や農場の母豚の産歴構成に考慮して採材するのが望ましいと考えられた。また、抽出にて検査を行う農場を選定する際には、PRRS の浸潤状況や PRRS ワクチン接種の有無も考慮することが望ましいと考えられた。

一方で、今回調査した項目のいずれにおいても大幅な抗体価の差は認めず、本県のピーク値が本州などの既報のデータと比較して低くなった要因の特定には至らなかったため、今後も継続してデータを蓄積することが重要である。

最後に、今後は年1回の検査を予定しており、母豚は今回得られた知見を基に選定し、抽出検査を行う予定としている(図 16)。ワクチン接種回数の増加や世代交代によって抗体価がどう変動するか注視し、豚熱の発生予防対策に役立てたい。

今後について

	免疫付与状況確認検査 (2回目~)	
	母豚	肥育豚
頻度	1回 / 年	
対象	抽出農場	抽出+認定農場* ※管理者接種農場
戸数	30戸+α	154戸
頭数	30頭 / 1戸	
方法	ELISA法、中和試験	ELISA法

ワクチンの接種回数や世代交代による抗体価の動向に注視し、豚熱の発生予防対策に役立てたい

図 16

## 業績発表会 演題一覧

(平成27年度～令和6年度)

- 九州ブロック家畜保健衛生業績発表会演題
- ◎ 全国家畜保健衛生業績発表会演題
- ◇ 日本獣医三学会九州地区学会発表演題

年度	番号	題名	発表者
平成二十七年 度(2015)	1	宮崎家保管内における牛受精卵移植の現状	宮崎家畜保健衛生所 水流千景
	◇ 2	農家負担軽減を考慮した牛白血病清浄化へ向けた取り組み	宮崎家畜保健衛生所 柏木典子
	3	管内で発生した牛サルモネラ症の清浄化への取り組み	延岡家畜保健衛生所 高橋由佳
	◎ 4	オーエスキー病清浄化に向けた取り組み(第6報)	都城家畜保健衛生所 渡山恵子
	5	管内における豚オーエスキー病清浄地域維持の取り組み	延岡家畜保健衛生所 栗林正弘
	○ 6	豚流行性下痢防疫マニュアルに基づく特別防疫対策地域における取り組み	宮崎家畜保健衛生所 畑和宏
	7	豚流行性下痢発生農場における対応事例	都城家畜保健衛生所 兼田稔也
	8	特定疾病フリー地域におけるPRRS清浄性維持対策の現状と課題	宮崎家畜保健衛生所 西田倫子
	9	高病原性鳥インフルエンザ発生時の防疫対応の検証	宮崎家畜保健衛生所 白井葵
	10	県内における高病原性鳥インフルエンザ発生時の疫学調査	都城家畜保健衛生所 渡邊拓一郎
	11	管内で発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫対応	延岡家畜保健衛生所 重永あゆみ
	12	県内で発生したヨーネ病の摘発	宮崎家畜保健衛生所 谷ヶ久保 佑也
	13	黒毛和種繁殖農場における大脳皮質壊死症の発生事例	都城家畜保健衛生所 竹内僚子
	○ 14	県内で発生した高病原性鳥インフルエンザ2例の病理学的検索	宮崎家畜保健衛生所 丸田哲也
	◇ 15	採卵鶏農場で発生した腎炎型伝染性気管支炎の一例	宮崎家畜保健衛生所 福田美津紀
	◇ 16	ブロイラー農場で発生した壊疽性皮膚炎の一例	都城家畜保健衛生所 吉田恵理苗
平成二十八年 度(2016)	1	家畜人工授精業務における指導記録の管理方法の見直しと新たな指導方法の検討	都城家畜保健衛生所 横山水咲
	2	西臼杵地域における肉用牛繁殖農場への生産性向上巡回指導	延岡家畜保健衛生所 高見哲也
	3	管内農場における農場HACCP取り組みへの支援	宮崎家畜保健衛生所 畑和宏
	4	都城家保管内における牛のウイルス性異常産発生状況及び啓発活動について	都城家畜保健衛生所 兼田稔也
	5	畜産経営コンサル力強化事業(養豚部門)の概要と展望	都城家畜保健衛生所 山下裕之
	6	と畜場における車両消毒指導	都城家畜保健衛生所 内村 慎之介
	7	疾病対策指導による衛生管理意識の改善事例	延岡家畜保健衛生所 栗林正弘
	8	特定疾病フリー地域におけるPRRS清浄性維持対策の課題と展望	宮崎家畜保健衛生所 西田倫子
	9	県西地域におけるイノシシ飼養農家調査	都城家畜保健衛生所 渡山恵子
	◎ 10	ブロイラー農場における野生動物動態調査と高病原性鳥インフルエンザウイルス侵入リスク低減対策	宮崎家畜保健衛生所 田崎友紀
	11	管内採卵鶏場における産卵率向上に向けた取り組み	都城家畜保健衛生所 吉田恵理苗
	12	管内におけるツマアカスズメバチの捕獲調査及び啓発活動	宮崎家畜保健衛生所 白井葵
	13	行政機関におけるバーチャルスライドシステムの構築	宮崎家畜保健衛生所 橋本 健二郎
	○ 14	県内でのシャモンダウイルスの関与を疑う牛異常産事例	宮崎家畜保健衛生所 福田美津紀
	◇ 15	シャモンダウイルスの関与を疑う牛異常産事例の病理学的検索	宮崎家畜保健衛生所 丸田哲也
	◇ 16	管内で発生したシャモンダウイルスの関与が疑われる牛の異常産事例	延岡家畜保健衛生所 高橋由佳
	◇ 17	県内で確認された持続感染牛由来BVDVの遺伝子解析	宮崎家畜保健衛生所 瀬戸山 博則
	18	<i>Aqqreqatibacter actinomycetemcomitans</i> の関与が疑われた牛の胸膜肺炎事例	宮崎家畜保健衛生所 谷ヶ久保 佑也
	19	黒毛和種子牛でみられた細菌感染を伴う仮性動脈瘤	宮崎家畜保健衛生所 鬼塚 康晴
	○ 20	一酪農場において散発的に発生した出血性腸症候群3症例	宮崎家畜保健衛生所 遠矢 宏美
	21	一酪農場におけるネオスポラ浸潤状況調査	都城家畜保健衛生所 倉永 真成



年度	番号	題名	発表者
平成二十九年 度 (2017)	1	牛白血病ウイルス(BLV)高浸潤農場における清浄化への取組	宮崎家畜保健衛生所 畑 和宏
	2	牛白血病高浸潤農場における経営を優先した清浄化対策	延岡家畜保健衛生所 上野 明香
	3	管内酪農場における牛白血病清浄化対策の取組	宮崎家畜保健衛生所 川上 あかり
	4 ◇	西臼杵地域における牛白血病フリー対策(第二報)	延岡家畜保健衛生所 日高 慎也
	5 ○	野生イノシシにおけるオーエスキー病モニタリング調査	都城家畜保健衛生所 渡山 恵子
	6	特定疾病フリー地域におけるPRRS清浄性維持対策の課題と展望 第二報	宮崎家畜保健衛生所 西田 倫子
	7	宮崎県西地域における暑熱被害の一考察	都城家畜保健衛生所 吉田 恵理苗
	8	高病原性鳥インフルエンザの発生予防を目的とした管内養鶏場の巡回指導	宮崎家畜保健衛生所 平野 佑季
	9	宮崎県で発生した高病原性鳥インフルエンザに係る例外協議	延岡家畜保健衛生所 関谷 亜由美
	10	ブロイラー農場における鶏舎周囲環境の細菌汚染実態調査	延岡家畜保健衛生所 齊藤 幸恵
	11 ◎	口蹄疫類症鑑別事例及び病性鑑定に関する一考察	宮崎家畜保健衛生所 松本 春菜
	12	管内における牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛の発生事例	都城家畜保健衛生所 倉永 眞成
	13	宮崎県内で初となるC群ロタウイルスによる牛の下痢症	宮崎家畜保健衛生所 瀬戸山 博則
	14 ○	大脳に主座する血管病変を特徴とした豚サーコウイルス関連疾病の一例	都城家畜保健衛生所 丸田 哲也
	15 ◇	一養豚場におけるSalmonella 04:i:-による下痢発症事例	都城家畜保健衛生所 黒澤 愛子
	16	県内で発生したH5N6亜型高病原性鳥インフルエンザ2例の病理学的検索	宮崎家畜保健衛生所 重永 あゆみ
	17	伝染性気管支炎ウイルスの関与が疑われた病性鑑定事例	宮崎家畜保健衛生所 鬼塚 康晴
平成三十年 度 (2018)	1	管内における受精卵供給事業の推移と地域採卵の普及	都城家畜保健衛生所 陸田 洋介
	2	繁殖雌牛共同牛舎を利用する農場への生産性向上巡回指導	延岡家畜保健衛生所 北山 歩
	3	県西地域における地方病性牛白血病清浄化に向けた取組	都城家畜保健衛生所 坂口 浩平
	4	管内2酪農場におけるSalmonella 04:i:-清浄化への取組	宮崎家畜保健衛生所 川上 あかり
	5 ◎	豚流行性下痢の再発を繰り返す大規模農場密集地区における非発生農場復帰への連携した取組	宮崎家畜保健衛生所 渡山 恵子
	6	豚流行性下痢発生農場における清浄化対策と生産性向上を目指した取組	都城家畜保健衛生所 黒澤 愛子
	7 ◎	鶏舎点検表を活用した管内全養鶏場の巡回指導と水辺周辺農場の重点指導による防疫対策	宮崎家畜保健衛生所 平野 佑季
	8 ○	平成30年度の管内養鶏農家への全戸巡回指導の取組	都城家畜保健衛生所 中山 瑞紀
	9	センサーカメラを用いたブロイラー農場での野鳥調査と対策	宮崎家畜保健衛生所 弓戸 猛
	10	抗体陽性若齢牛で発症した牛白血病3例の鑑別診断	宮崎家畜保健衛生所 鬼塚 康晴
	11	牛トロウイルスの関与を疑う下痢の発生と県内浸潤状況調査	宮崎家畜保健衛生所 瀬戸山 博則
	12	黒毛和種子牛のSalmonella Muenchenによる敗血症疑い事例	都城家畜保健衛生所 倉永 眞成
	13 ◇	県内で発生したHistophilus somniによる子牛の胸膜炎2症例	宮崎家畜保健衛生所 大場 恵美
	14 ○	乳用子牛における乳頭糞線虫と核内コクシジウムの混合感染の一事例	都城家畜保健衛生所 近藤 奈津子
	15	頭蓋内に限局してみられた若齢牛の前駆B1細胞性リンパ腫	都城家畜保健衛生所 小林 駐在
	16	黒毛和種繁殖農場で発生した白筋症	宮崎家畜保健衛生所 田崎 友紀
	17 ◇	血小板減少性紫斑病の疑い事例について	都城家畜保健衛生所 宮川 陽一
	18	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザ発生事例の統計処理を用いた疫学調査	延岡家畜保健衛生所 岡野 宏和
	19	宮崎県で初めて確認されたニホンミツバチのアカリンダニ症	延岡家畜保健衛生所 鍋倉 良輔
令和元 年度 (2019)	1	家畜人工授精業務の適性管理に関する新たな取組	延岡家畜保健衛生所 北山 歩
	2	東臼杵地域におけるロコミ方式による牛白血病準清浄化	延岡家畜保健衛生所 小野 英俊
	3	県西地域における地方病性牛白血病清浄化に向けた取組 第2報	都城家畜保健衛生所 栗林 正弘
	4 ○	管内観光牧場における越境性動物疾病の防止対策について	都城家畜保健衛生所 宮川 陽一
	5 ◎	センサーカメラを活用した食肉目野生動物に対する鶏舎侵入防止対策	宮崎家畜保健衛生所 弓戸 猛
	6	県南地域における駐在業務の概要と今後のあり方	宮崎家畜保健衛生所 日南 駐在
	7 ◇	黒毛和種肥育牛の鼻眼脳型播種性接合菌症の一例	都城家畜保健衛生所 米山 伸
	8 ◇	宮崎県内でのデアギュラウイルス浸潤状況と牛異常産	宮崎家畜保健衛生所 瀬戸山 博則
	9	Pasteurella multocida が分離された心房内心内膜炎の1症例	宮崎家畜保健衛生所 谷ヶ久保 佑也
	10	後躯麻痺を呈した子牛2症例の病理学的検索	宮崎家畜保健衛生所 重永 あゆみ
	11 ○	牛の横隔膜を原発とする胎児型横紋筋肉腫の1症例	宮崎家畜保健衛生所 鬼塚 康晴
	12	白筋症を併発した黒毛和種子牛の腎異形成	宮崎家畜保健衛生所 田崎 友紀

年度	番号	題 名	発 表 者
令和二年度 (2020)	1	県西地域における地域ぐるみでの牛伝染性リンパ腫清浄化に向けた取組 第3報	都城家畜保健衛生所 栗林 正弘
	2	呼吸器病がまん延している農場への迅速対応事例	都城家畜保健衛生所 日高 薫
	3	管内キャンプ場等での肉製品廃棄による豚熱・アフリカ豚熱感染リスク啓発を目的としたポスター設置等の取組	都城家畜保健衛生所 坂本 拓己
	4 ○	口蹄疫禍地域における豚疾病フリーの取組～復興の10年～	宮崎家畜保健衛生所 渡山 恵子
	5	若手獣医師職員を対象とした実践的な高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会	都城家畜保健衛生所 小林駐在 北山 歩
	6 ◎	県内の牛異常産関連アルボウイルス流行調査と異常産発生状況	宮崎家畜保健衛生所 瀬戸山 博則
	7 ◇	ピートウイルスの関与を疑う牛異常産3例の病理学的検索	宮崎家畜保健衛生所 日高 慎也
	8 ◇	黒毛和種肥育牛における非定型抗酸菌症を呈した一症例	都城家畜保健衛生所 米山 伸
	9	重度の骨髄低形成を示した黒毛和種子牛の一例	延岡家畜保健衛生所 野村 真知子
	10	管内における子牛胸腺低形成の発生と疾病状況について	延岡家畜保健衛生所 山本 智喜
	11	輸入ストローによる黒毛和種牛のライグラススタッガー	宮崎家畜保健衛生所 田崎 友紀
	12	宮崎県内で発生したアカバナウイルスの関与を疑う豚異常産5例	宮崎家畜保健衛生所 本田 真由美
	13 ○	宮崎県内で分離された <i>Streptococcus suis</i> の遺伝子学的解析	宮崎家畜保健衛生所 吉田 恵理苗
令和三年度 (2021)	1	県央地域における牛伝染性リンパ腫検査の現状と課題	宮崎家畜保健衛生所 上西 鋼騎
	2 ◇	酪農場における効果的な消毒薬及び不活化ワクチンを用いた牛サルモネラ症清浄化対策	都城家畜保健衛生所 米山 伸
	3	代謝プロファイルテストを反映したビタミンAの飼料添加による黒毛和種繁殖農場の繁殖成績向上への取組	延岡家畜保健衛生所 甘城 佑季
	4 ○	農場内への野生イノシシ侵入防止を目的とした防護柵の設置について	都城家畜保健衛生所 坂本 拓己
	5	ウインドレス鶏舎における防疫作業の検証と野生動物動向調査	宮崎家畜保健衛生所 沖吉 悠太郎
	6	都城家畜管内における高病原性鳥インフルエンザ防疫対応の課題と改善策について	都城家畜保健衛生所 弓戸 猛
	7 ○	西臼杵管内でのHPAI発生に備えた取組	延岡家畜保健衛生所 高千穂駐在 倉永 真成
	8	高病原性鳥インフルエンザの発生と経営再開までの取組	延岡家畜保健衛生所 三城 せいら
	9	感染症防疫資材共同管理システムの構築	宮崎家畜保健衛生所 宮川 陽一
	10	黒毛和種一貫経営農場で発生した <i>Salmonella</i> Dublin による牛サルモネラ症の清浄化に向けた対策	都城家畜保健衛生所 松本 佳織
	11 ◇	病性鑑定で牛サルモネラ症と診断された14症例の比較	都城家畜保健衛生所 中森 沙織
	12	児湯地域におけるPRRSの拡大要因に関する疫学統計調査	宮崎家畜保健衛生所 関口 真樹
	13	2020-2021年における高病原性鳥インフルエンザ発生に伴うウイルス検査対応	宮崎家畜保健衛生所 鍋倉 良輔
	14 ◎	2020年度宮崎県内で発生したH5N8亜型高病原性鳥インフルエンザ11症例の病理組織学的検索	宮崎家畜保健衛生所 日高 慎也
令和四年度 (2022)	1	東臼杵地域における牛伝染性リンパ腫清浄化への取組 (第1報)	延岡家畜保健衛生所 山本 智喜
	2 ◇	西臼杵地域における牛伝染性リンパ腫清浄性維持体制の構築	延岡家畜保健衛生所 高千穂駐在 倉永 真成
	3	養豚場での優良事例集等の活用による伝わりやすい巡回指導	宮崎家畜保健衛生所 関口 真樹
	4 ○	管内養鶏場の適正な埋却地の確保に向けた取組	都城家畜保健衛生所 北野 典子
	5	宮崎県で初めて確認されたヨーロッパ腐蛆病	宮崎家畜保健衛生所 神崎 由梨
	6	管内の動物用医薬品販売業者への立入状況について	宮崎家畜保健衛生所 上野 明香
	7	ワクチン接種農場で発生した牛ウイルス性下痢ウイルス野外株感染事例4例	宮崎家畜保健衛生所 本田 真由美
	8 ○	若齢牛で発症したリンパ節の腫大を伴わない地方病性牛伝染性リンパ腫	宮崎家畜保健衛生所 米山 伸
	9	牛飼養環境中における <i>Rhodococcus equi</i> の分布状況調査	宮崎家畜保健衛生所 吉田 恵理苗
	10	牛由来 <i>Streptococcus ruminantium</i> の生化学性状及び薬剤耐性調査	宮崎家畜保健衛生所 中山 瑞紀
	11 ◇	県内で初めて <i>Streptococcus parasuis</i> が分離された子牛の化膿性髄膜炎	都城家畜保健衛生所 松本 佳織
	12	黒毛和種の牛に発生したロドコッカス・エクイ感染症2症例	延岡家畜保健衛生所 谷ヶ久保 佑也
	13 ◎	同系列複数農場で豚テシオウイルス性脳脊髄炎が疑われた1例	都城家畜保健衛生所 奥平 沙紀



年度	番号	題 名	発 表 者
令和五年度 (2023)	1	超音波診断装置を活用した直腸検査等の技術指導による若手家畜人工授精師の育成及び繁殖成績向上に向けた取組	延岡家畜保健衛生所 坂本 菜摘
	◇	養豚密集地域でのPRRS免疫安定化に向けた地域防疫強化への取組	宮崎家畜保健衛生所 関口 真樹
	◎	登録飼養衛生管理者を主体とした予防的豚熱ワクチン初回一斉接種の取組と課題	宮崎家畜保健衛生所 瓜生 敬博
	4	野生いのししの新たな豚熱検査体制の構築	宮崎家畜保健衛生所 鍋倉 良輔
	○	高病原性鳥インフルエンザ発生時の埋却地対応と適切な埋却地確保に向けた取組	宮崎家畜保健衛生所 吉田 智美
	6	管内における高病原性鳥インフルエンザの発生と経営再開へ向けた防疫対策強化の取組	延岡家畜保健衛生所 柿木 彩子
	7	<i>Rhodococcus equi</i> 環境調査簡易検査法の検討	宮崎家畜保健衛生所 奥濱 恵理苗
	◇	ヒストフィルス・ソムニ感染症が疑われた黒毛和種肥育牛の死亡事例について	都城家畜保健衛生所 沖吉 悠太郎
	9	脊椎弯曲のみられた新生子牛のネオスポラ症の1例	宮崎家畜保健衛生所 日高 慎也
	○	管内牛飼養農場で発生した銅中毒の事例	都城家畜保健衛生所 伊藤 学志
	11	異所性石灰沈着及び白筋症を併発した黒毛和種子牛の腎異形成	宮崎家畜保健衛生所 高橋 由佳
	12	県内で分離された <i>Brachyspira hyodysenteriae</i> の薬剤耐性状況調査	宮崎家畜保健衛生所 中山 瑞紀
令和六年度 (2024)	1	牛ヨーネ病の清浄化対策とその課題	宮崎家畜保健衛生所 風見 清
	○	牛ヨーネ病の清浄農場復帰の早期化に取り組んだ事例	都城家畜保健衛生所 弓戸 猛
	3	家畜人工授精所の適正な業務実施のための立入検査～家畜改良増殖法の改正等による変化～	宮崎家畜保健衛生所 倉永 真成
	4	豚熱及びアフリカ豚熱の発生を想定した管内養豚農場の防疫対応計画の策定	延岡家畜保健衛生所 遠矢 宏美
	5	豚熱ワクチン接種に係る登録飼養衛生管理者の養成に関する取組	都城家畜保健衛生所 上西 鋼騎
	◇	養豚密集地域における豚熱免疫付与状況等確認検査の対応	都城家畜保健衛生所 伊藤 学志
	7	2023年度に県内で確認された流行性出血病ウイルス血清型6の流行	宮崎家畜保健衛生所 三城 せいら
	○	宮崎県内の牛で確認されたロドコッカス・エキイ感染症6症例の病理学的検索	宮崎家畜保健衛生所 日高 慎也
	◇	黒毛和種繁殖牛における腹腔内及び胸腔内に多数の肉芽腫性結節を認めた <i>Nocardia africana</i> による牛ノカルジア症	宮崎家畜保健衛生所 米山 伸
	10	<i>Salmonella</i> Typhimurium(04:i:-)が分離された子牛の化膿性髄膜炎の一例	延岡家畜保健衛生所 西田 憲史
	◎	母豚の豚熱ワクチン抗体価に影響を与える要因分析	宮崎家畜保健衛生所 鍋倉 良輔

発行元 宮崎県農政水産部 〒880-8501  
畜産局 宮崎市橘通東2丁目10-1  
家畜防疫対策課 TEL 0985-26-7139